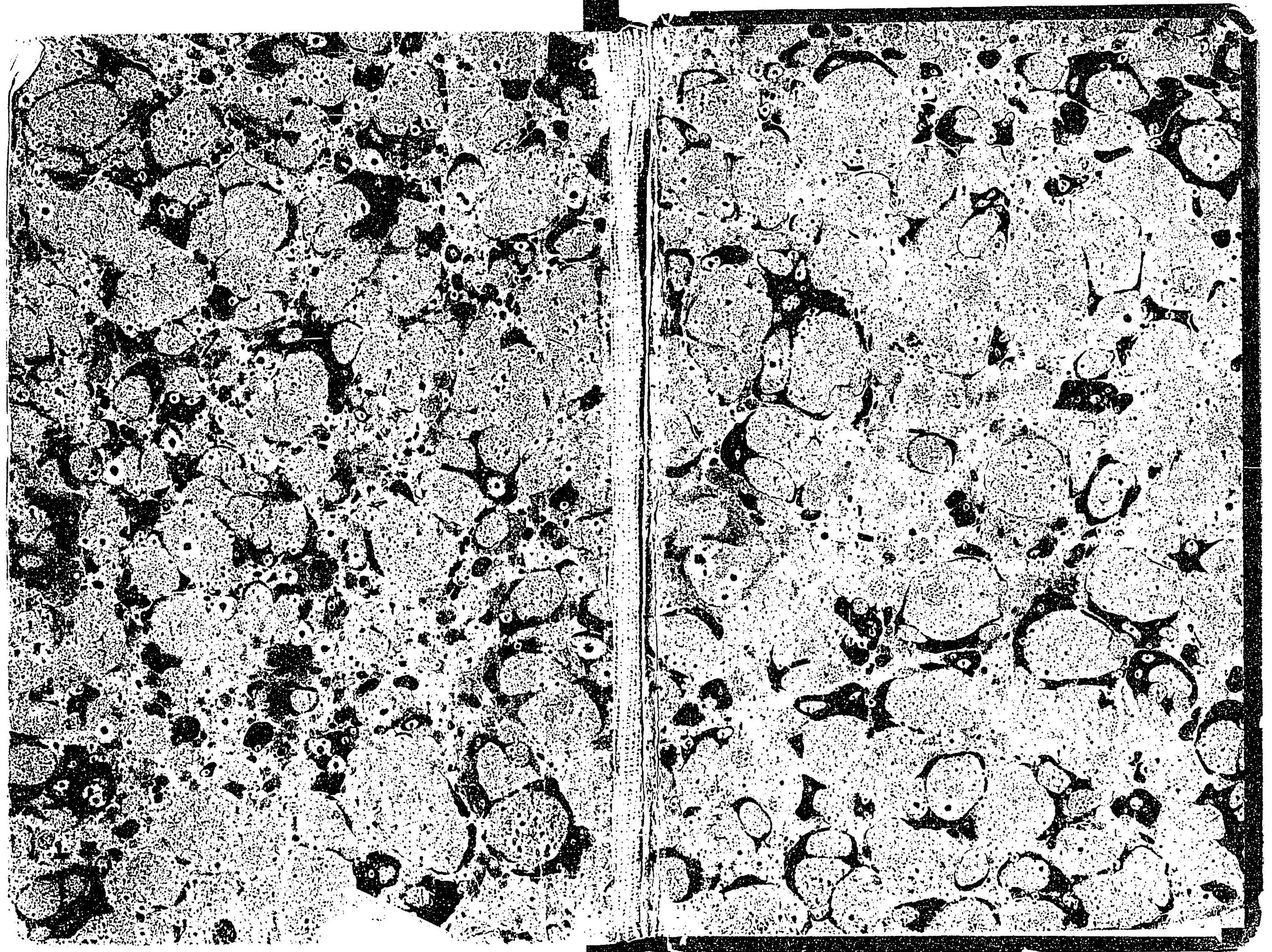


大日本教育會館

| | | | |
|---|---|---|---|
| 九 | 三 | 五 | 一 |
| 函 | 架 | 號 | 冊 |

萬國名所圖





1936

GUIDE BOOK

BY TAWOKI J SUSUKA
行旅界世

萬國名所圖繪

河津祐之先生題字
土居通豫先生序
南枝醇先生閱
青木恒三郎編輯

亞非利加
亞西尼亞
兩洲之部

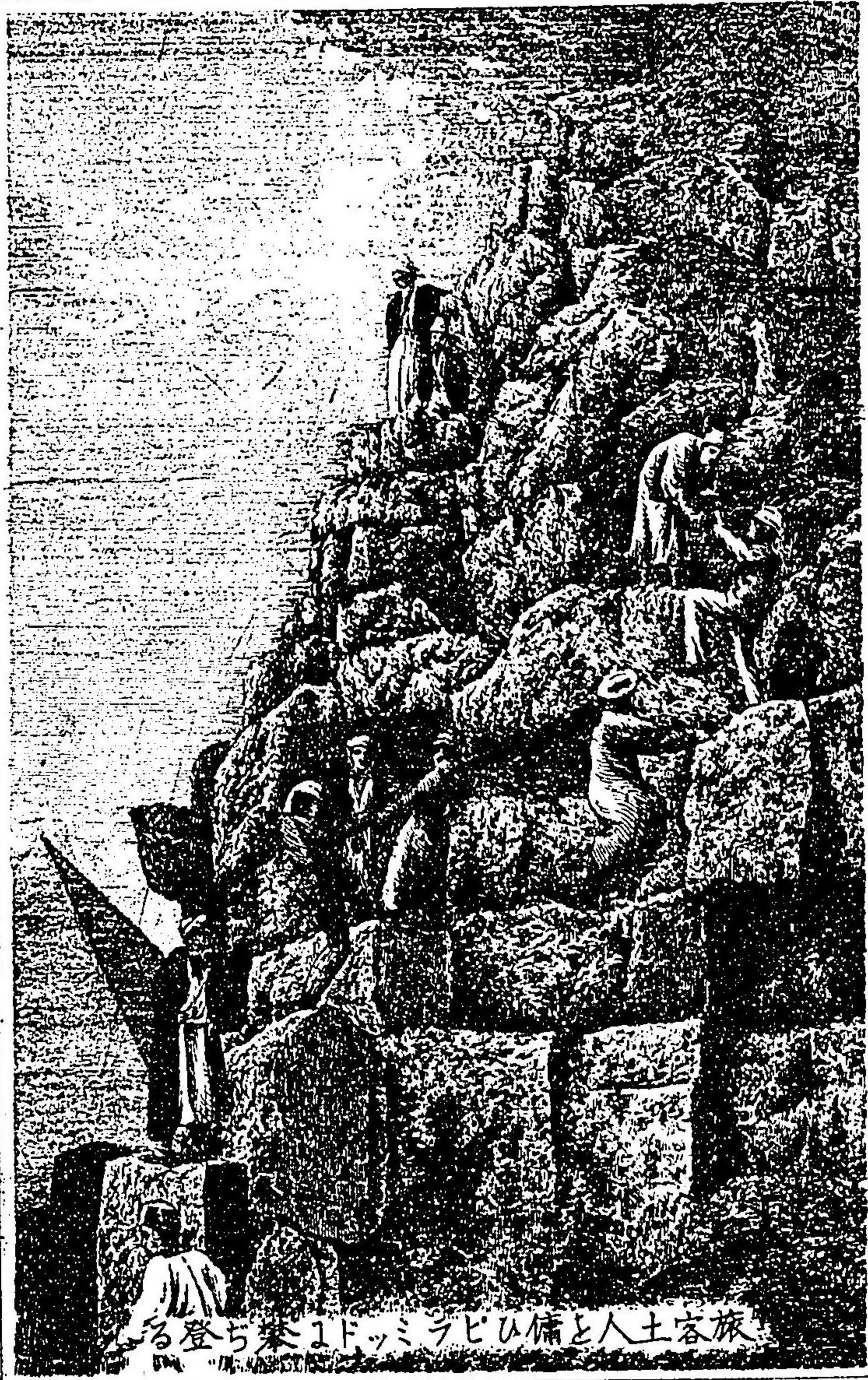
嵩山堂梓

本書は即ち阿非利加洲
 而して右の大洲は
 周囲の事物皆異
 埃及國よも外
 奇異不駭者多し
 獅子犀象豹駝
 猿猴棲息喧嘩
 沙漠に駝鳥間遊し
 死水に鱉魚許多り
 荆棘茅廬を室とし

明治十九年五月十日内務省附録

大洋洲の旅行あり
 熱帯野蠻の土地あり
 名所並み旧跡は
 風土人情一變し
 彼の阿非利加の内地は
 山林バラハブ巨木あり
 荆棘中は巨蟒あり
 湖水河流に河馬棲み
 又彼の蠢愚の蠻民は
 蟲豸人肉等を食ひ

TRAVELLERS CLIMBING UP TO PYRAMID
WITH A LEADER OF INHABITANT.



旅客土人といひピラミッドに登る

松盛堂長瀬銅版製

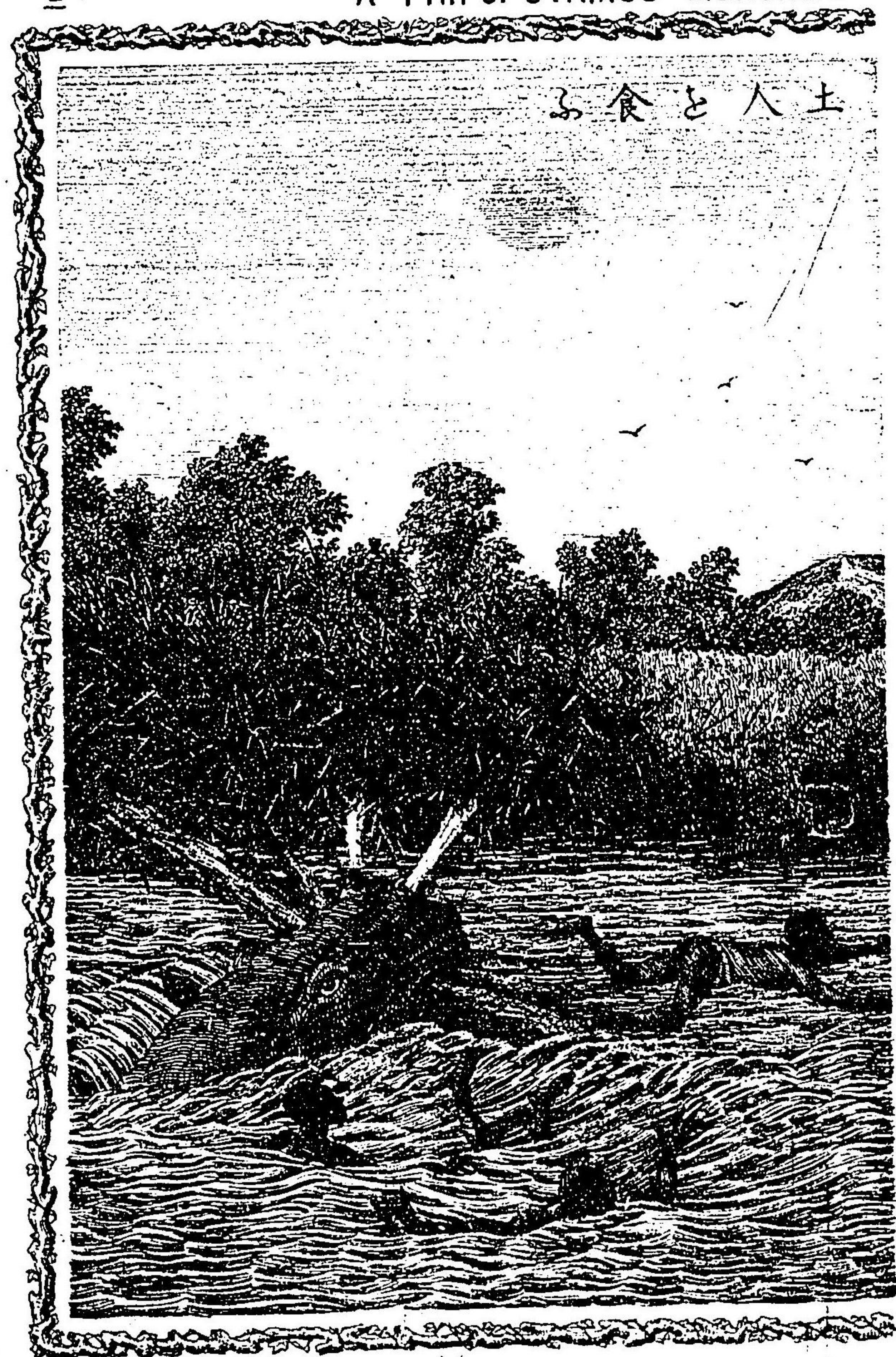
右らの猛獸と格闘し
衆を率ひて抄掠はく
虐使鞭撻亦賣て
苛酷慘阻無慈悲ある
讀者の耳目を新ふす
大洋洲の概略は
皆植民を以て利用し
其マイクロニシア中
諸島を隅々巡遊し
クルソーなる田中氏の

或は腕力強にもの
壯者を獵て奴隸し
屠殺犠牲供す等
蠻族社會の實況は
英蘭佛葡の領地も
自國の菜園寶庫とす
小笠原島我屬地
彼の東洋のロビンソン
履歷を述べて筆を擱む

編者識

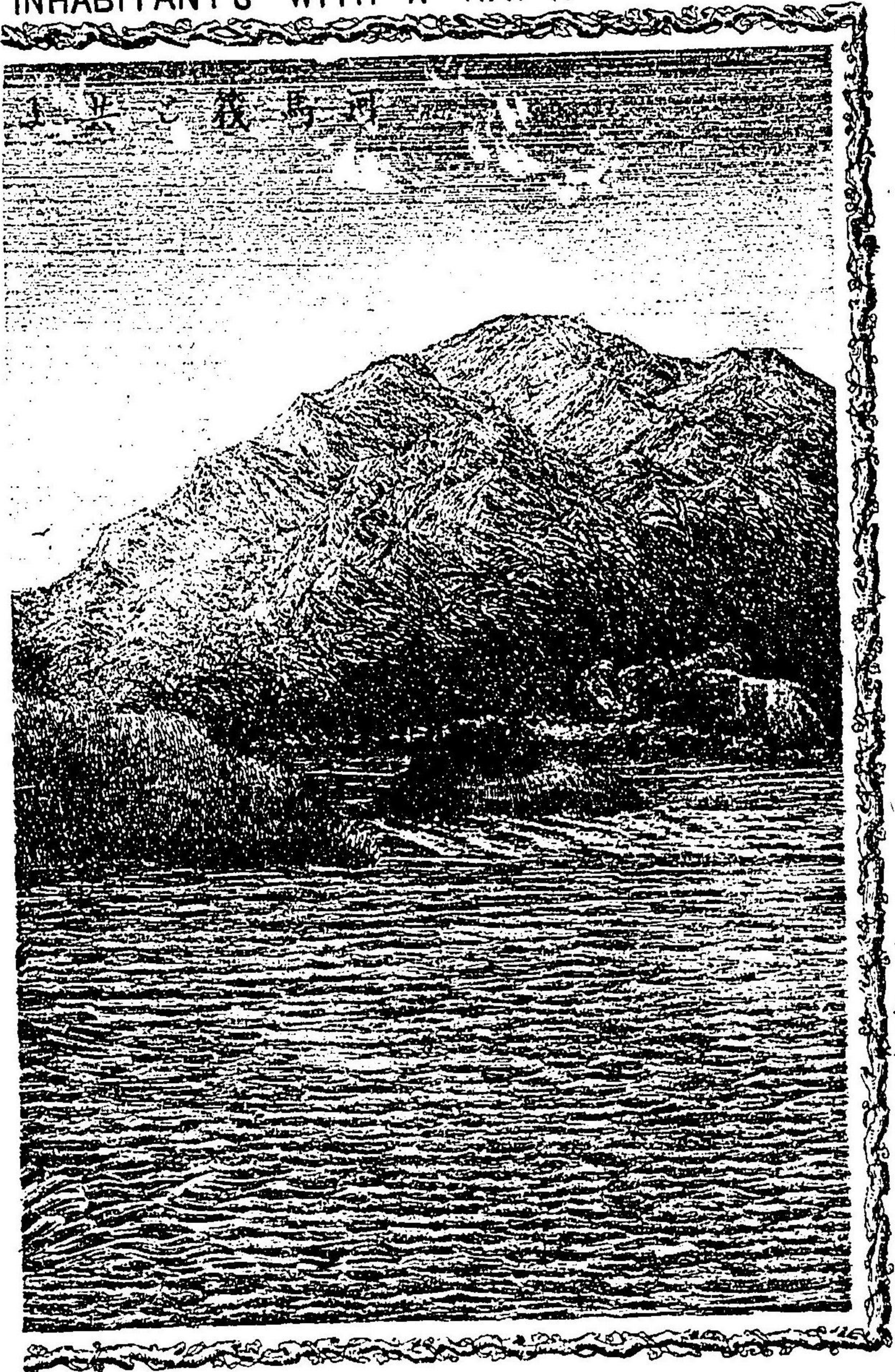
A PHIPOPOTAMOS MUNCHES

土人との食



INHABITANTS WITH A RAFT.

馬場筏の住人



AN AUSTRALIAN INHABITANTS
HUNTING THE KANGAROOS,

四



澳大利土人與袋獸之獵

松島全長源繪

欠

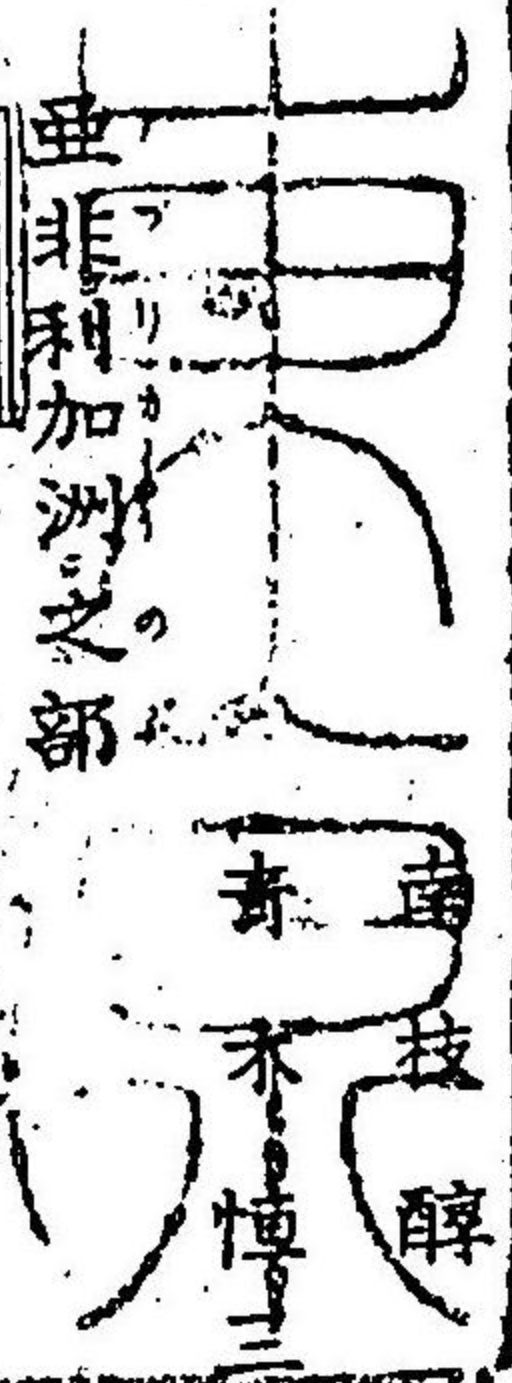
MISSING

VIEW OF THE NIRE RIVER.



松本實

世界各國名所圖繪卷之五

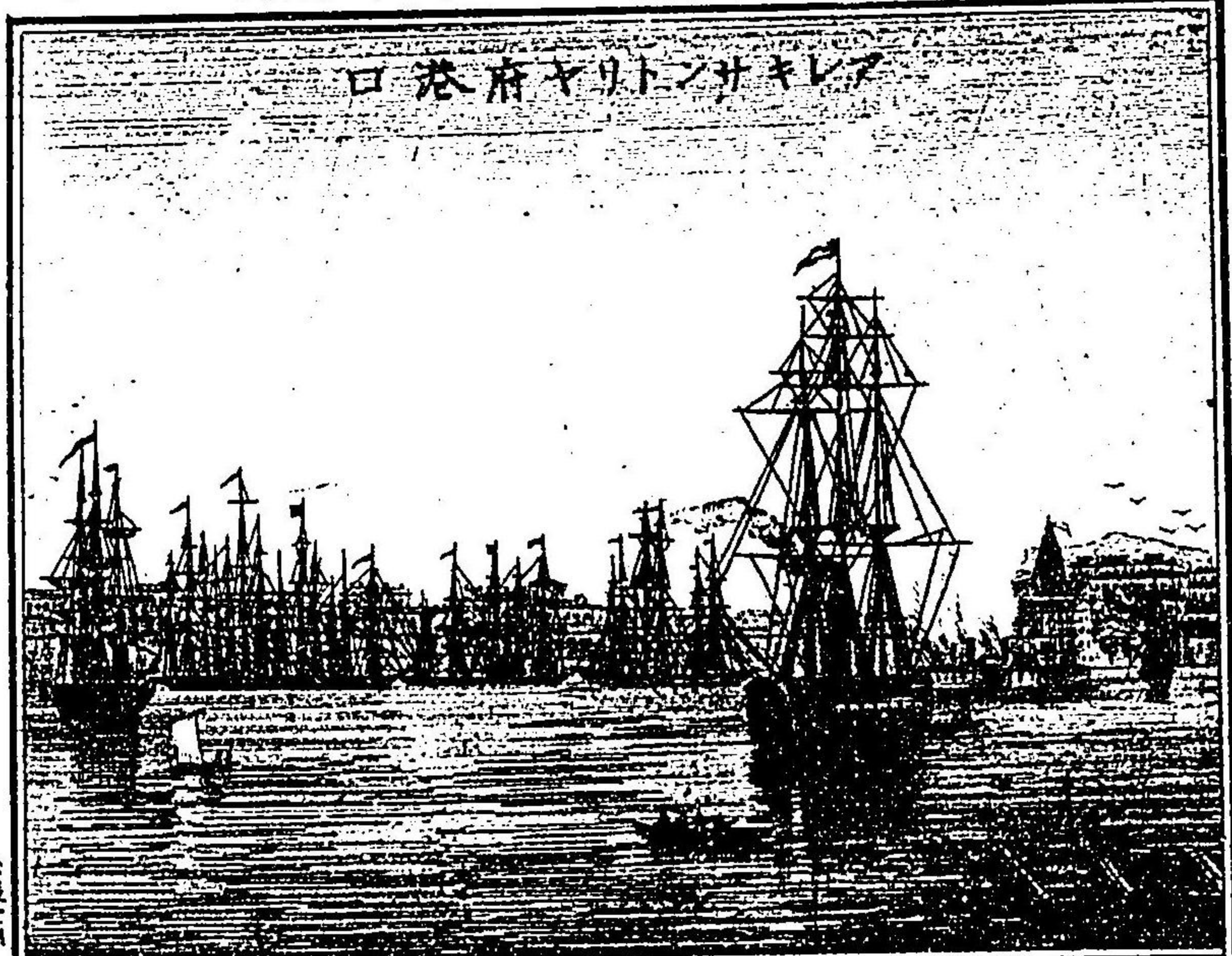


亞非利加洲之部
 亞非利加洲は東半球・西南方の大陸地
 東北方は名も高きスエズの地峽運河を隔
 亞細亞洲と對岸し北方地中海を隔て
 歐羅巴と相對し其西面は盡く
 大西洋を繞らし其東の岸は紅海を
 帯びて印度の洋に臨み南の端の海角は
 即ち喜望峯として南大洋に突出し
 洲中サハラ沙漠あり野蠻未開の地多
 中央人跡未到か面積詳細知を難し

南校
 青木
 慎三
 郎編
 輯校
 閱

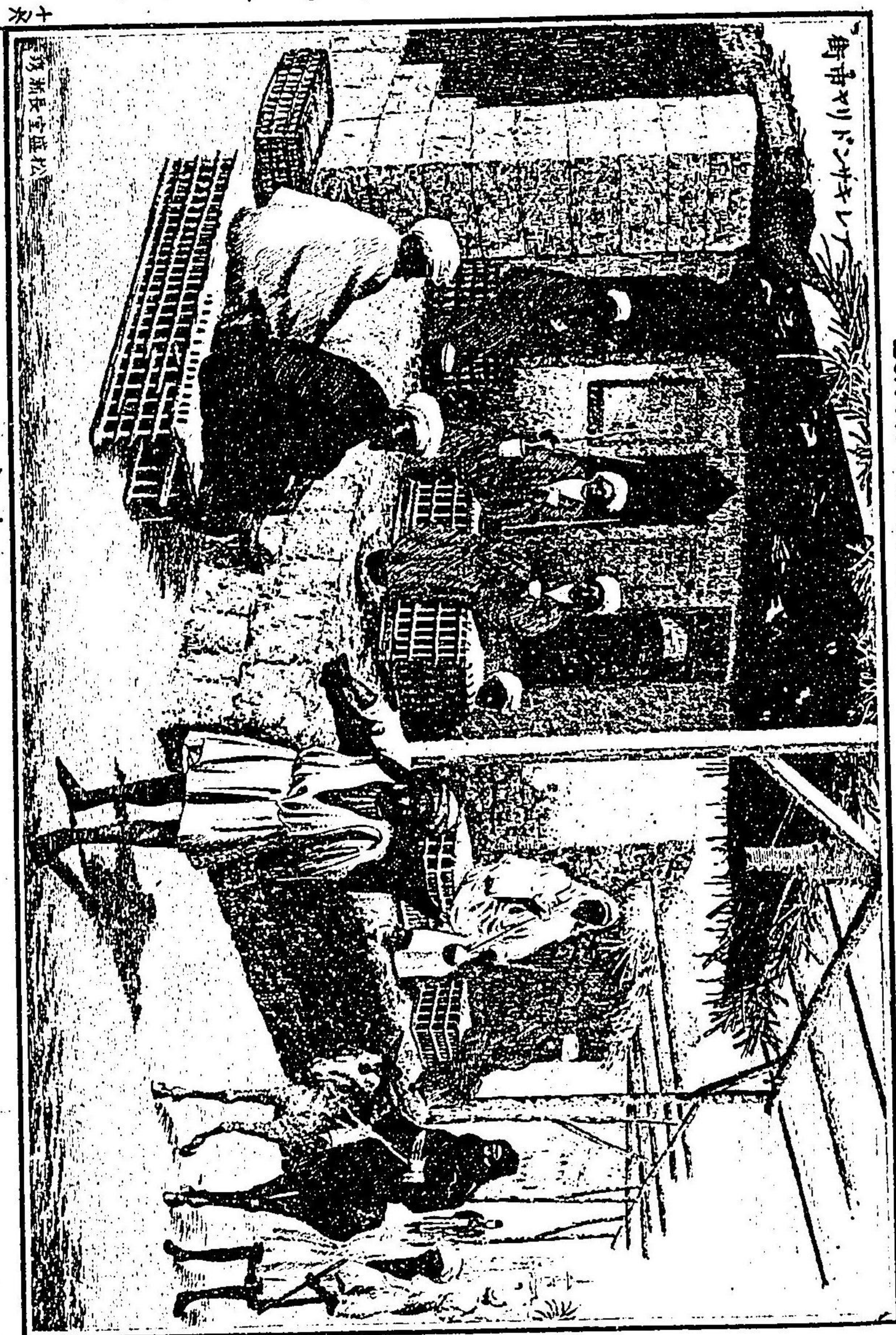
THE PORT OF ALEXANDRIA.

+



アレキサンドリア府の港

アレキサンドリア府之記
 当地は本國第二の府佛蘭西國の港ある
 馬耳塞より東南方一千三百七十英里
 地中海に濱面し人口二十一万余
 貿易樞要の土地にして並非利加屈指の繁都也
 市街の中央武條の大橋ありて其一を
 コロンネードと名稱し兩側家屋整美なり
 其二はブルチエオムと云ふ港口の東に位置を占め
 内外人民雜踏す今より三十五年前
 英吉利國の會社より當國王の條約し
 鐵路を布設しカイロを經スエスの阜頭と到達し
 以て地中海及び紅海上の郵船と
 商船往來の郵所とす是より當府の繁昌は

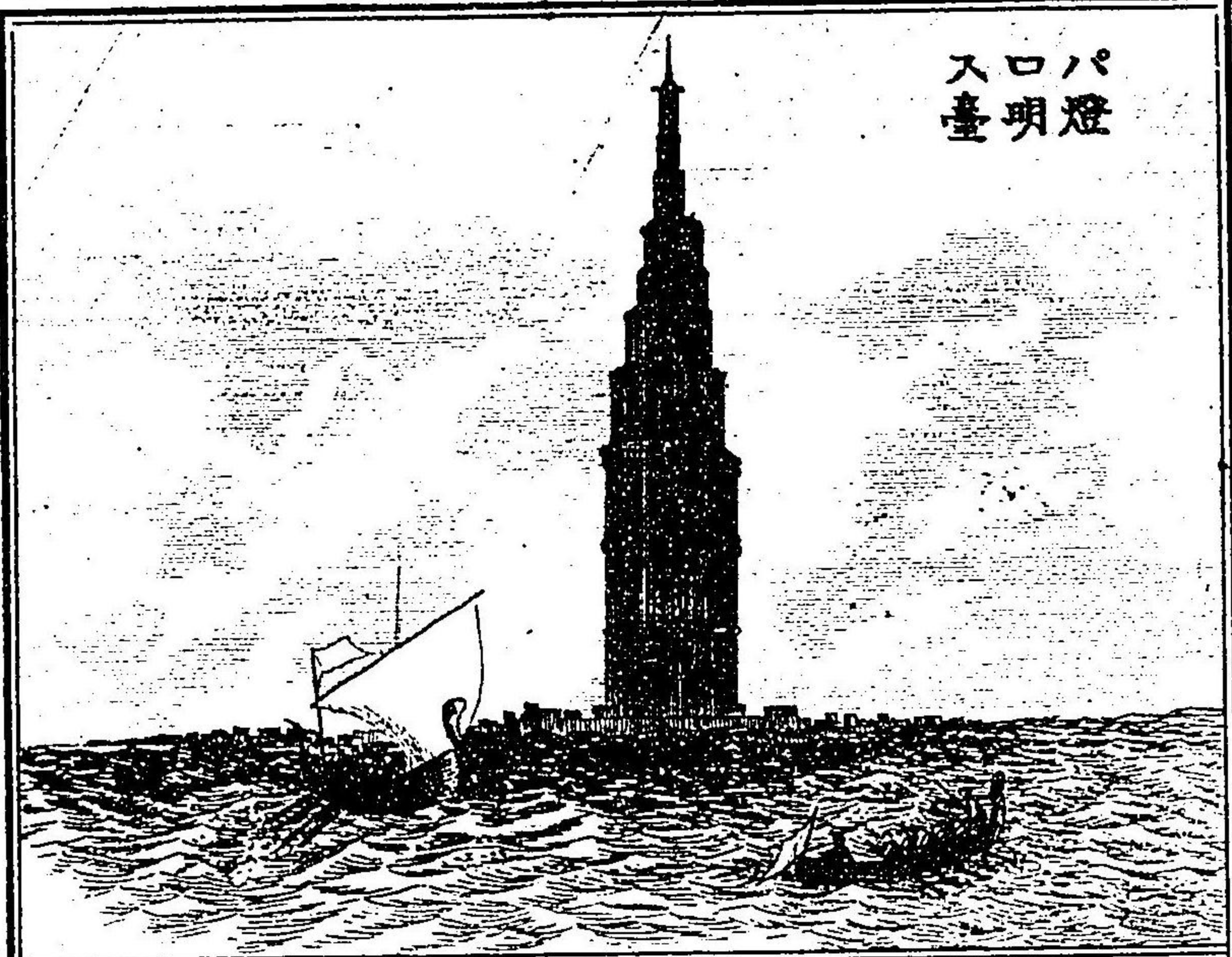


EGYPT: STREET IN ALEXANDRIA.

カ+

一十 THE LIGHT HOUSE OF PHAROS.

パロ
燈明
臺



年を追て盛んかり且其後佛蘭西と條約をかし有名のスエズ運河を鑿削し以前の鐵路ともる其甚盛んの都府とふる

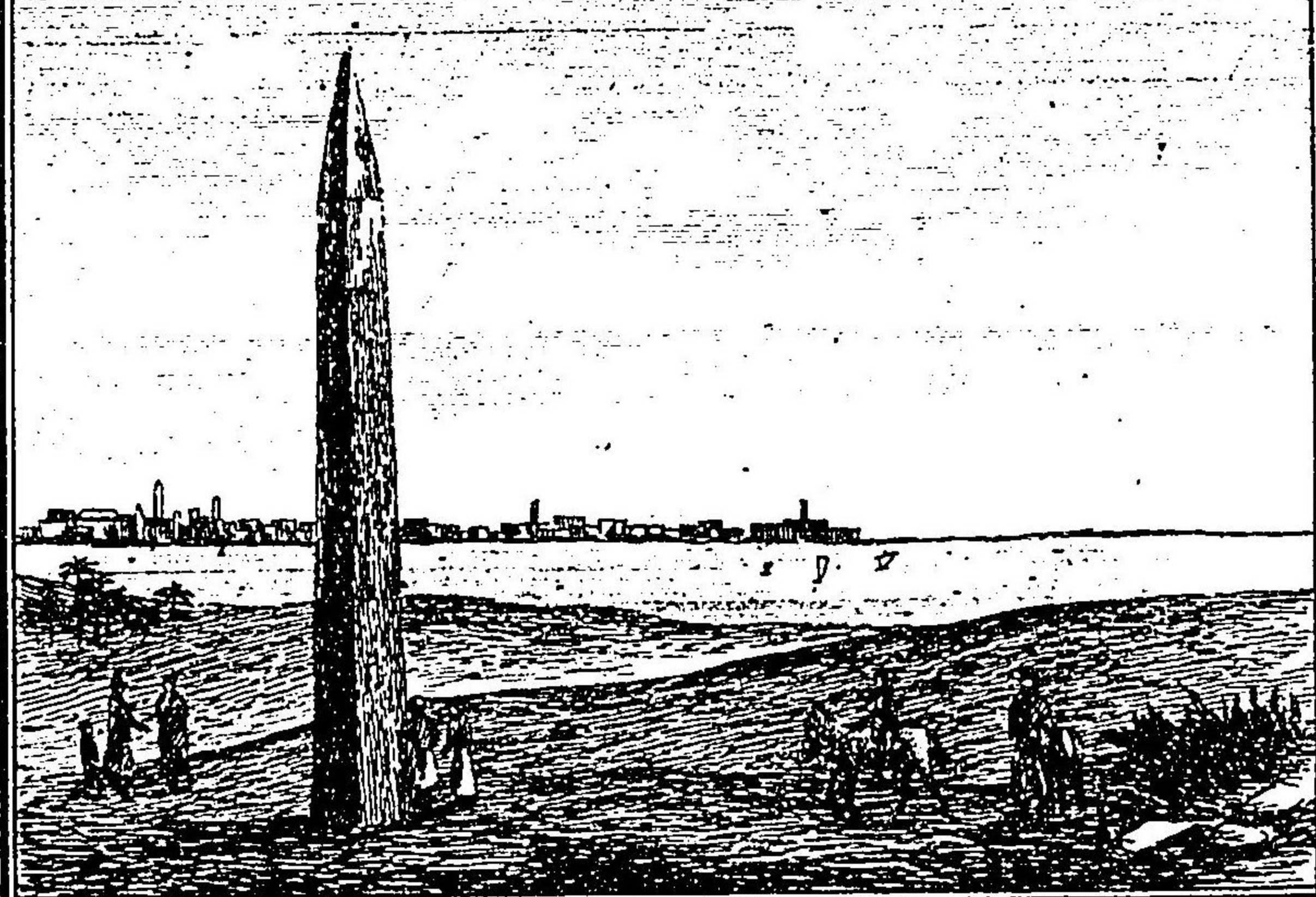
○総て此府の建築はイマカニスタイル風といひ之は古代の風を交ぜ粧置甚奇趣あり

府中名高き旧跡はトレミー帝の宮殿博物館や書籍館以上の内貯蔵する太古の書類大半は焼失せしも今よかは他國より比類なき上古手寫せし書類あり

其中最も名高きは猶太國の古傳あり即ち旧約全書の原本也此書は耶蘇降世の二百八十五年前此地に於て筆寫せり其他名高き書多矣元來當國世界中

CLEOPATRA'S NEEDLE.

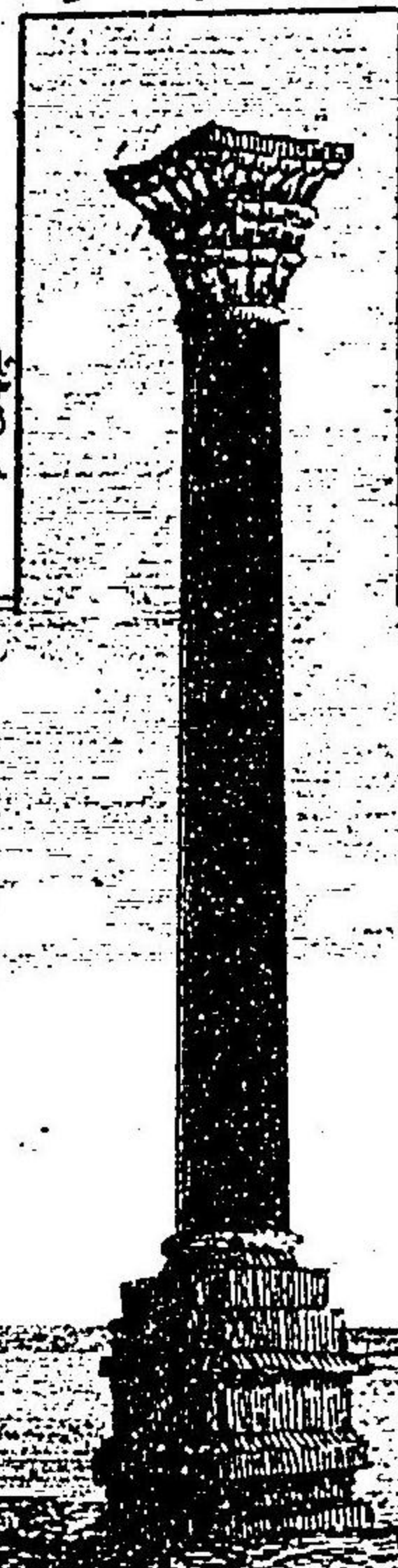
碑石夫ヲトバテレク



○フタスダオムと名稱す。土堤を以て連続す。
 ○羅馬の大將ポンペーの石柱七十三尺余。
 花岡の一本石にして二千年前の遺物あり。
 氏の名ととも響きあり。
 ○モノリンス尖石碑。クリオペツラの針と云ひ。
 トスメス三世の遺物なり。高さ七十二尺余。
 ○此府は今を去る事二千二百年前。
 アレキサンドル大王の創建せらるし所なり。
 当時此府の人民はギリシヤ、ユダヤ、埃及や
 コプト人等移住して成立したるものといふ。
 大王崩せらるし後、トレミー帝の京となる。
 然るに二帝の在位中、ローマ府は次ぎ古代は
 著名都府の一とある。当時盛人のギリシヤ國

POMPEY'S PILLAR.

最とし旧き國にして印度支那等と孰をか
 前後ふるを知らずと云ふ。殊に上古の時代は
 人煙稠密比ひるべき繁華を極めし國をせば
 三千乃至四千年以前の遺物多くあり
 各府に就て掲ぐべし。アレキサンドル大帝や
 トレミー帝の丘陵は
 當府中名高し。
 演劇場の設あり。
 闘馬場も設置せり。子クロポリスの城盤あり
 ○市内の空地は盡く跳止まざる噴水あり
 府民の飲料は供給す。府の冲上は島嶼あり
 パロスと稱す島岬も最も名高き燈光臺
 世界七奇の一と云ふ。パロス島と府の間



イペシボ
柱石の

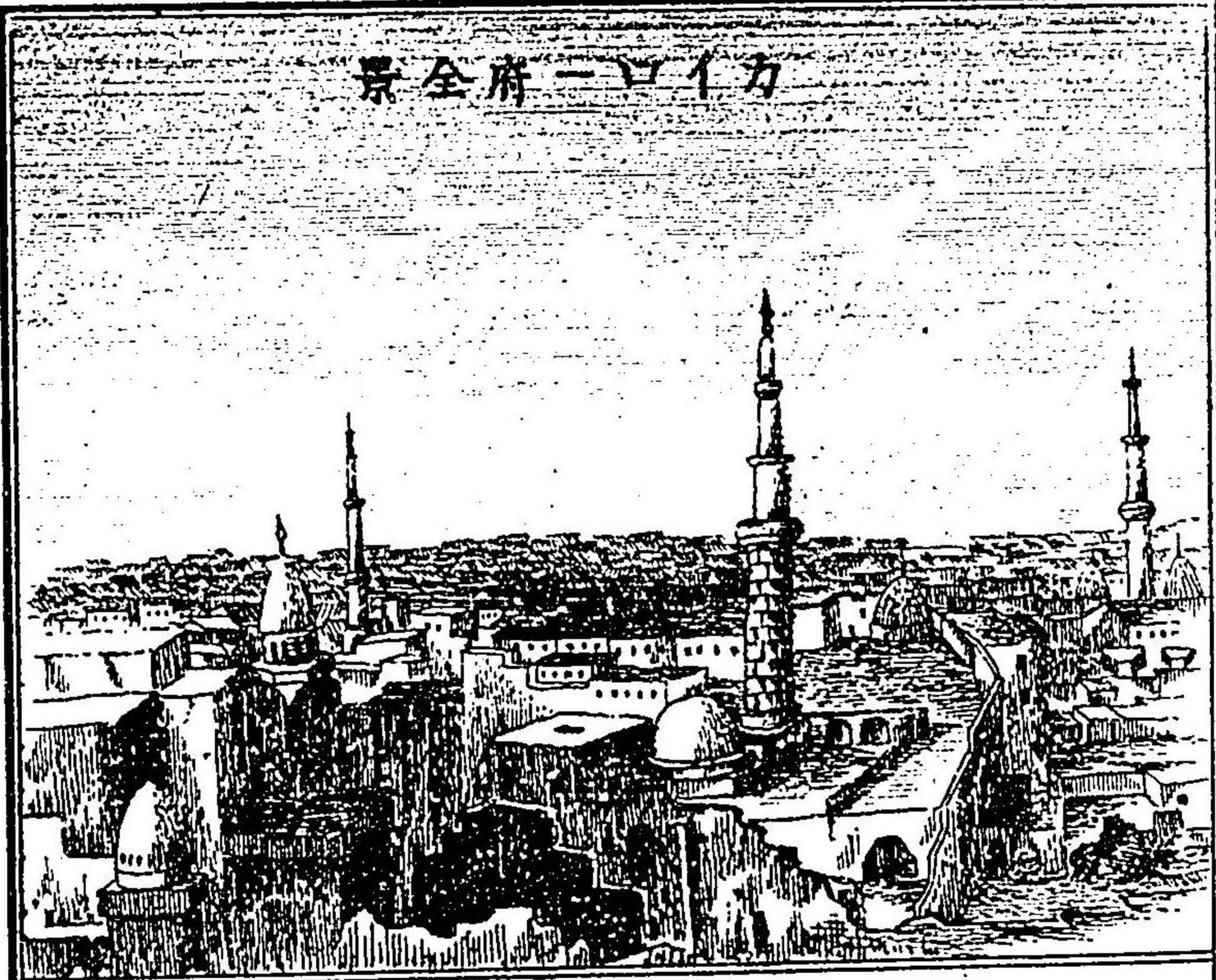


又學道學上に於き最と重要の地位を占め加之此港は東西洋に貿易の中心たるは其富榮最高度に達したり其後羅馬の版圖となり富貴益々燦爛たり是を實に紀元前三十年の事なり此時人口三十万然るに一朝羅馬國工藝技術の遷移を企てたるより漸々繁華の勢力減殺し其後教多の星霜を経て紀元四百年代の頃には弥衰頹しヒラピスの他有名の建造觀るものなかりしが其後埃及救世の王巨額の財貨を費して稍回復はせしむるに彼の新航路の發見後商船多く亞非利加之喜望峯を乗り超へて亞細亞印度へ達せしが当府の貿易又減じ荒廢無用の都府とふる一千七百八十年時代に至り人口は僅々六千余人のみ衰頹も又甚矣一千八百年代の末に至りて佛國王拿破崙の征伐後当府は再び芽を出し引續きてマホメット・マリーの旗となりしに弥發育成長し前項述べたる鐵道とスエズ運河の便を得て亦も繁華の美を呈す

改羅府之記

当府は前府の東南方鐵路一百二十余英里人口三十七万余亞非利加中第一の

景全府一ロイカ

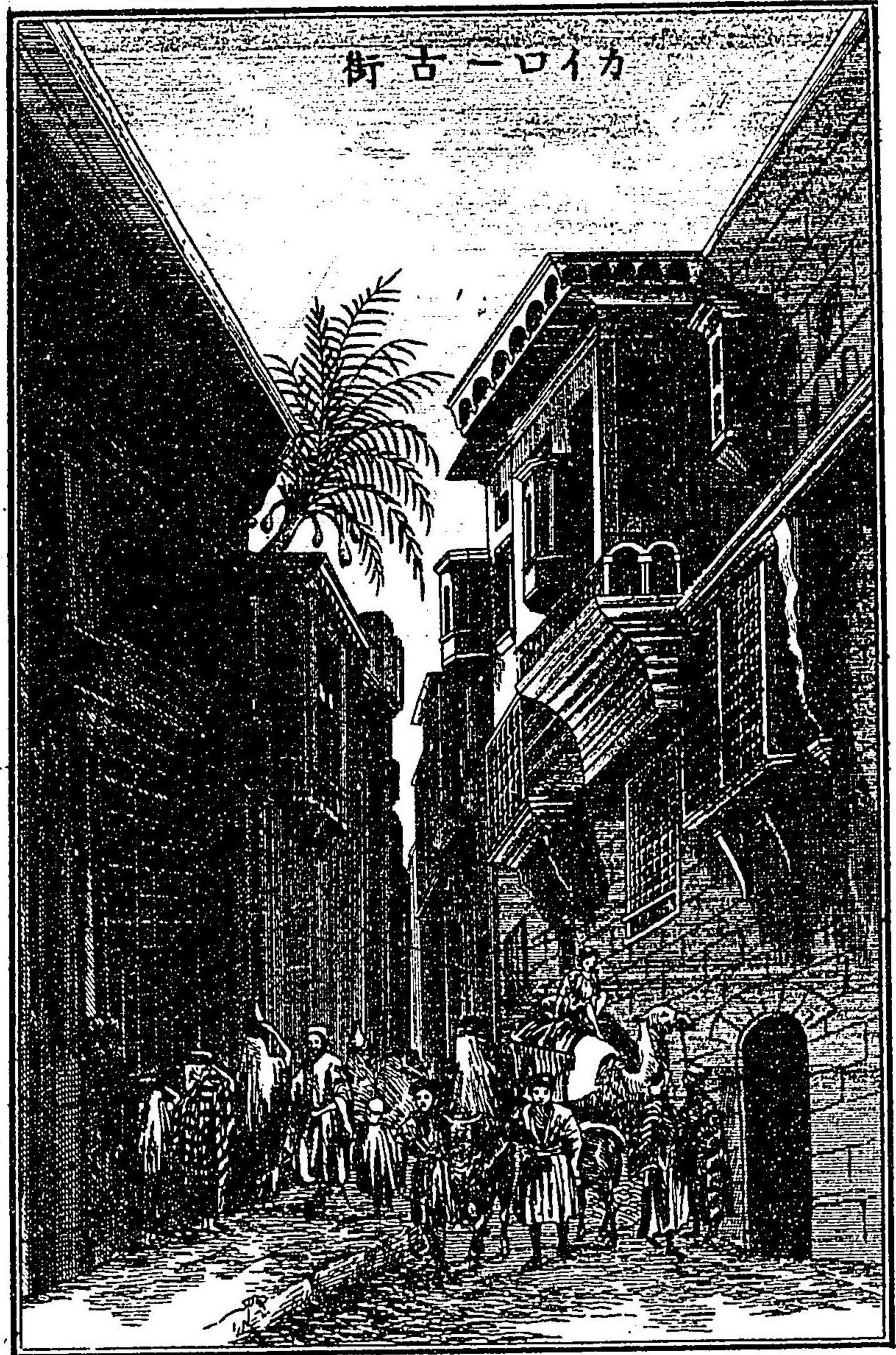


大都會なり其地位はナイル河の東岸あるモカタンの山脊の中間にあり府の周圍土壁を以て繞しつ其外部は蒼々たる椰樹檳榔の園林あり市街は概子輒を布く当府は九百余年前回教の兵此土地を蠶食以て市府を建て奕世法王の都とす故に府内は寺多し何せもアラビヤ風と知す○当府の人種は三あり人種によつて區を畫す土耳其人種の街衢ありユダヤ街あり而して基督教者の市衢もあり各境界を立て堅固なる門を設けて夜番あり○此府十年前迄は矮屋多く道狭く都人所の擇びふり不便をふし不潔あり



街新府一口イカ

然るに近年國王は道路家屋を改築し佛都の巴黎に模造して公苑劇場等を建つ市街の家屋は赤白の煉瓦を以て造作し旧觀忽ち一新す斯を急劇に改築し且つ前年有名のスエス運河を鑿割しスエス運河の事は下條に詳述す為めは費す金額は八千七百六十万圓皆有益の業かきど財政忽ち困難し英國政府は干渉せざる○道路家屋は羨みをも街歩行の人民は貧者以前より増加して驢馬や駱駝を使用し人々貨物を運送す服飾風俗百般の眼に觸るゝものとして新奇なる所あり吾々如き旅行者の所を慰する足りぬべし



街古一口イカ

其顔を蔽ひ衣服をば他の衣を以て穩すなり
 顔は厚き紙を以て精製したる帽を冠す
 此帽子をば始めとし身体を着し金剛石
 若々ば其他の寶石の飾りを懸すは赤色か
 或は白又黄筋ある被衣を着す行列は
 算策喇叭と大鼓以てビードンドン立
 唄を謡て之を和す聲風めかして賑し
 埃及國の婚禮や又大層と云ひつべし
 ○寺院の夥多ある中レバンの尖塔名高し
 赤白鍊瓦と石を以て築造したり此外
 古代の會堂多あり
 大學校は華麗にて
 数千の生徒を養生す



四教寺院

市民ノ婚禮



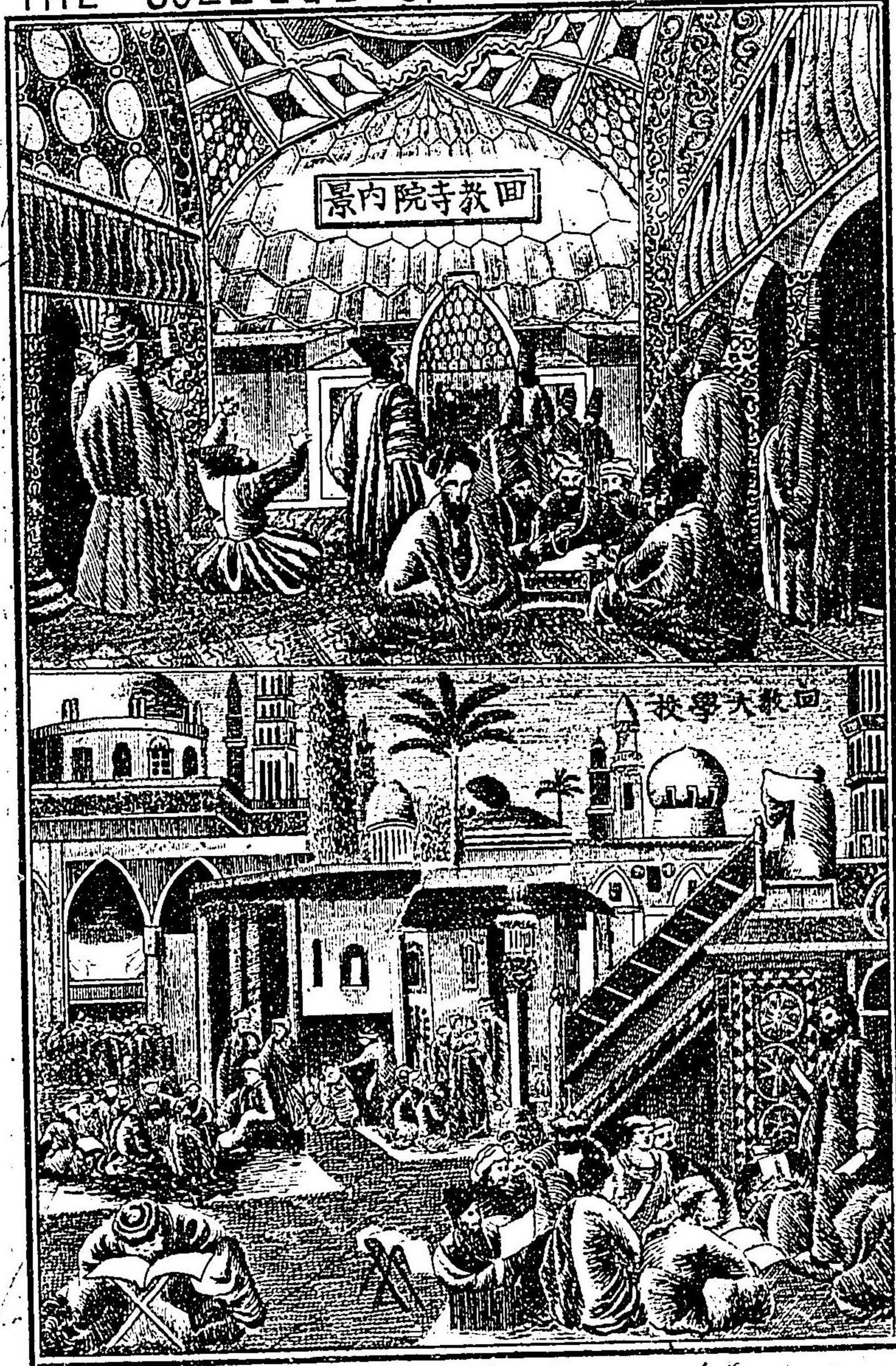
○市内の公苑清浄にて草木花々皆熱帯の
 氣候に産するもの多きは歐洲亞細亞と大差あり
 美麗奇異なるもの多矣土人男女雜沓し
 歌舞彈弦をさせる狀歐洲諸國と異趣あり
 日没後ニ都人みな各所の道路に徘徊し
 夜泣の行商又多く呼聲四境に喧し
 ○上欄に掲げし婚禮は上流社會の式として
 花嫁殿が舞殿の館へ至せる行列を
 示したるあり当日は花嫁朝飯喫せし後
 直ち一御自家を出て市中各所を練り歩む
 第一列は婦女子らの親戚朋友等子して
 第二列は童女を以て組織す其次は
 花嫁殿あり番の如く最と華麗なる絹を以て

HOPE OF PIRAMID FOR THE NILE

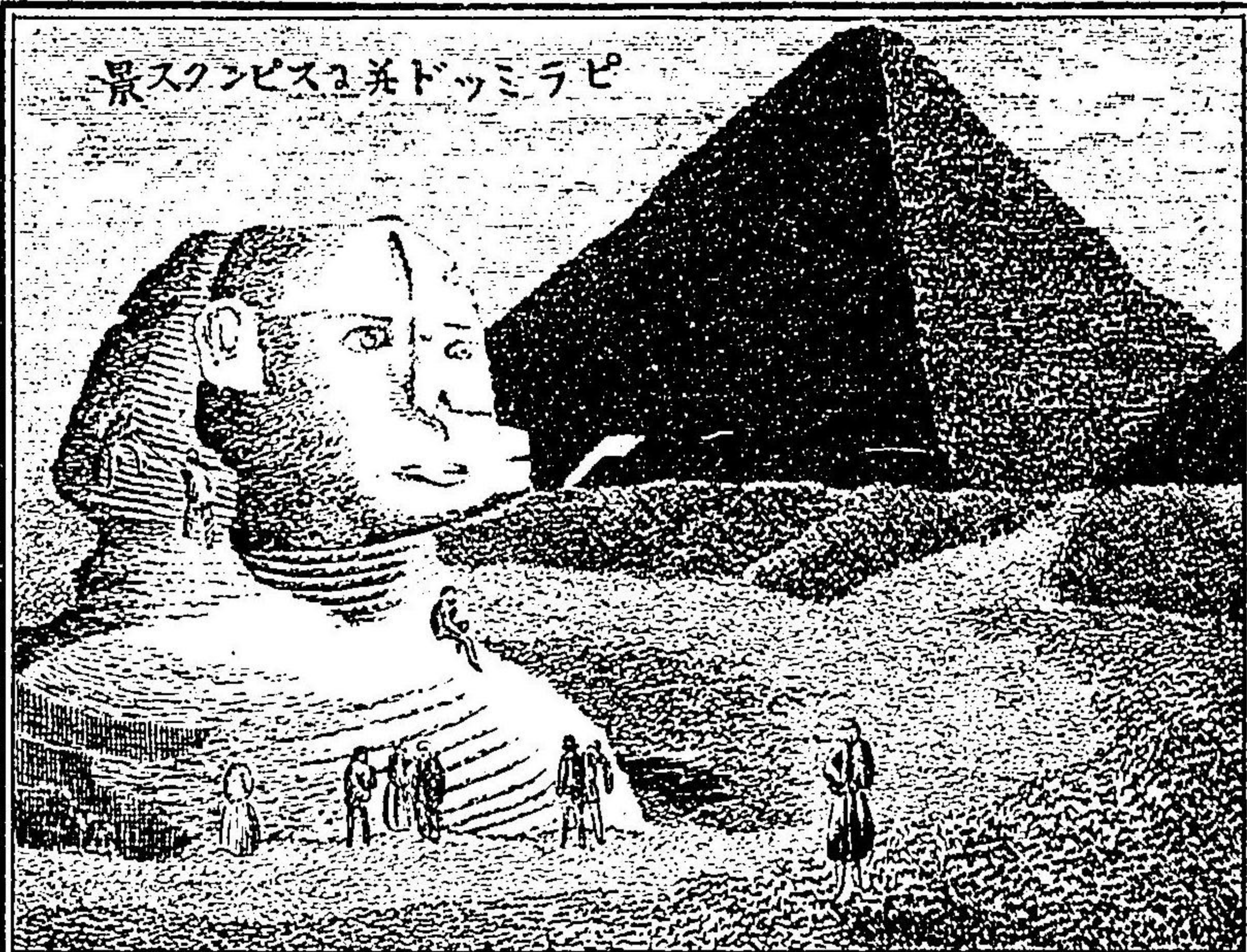


ピラミッド之記
 改羅府より驢馬に乗リ沙漠の奇景を眺めつゝ、
 四英里斗りを行程し古改羅の村に着き
 人口四千余人あり当府を去ればナイル河
 鉄橋涉きば河中にロダと稱する小島あり
 庭園ありて此所彼所咖啡を齎る佳亭あり
 對岸遙か邑を見るギゼーと稱し古代は
 甚繁華の都府ありし驢馬を鞭ち前進せば
 四面は千里の沙漠あり已に近づきピラミッド
 三箇駢立峯巒をふす瞻て塔基に至るべし
 改羅府より五英里ありき
 叔其基趾に接近し之を視るは巨大なる
 石を以て階を為し段々重積稜角は

THE INTERIOR OF MOHAMMEDAN TEMPLE.
 THE COLLEGE OF MOHAMMEDAN.



景スクンピスニ英ドッミラピ



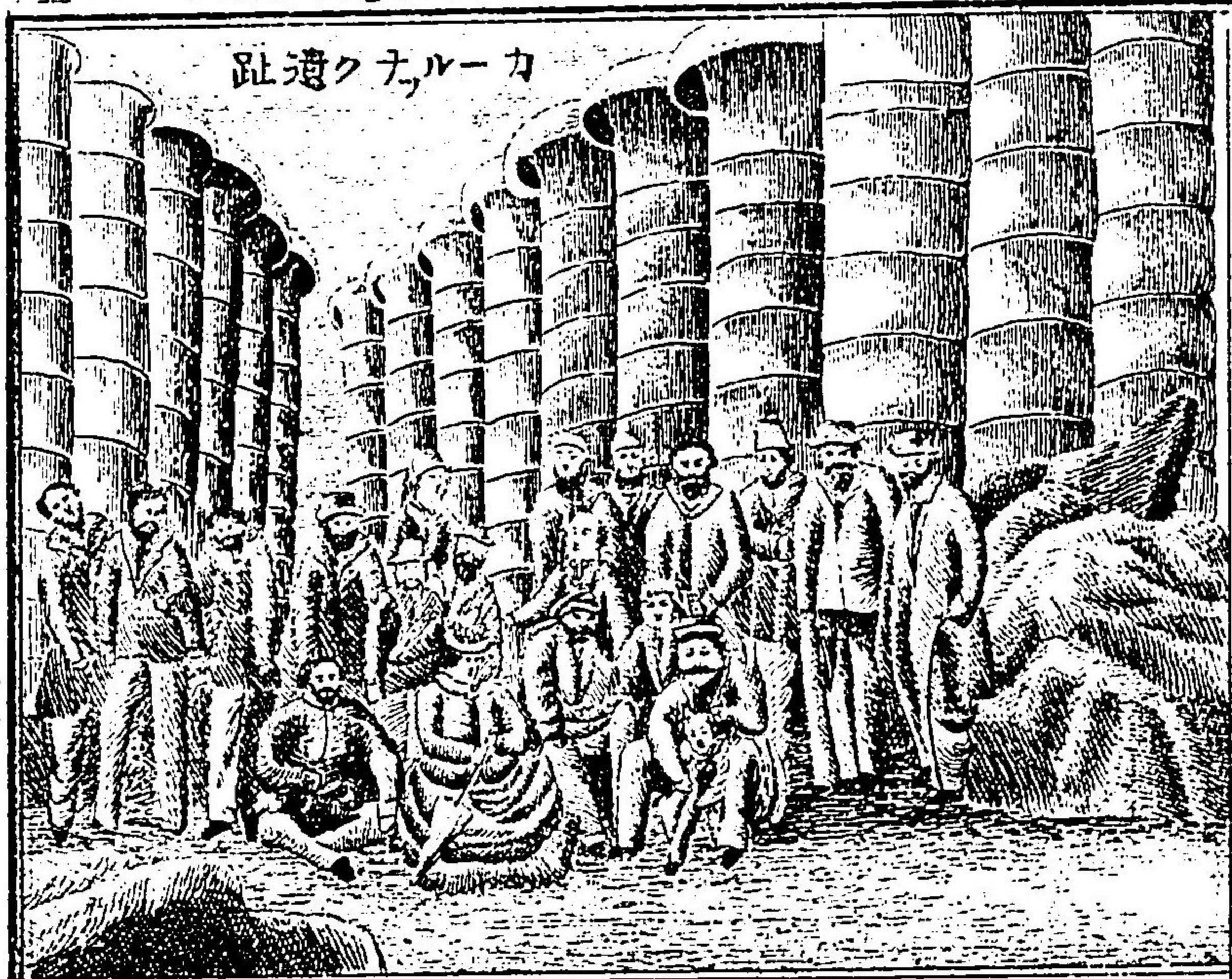
皆々破壊し磊砢なり其第一の石塔は
 基址より斜め上まで二百六階昇るを
 長さ七百五十尺第二第三略同じ
 其小ふるよ至ては一々数ふよ違まか
 上人二人を相催ひ第一塔を登るべし
 一階一階攀じ昇り其中央に達すきば
 巨大の洞穴一つあり休憩旁々葡萄して
 中に入れば巨大なる花剛石室設けり
 再び出で又登り極絶頂に達すきば
 四望開遠曠々と黄赫の沙漠限りか
 渺々蒼天と相合す大洋望が如くよて
 絶叫大呼せざるか
 此建築は今を去四千年の以前よて

当埃及帝王が墳墓ありと知り王へ抑も帝王己が身の貴尊を待み嘗て其
 民の膏血絞り取如此の無双ある土工を起して遺骸をば永遠不朽に藏せし
 今は寂莫あはきふる沙漠の中は殘留し誰とて祀る者もなし一基を建るよ二十年
 日々役する人民は三十六万余人とす古昔以上の人民が酷虐極まる政令の
 下は屈せし事柄は之を以ても知り得べし右の事實を聞くものは当時の埃及人民を
 吊ぬ者ふきぞかし

又も土人は接けらる塔を下りて中央の洞穴中に入るとは巨大の花剛石を以て
 造営したる殿堂あり石棺並に大獸あり歐米各地の博古家は冬季此地に往來し
 事蹟を攷究記載せり

○スフィンクスは第二塔前面にある巨物にて是を又古物の一とす巨大の獅子の體上は
 婦人の首を置しふり首の周圍は一百尺高さは五十六尺余人首と獅子と合すきは
 一百七十二尺あり何らの為と作りしか畢竟貴族が人民を慘虐したるの遺跡のみ
 近年砂石累積し地上に顯出するものは扁鼻婦人の頭のみ

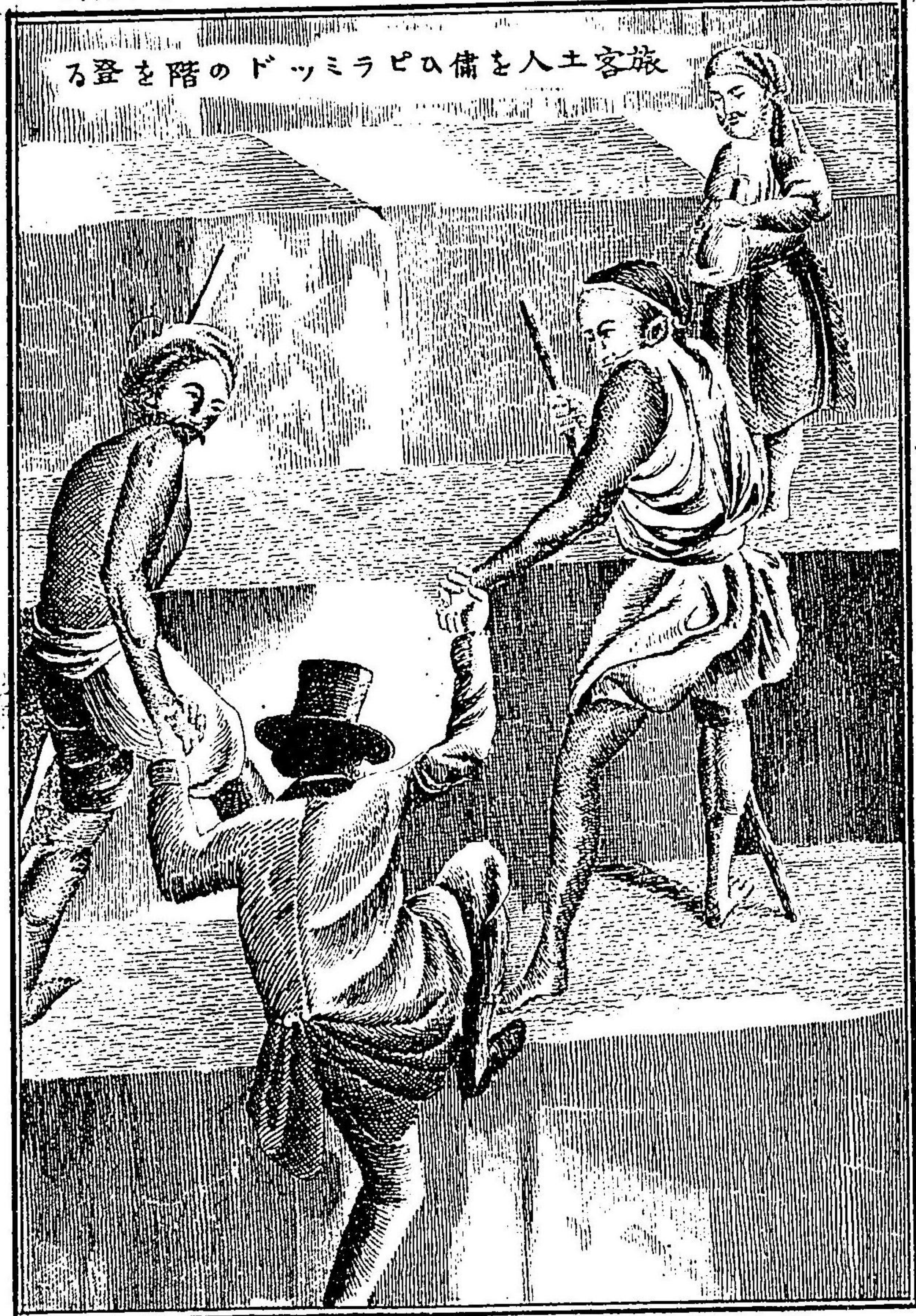
五二 THE RUINS OF TEMPLE OF KARNAK



カルクナルク遺跡

○世界各地の人々が当埃及の古史を讀み好古家の奇談とし信を措く者鮮矣。さきども四千年来の遺物を觀るよ一として巨大からざるものは、巍々たる贅物夥多あり。久しき星霜を経過すも、猶且右等の遺跡あり。以て当時の隆盛を想像するよ、足りぬべし。其隆盛や、純乎たる平民開化に非ずして、所謂貴族が國民の財を貪り驕奢をば極めし迄の事なきば、栄枯一瞬夢幻のみ。永遠無窮の持續せず。蓋し古史を讀む人は、妄り虚誕の言と為さず。此ピラミッドを始とし、次は揭ぐる古蹟に就き、亘しや攻究すべきあり。リユキシルといふ遺跡は、太古シブズて、府の

THE FIGURE WHICH ASCENT PIRAMID 四二



る登を階のドゥミラピミ備を人土客旅



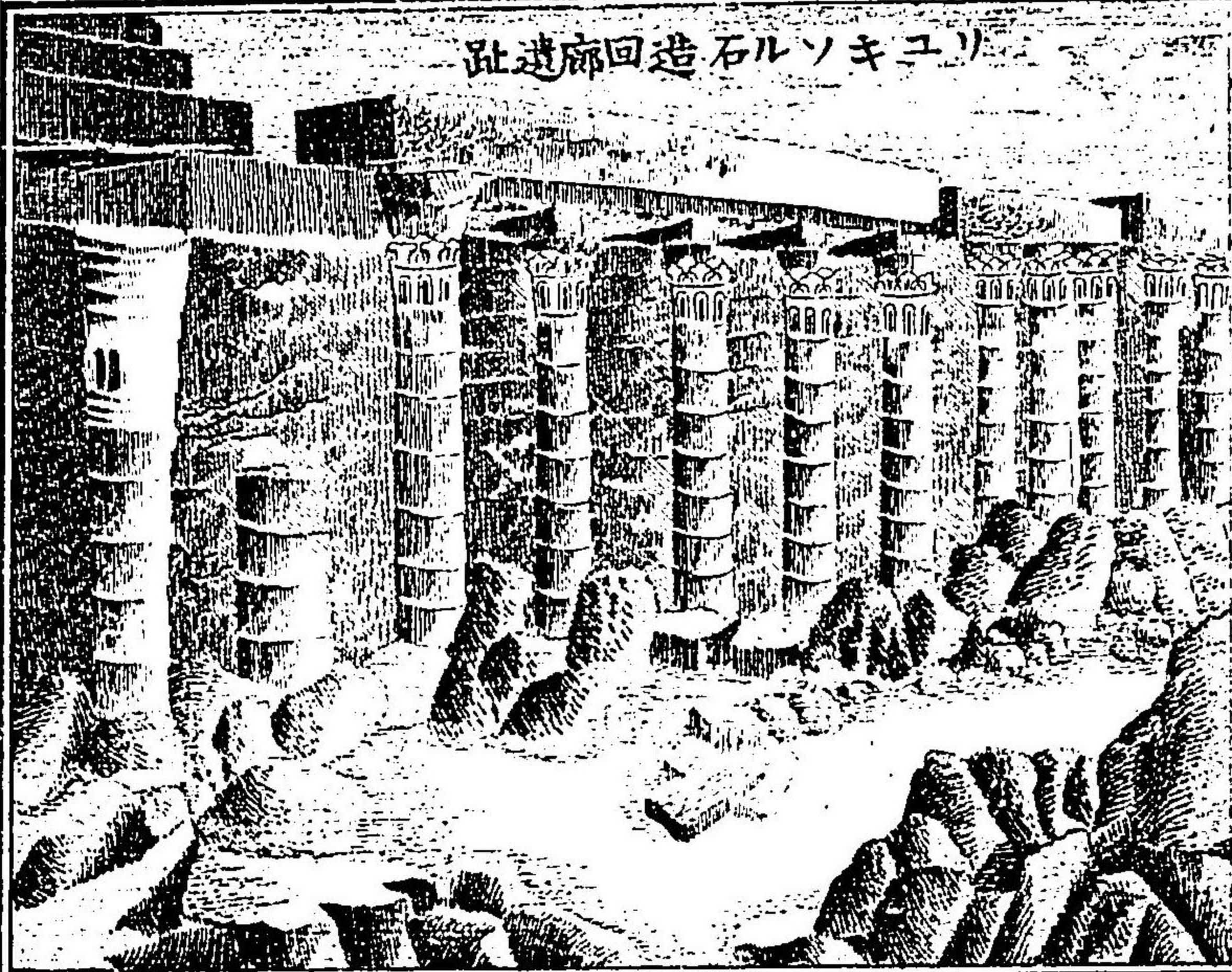
蹟遺之ンノンメ

迷樓なるもの築造す此樓中ニ三千の
美室を繕み其中の一千五百は地下あり
樓中上部の室内ニ鱷魚の神具安置せり
其他古来人民が禮拜したる動物を
其傍に祀りとり地下の室は國王の
死骸を厚く葬せり。
○昔し埃及人民が如斯奇絶なふ
築造ふせし時代は文學技藝も又長じ
他の各國人民が企て及ぶわざあらず
故に他國の人民は埃及人を見る時は
魔術者とかし怖せり。

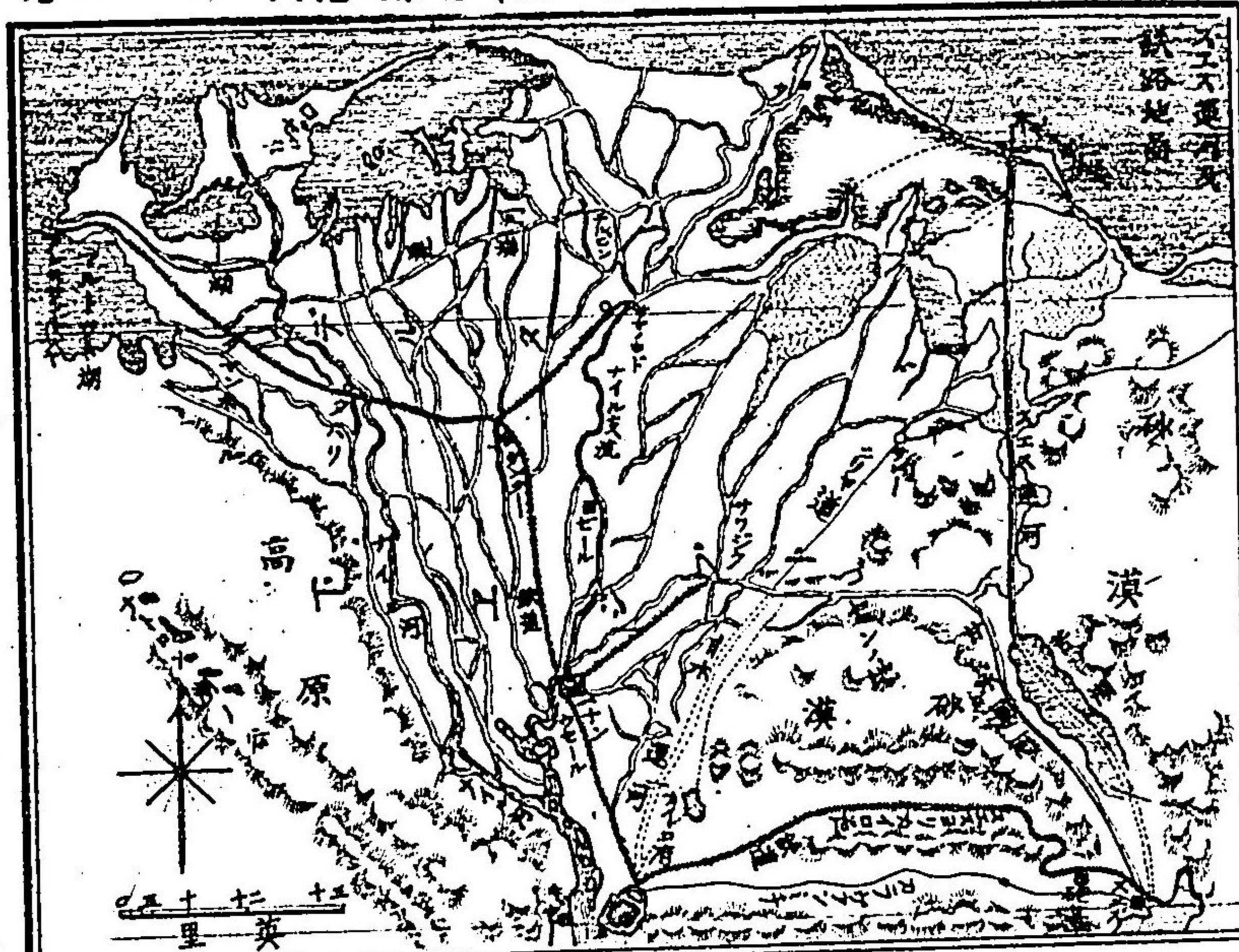
スエズ府之記

カイロ府より瀛車を乗り東の方へ走る事

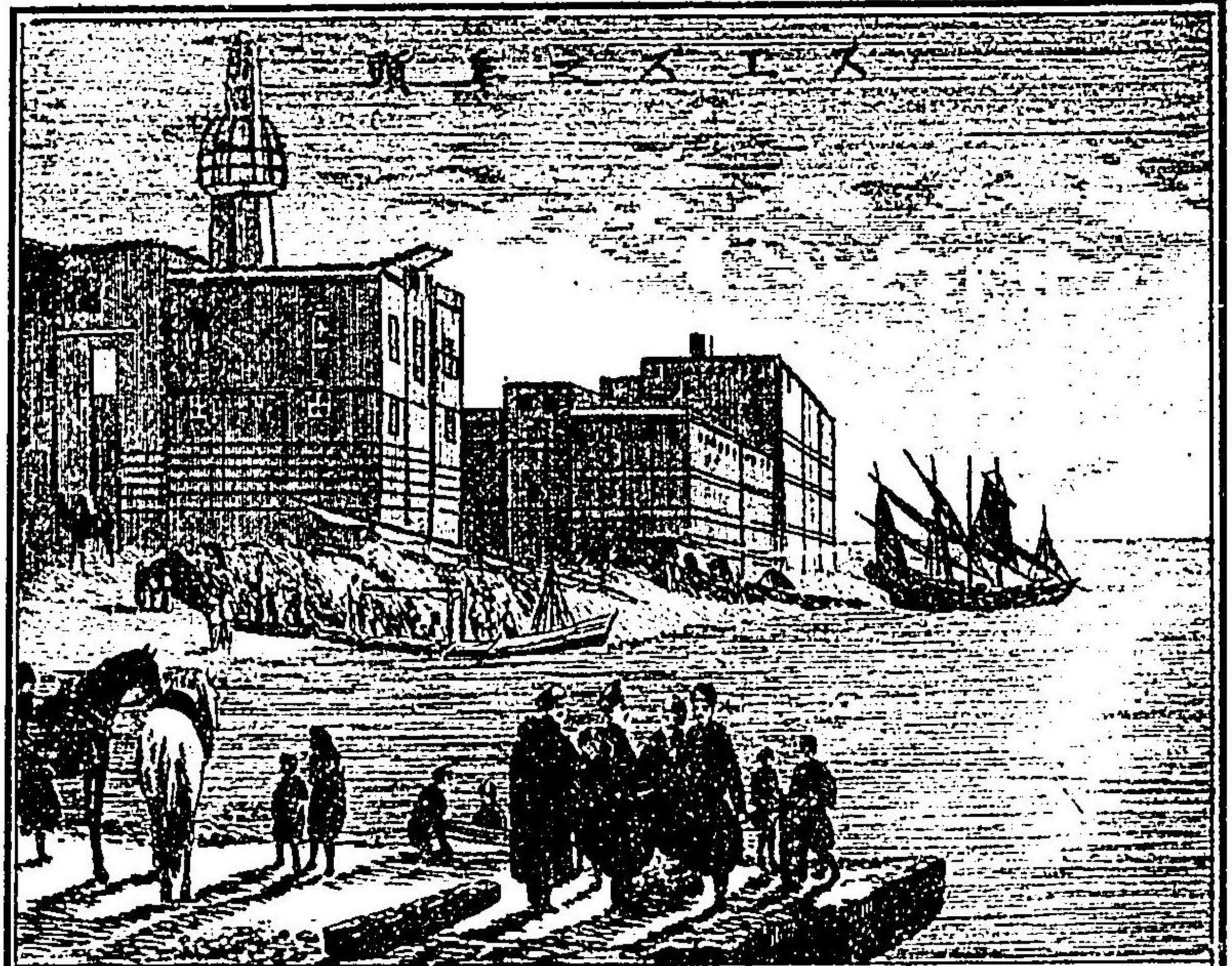
趾遺廊回造石ルソキユリ



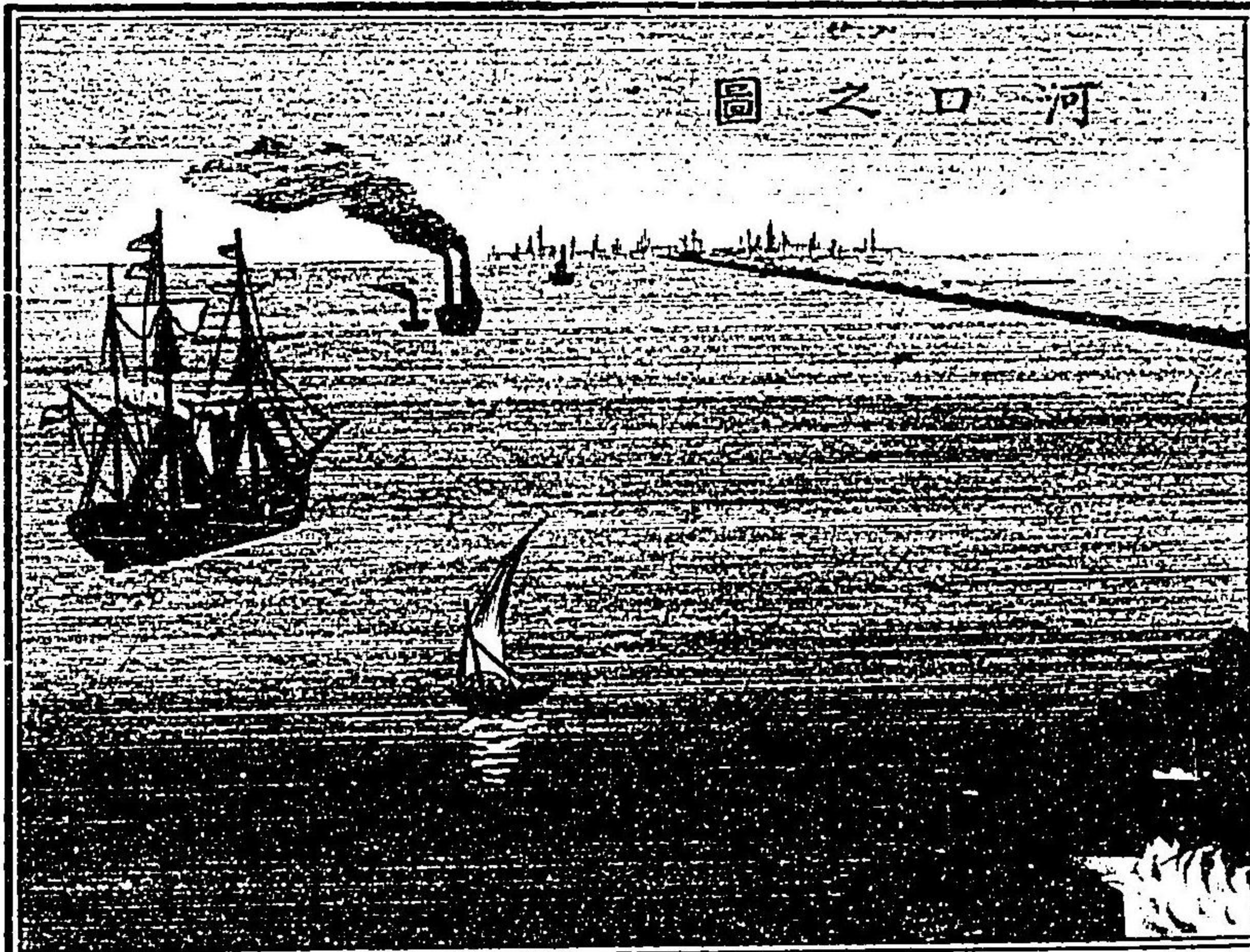
近傍にある巨物にて觀者眩目驚心す
是を神廟の古趾として奇中の奇あるものぞかし
且つ太古のシブス府古代羅馬の府の如き
古今に比すべきものなしと史家の証する所にて
此府の周囲は一百の宏門設置し戦時又は
是を閉ぢて城とす二千四百余年
前
ペルシヤ國王カンビセス当埃及と戦争し
遂に此府を毀壞せり今尚ナイルの兩岸に
二十七里のその間名所旧跡存在す
カールナツク著名なり。
○古昔埃及國王は主民を使役し大なる
湖水を鑿しめらるべき方四十五里其深さ
殆ど大洋の如きなり又某王は関ひふる



降ざるあり故府の近傍は灰土にて
 炎威赫赫々歩行上甚困難ふりと知き
 スエズ大運河之記
 運河の長さは一百英里深さ七十二フィート
 幅員八十メートル余中よ四ツの湖水あり
 皆浩々たる平沙よて山岡丘陵更よかく
 石礫樹木も絶てなし想ふよ上古は両海の
 潮水連続したりしも海潮洶揺せし為めよ
 此よ遊沙を堆し上げて地峽を隔断したりし歟
 其は措き諛河と湖岸を最も高きして
 巨船の通航自由なり運河の岸よは木柵や
 石垣築くよ遑ふし故よ船の来りおは
 岸を洗ふて退きつ船去きば又河水は



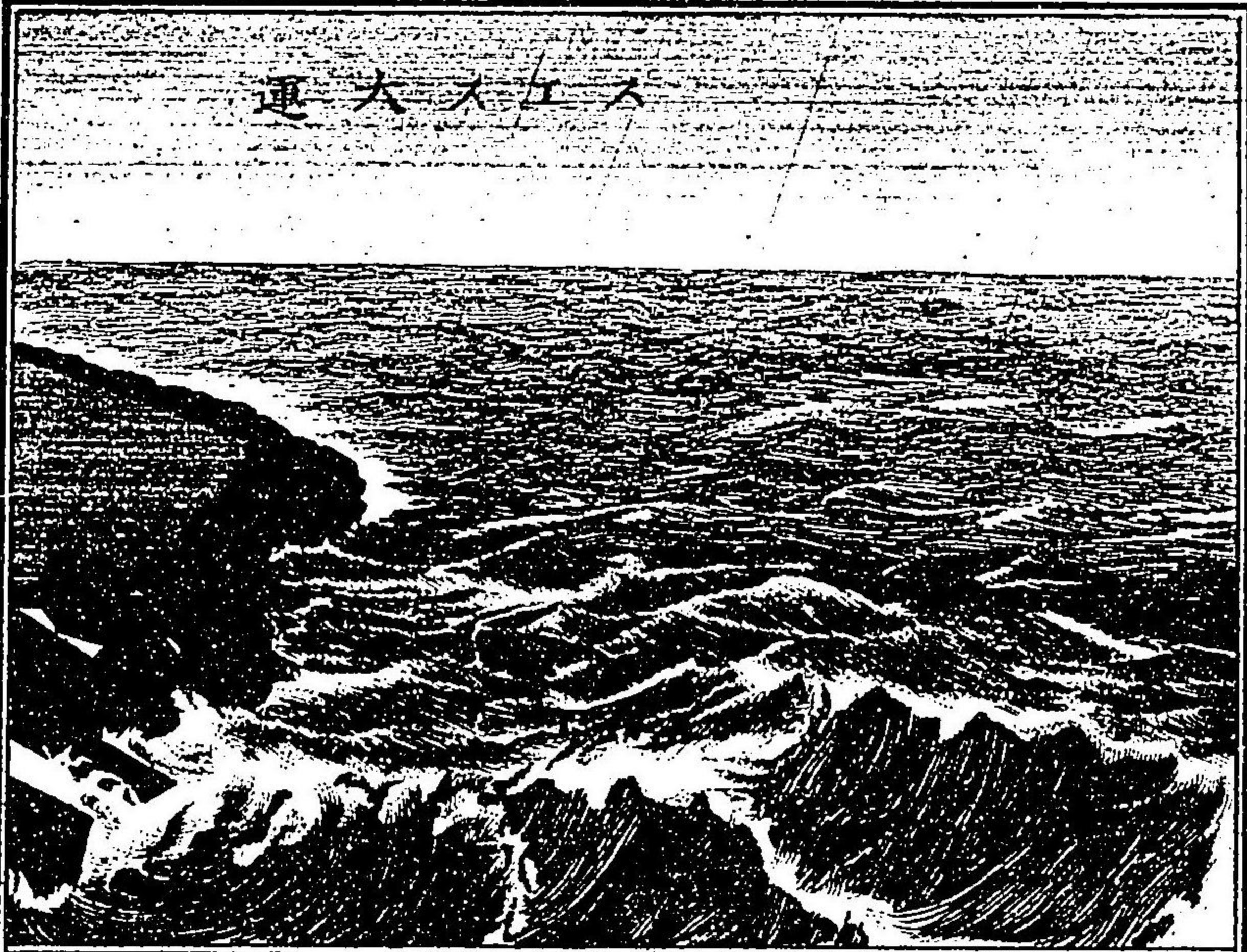
殆ど七十六英里スエズ港よ着すべし
 楮当港は近き迄家屋矮小淋しくて
 見るよ忍びぬ小都會富貴の象もかかりしが
 近年陸路の便開け垂細亜内地と歐米と
 貿易上の衝とあり加之左よ記す
 スエズ運河の開鑿後東西洋の船舶は
 ろあらず是よ入津し所謂咽喉の地とあきり
 今は富商家あり通商貿易繁昌し
 都府の体面一變す人口一万四千人
 英佛官衙の設けあり市場と倉庫隣接す
 貿易品の重かるはシナイより出る上等バタ
 牛酪菓物鳥類や木綿材木等とあす
 ○当府も降雨稀しよ三ヶ年中一回も



河之口之圖

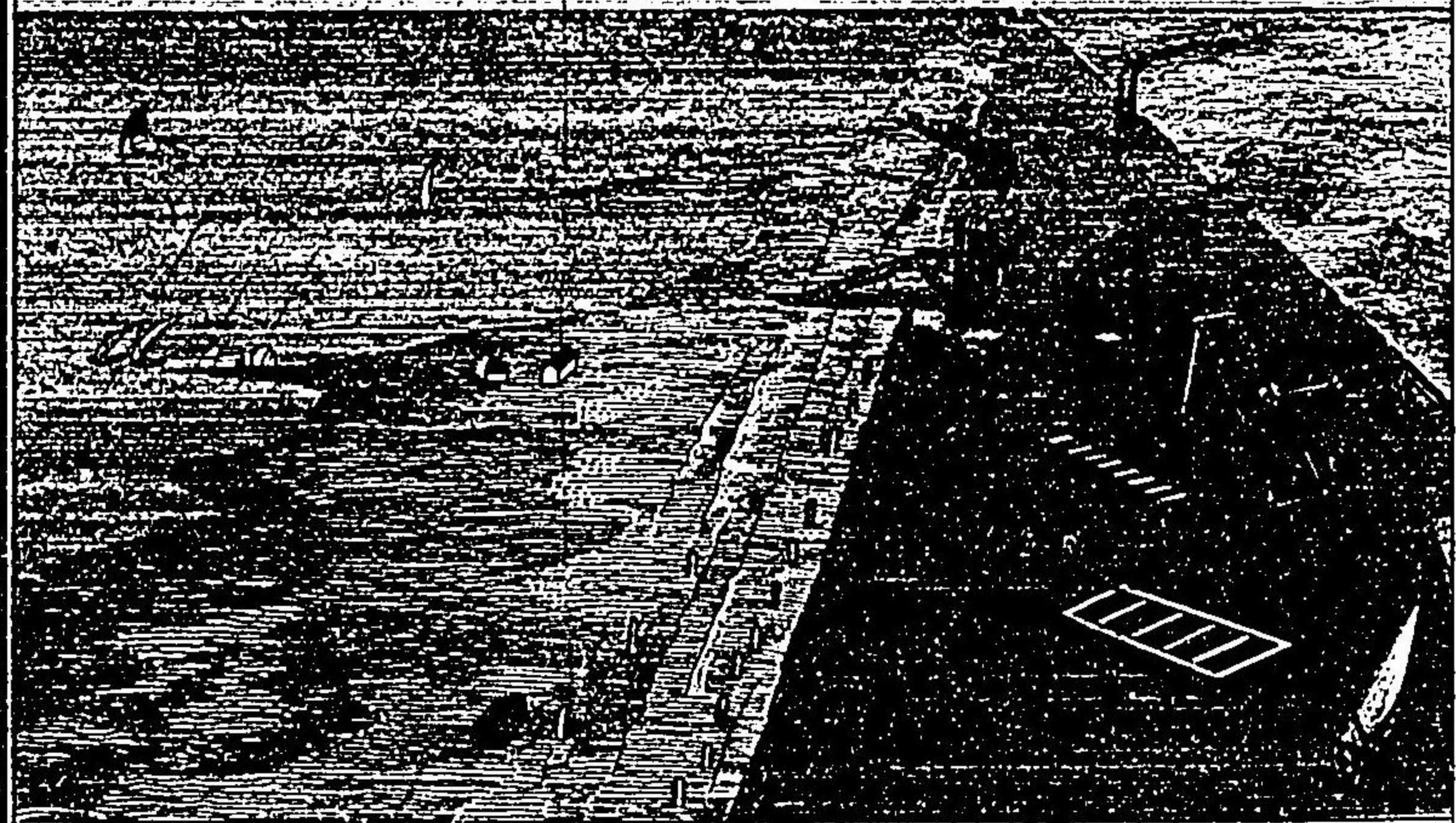
世界各地の人民は全氏に深々謝すべき也
 ○抑も運河の開鑿前地中海と紅海の
 呼吸を此地に阻めらば亞細亞阿非利加歐羅巴
 三大洲の貿易上之が為又大なる
 妨害をうけ或時は喜望峯を迂回して
 巨濤を冒し又時は埃及赤野黄埃を
 涉りて苦しむ數千年貴重の時日と費用をば
 虚しを果せる年久し
 嘗て三千年前才河道を開き漕舟を
 通ぜし車あり然きと心河道甚長を以て
 其幅狭々大松を出入するに足らざりし
 素より河底淺くして流沙忽ち填塞し
 遂に不通となりり降て一千八百年

運大ス江ス



岸を拂ふて漲せり一漲一退すること
 洗刷せる沙は河底を自然に填塞するを以て
 挖渚の勞一日も休する能はず然も尚
 遊沙浩汗其費用甚多額を要すと云
 然るに昨年株主は総會議を開設し
 此運河をして目今の一倍余に廣めんと
 發議せしが定まらず
 ○儲此運河の入口はポールドサイド港よりす
 運河の開通せし年は憶々十有七年前
 佛蘭西國の學士あるレセツプス氏の經畫に
 出しもの也而して最初全氏が此地を
 鑿割運河を通せしは實に多年の苦を鍾め
 成就したるものにして振古稀有の大偉業

河之凌流

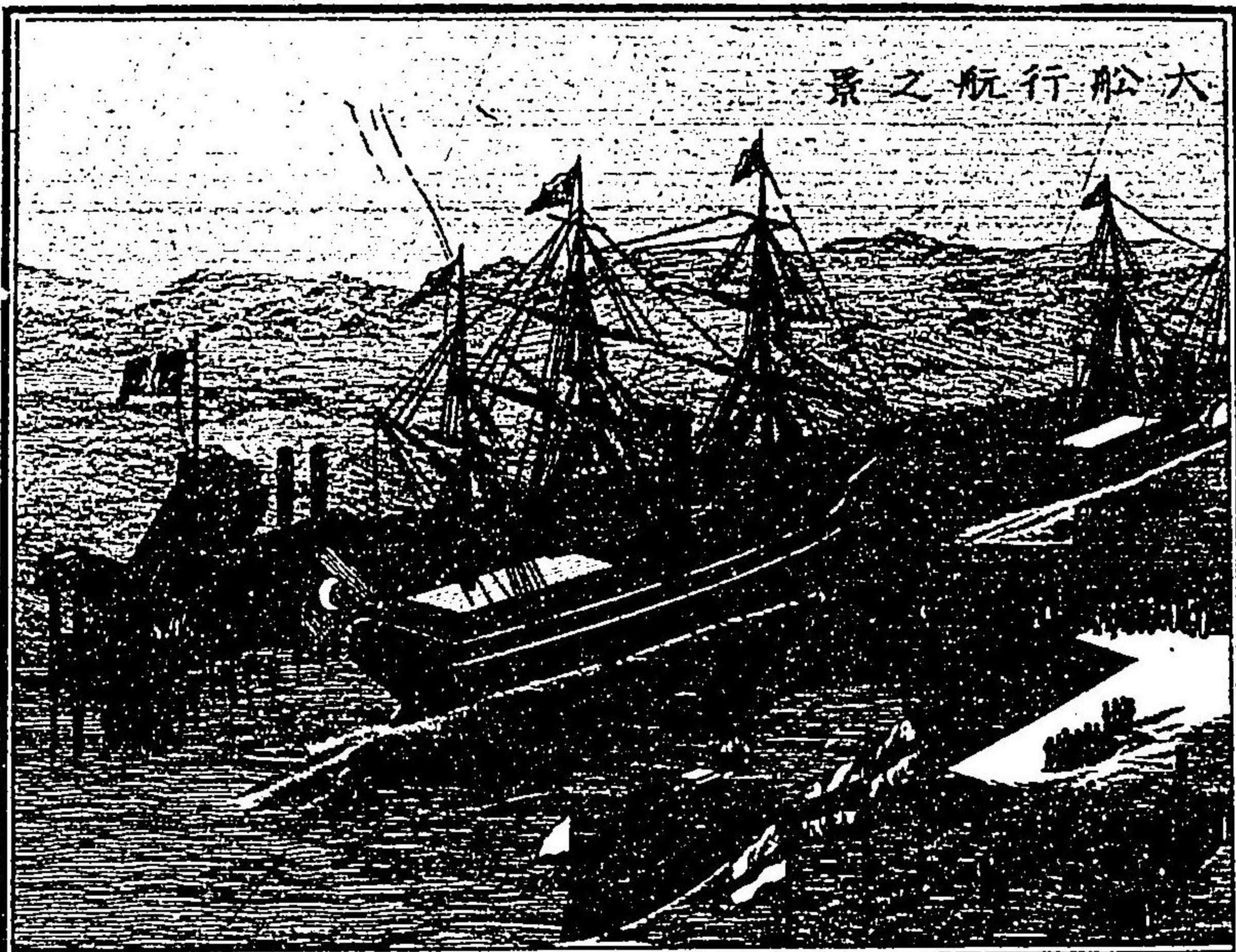


興すの計はスエズなる地峽を開鑿するにあり
 是を特に一國の利益に非ず地球上
 無限の利益を與ふるの千古の美舉と云ふべしと
 懇々陳論せしより國王深々悦服し
 毅然決意し且曰く此美舉にして成らんとは
 朕國力を盡し以て従軍すべし其事業
 若し人力にて爲す事の能はずと決しおは
 又詮方あかるべし苟も吾人力の
 成し能ふの理あらば如何なる障礙も遭ふ由も
 朕は決して中止せず神も誓て舉行せんと
 レセプス氏も感激し尙測量をふしたるよ
 必ず成功あすなきの見込十分立ちたりき
 因て此舉を佛國の公議にかけし其論は

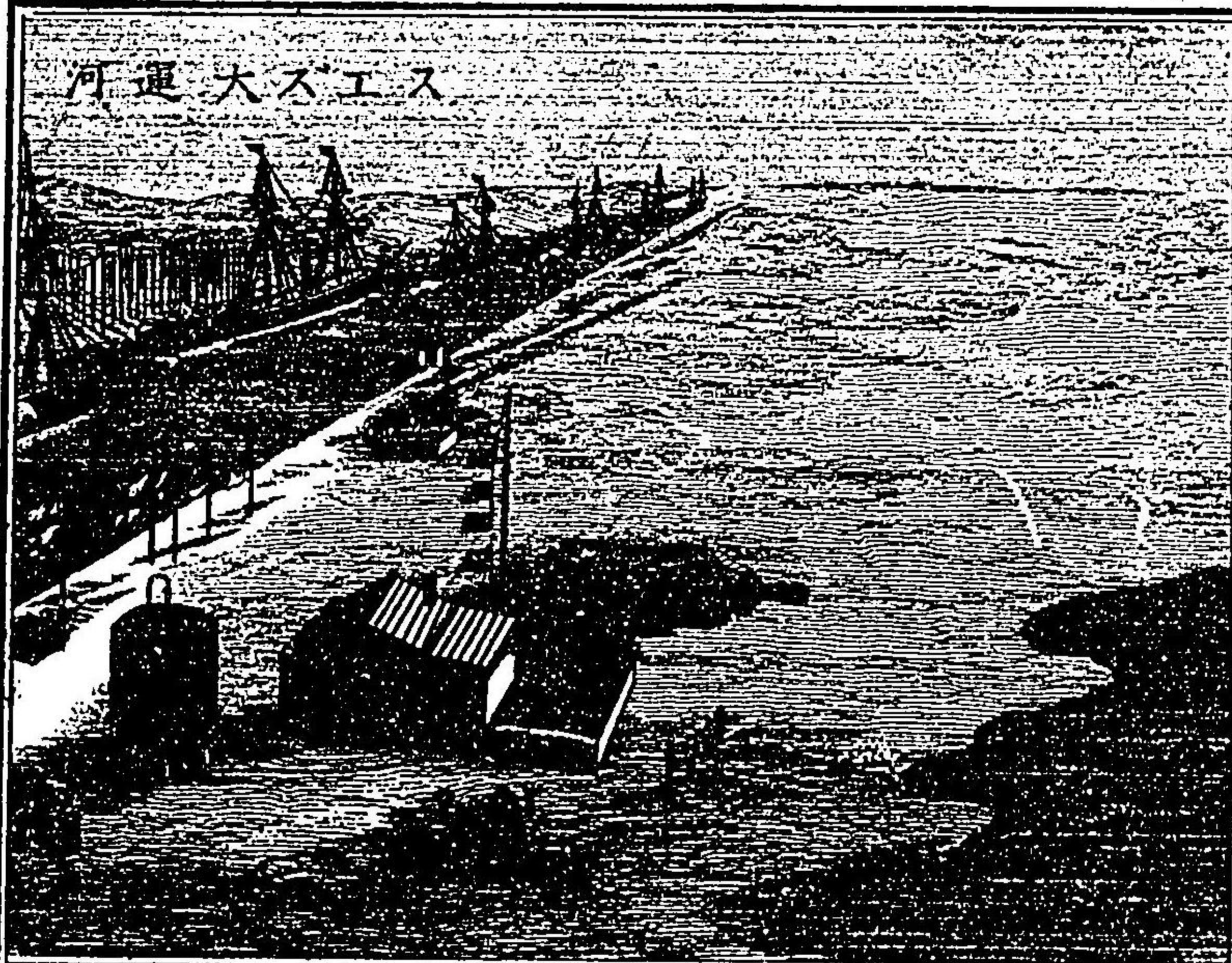
スエズ運



拿破侖第一世埃及攻略したる時
 運河を開きの企圖ありし屢測量ふしたるも
 到底無功の説多く終に此議は止みたりき
 其後埃及アリア王英佛二國と協議して
 大に此議を興せしも英國之を肯ぜず
 且アリア王歿し王位再び中止し先王の
 イスマエル王即位前嘗て佛に遊學し
 即位せし後は佛國より政治の顧問を爲さんとて
 學士数名を僱聘しレセプス氏は蓋し其
 一人にして國王は厚を今氏を禮遇す
 レセプス氏は是より先埃及國へ領事となり
 赴任せし時國內の地形を詳悉かしたるは
 常王に説て曰ふ埃及國の富強を



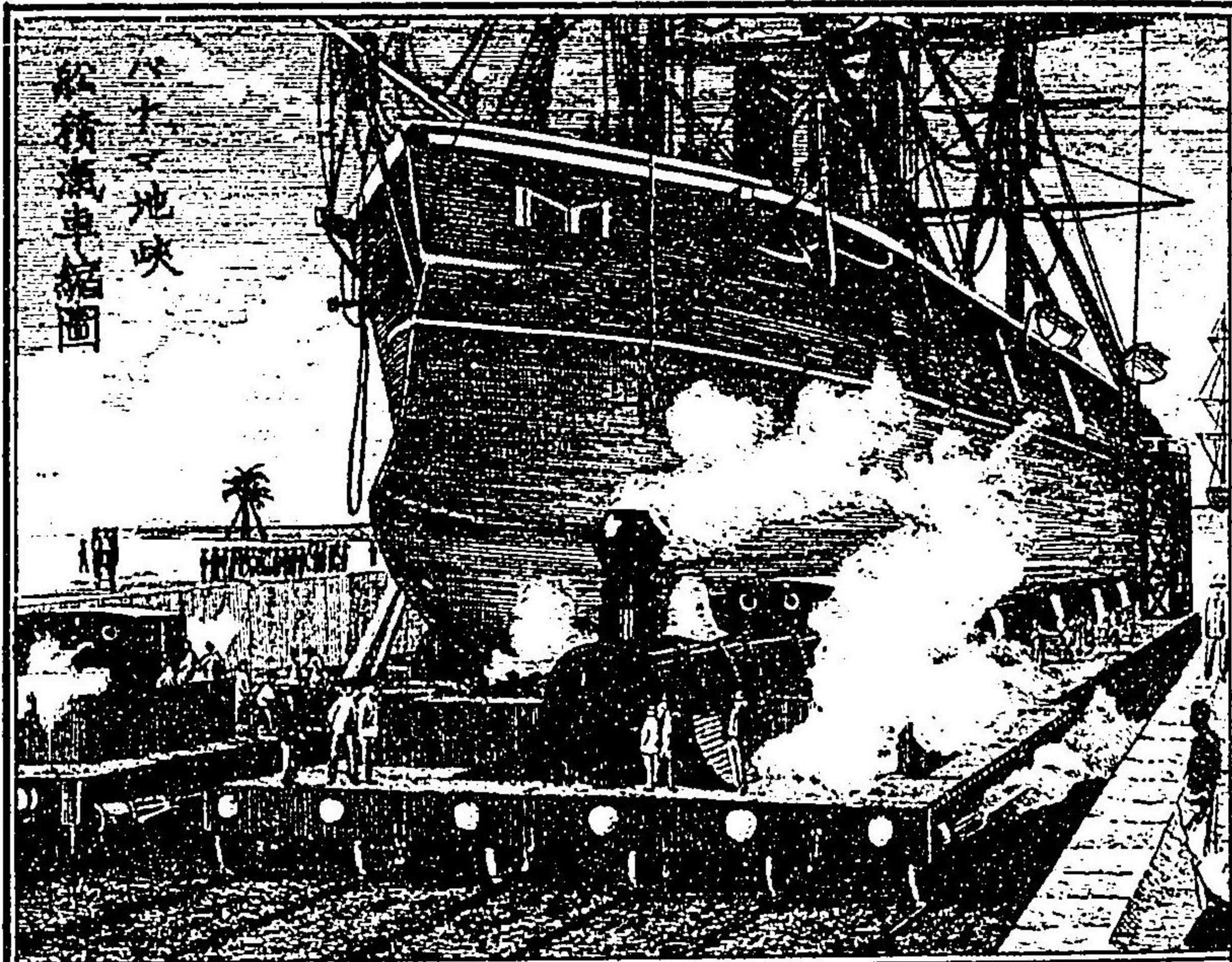
夫き尋常の人あきば右らの物情なすとすも
 元来百里の地を開闢大業あきば憂慮して
 沮止するもの多かる至大の妨礙又排し
 其功業を遂げんとすレセツプス氏が膽力は
 實に異るべを盛んあり
 氏は本國の議を聞や毅然志を堅として
 我一身に擔任し先づ土耳其國に往き
 辨説盡せし末竟に國議を定め同意させ
 次で英吉利國に往き反覆論議し竟に又
 当英國に承諾し夫より諸國に歴説し
 利弊を擧て説明し懇篤辨論あせしかば
 猜忌の心は一變し協同心を誘起して
 竟に資金を放出し其舉を助るに至りしは



談事業を啖る天然の於ては或は障礙なけん
 只人知をば傷める大妨害の眼前に
 横ひらぬあるのみぞ
 其意他あり埃及は土耳其の管轄國あるに
 國內大利を興起して駿駭富強の緒につかば
 土耳其必ず嫌忌せん加之英國は
 印度の屬地を領すきは甚だ自國に利益あや
 殊に近年スエズより並に歷山大府まで
 鐵路正に成就し利益を占むるの際あきば
 佛國人の意見よて運河を開鑿せらるれば
 其不利あるや無論あり是らの障礙を首とし
 各國よりの偏執は頑然破る能はざる
 困難事情のある意あり

彼の唐土は名も高き、蕪素張儀が連衡を辨論せしむ争か其難きと比すべきや
 是より全氏は埃及を主とし佛國助成して他國も之に捐金し開鑿事業も着手せり
 おき方全氏が雲霧をば開きて方一晴天を仰ぎの快を得るなきは是より周圍の困難は
 開鑿事業と諸とも一レセツプス氏に纏綿す凡る非常人々が超越事業を成すものは
 非常の耐忍強力の精神ふけきは必ずや其美を保つ得べからず全氏事業を執りし後
 数年間は成功の端緒更に見出さず各國物議囂然と其漫るを誇るあり
 業の不成を非する説・蝦毛の如く起りたり此時役する人夫の數二万人の上に出づ
 元より埃及未開國機械の用意も不充分加之此邊は赤野沙漠の曠原にして
 炎燭躰を熱を如く役夫厭苦の歎声は炎熱共盛りて四方の謗議は限りあや
 内外全氏を衝撃す瘡痍忽ち乘じ来て役夫死亡又多々資金は空竭せんとせり
 因て全氏は資金をば諸國に募集したりしも誹謗の惡評勢を得て全歐洲に充滿し
 或は曰々此業やレセツプス氏が巧みよし私利を嘗むものにして事業の成否は早既
 氏の眼孔中より脱出す成功するの理なしと媚嫉するの輩輩ども撓沮の説を煽動す

THE LOCOMOTIVE WHICH PILE SHIP
 ON THE ISTHMUS OF PANAMA.



巴拿馬地峽
 松橋火車橋圖

氏は証明を排撃し畫は督一つ夜は思ひ
 實に忍ぶるかざる難苦を忍び勉めたり
 且此時に諸國より親信せらざし人々を
 派遣し實地は事業をば勘査あらん事を請ふ
 各國之を許諾して驗査せしむ此時は
 土功は已に半程の成功より及びたり
 此より流言衰へて資金も次第に集りつ
 最初埃及國王に建言せしより星霜を経る
 十有五年の功を積み八千萬弗有余の
 資金を費し芽出度も一千八百七十年
 始めて松橋往來し年々收むる純益は
 一百万四以上なり此株主の重なるは
 英吉利國たりそきはスエズ地峽の掘割は



熱練技術の奇觀あり且つ勉強と熟練と
 資本の三者抱合し成功したるものにして
 國家の爲め、氏の爲め、深を賈する美事こそぞ
 の右、上欄に掲げたる松積、瀛車の縮圖は
 南北亞米利加地續きの巴馬、布設し太平洋
 大西洋との通航を接續せんとするあり
 頃日其旨を得たる故、參考の爲め掲出す

ヌビア國之部

ヌビア國は埃及の屬地にして古代は
 エシラピヤとひびき、北埃及又隣して
 南の方はアビシニヤ、東アラビヤ灣にして
 西は沙漠と接續す

氣候夏季は炎熱して、大氣乾燥水氣か

欠

MISSING



且商業を憚忌せり。○家屋の制は低くして
壁は不潔の泥を塗り瓦は粘土を形どりて
大陽に乾し用申あり。

○國の産物穀類やフランス豆西瓜あり
烟草咖啡透鏡とす此國菓樹は椰子の外
更ニ實らず動物は羊小羊豹駝や
羚羊等とあす。

カルツーム府之記

カルツームは首府として埃及政府此地に
總督を置き全國の政務を總管せしめり
人口二万五千人地位は青白ナイル河の
互に落合ふ要處にて紅海の濱スアキンの
西南三百九十余英里又ア全國通商上

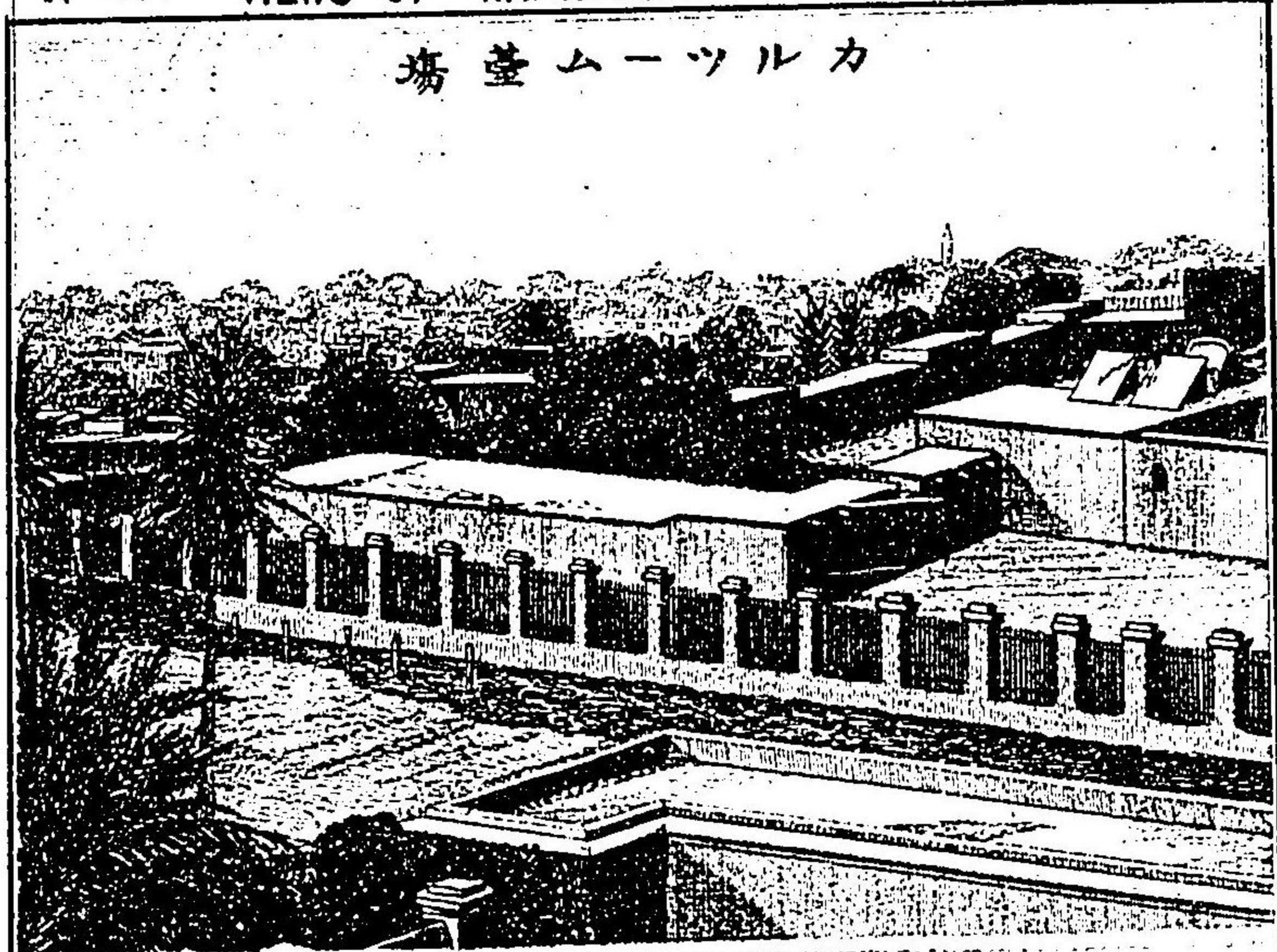
又緊要の市場也。

○此府一の城塔あり。是ふん近頃回教の偽聖と英國有名のゴルドン將軍最後の劇戦あせし處あり。昨年七月刊行の龍敦タイムズ新聞を聊か茲に抄譯せん。

カルツームの城中に在りて親しく其城の陥落せしを目撃し且つゴルドン將軍が最後を傍に見届し醫師の直話を掲げし將軍久しを籠城し城の四面を守らしむ兵士も日夜血戦し久しを籠城あせし間も兵糧次第に空乏し馬さへ屠り喰盡しビスケットの外糧盡て終には護謨や棗樹や蘆筍食ふに至りしが偽聖は忽ち機に乗じ一夜オムドルマンと云ふ陣所を發して黎明に城を襲ひて商估を殺して財を掠む車教を知らず三日の後全々市街を襲撃し婦人の外は悉く殺戮したり其中の五十余名の兵卒は醫者此中に在りし也。偽聖の味方は服するを堅く誓ひたるを以て纒命をなすけらき衣服を剝がきて追放せきゴルドン將軍始めより彼の回教に改宗を屢促さきたるも断然之に従はず。初日の戦争に死したるも流石は勇者とけありて其死に當り大軍を相手に縦横奮戦し威名を後世に輝す。

次ノ二ツの VIEWS OF KHARTOUM: THE EORT.

カトルム一臺場



VIEWS OF KHARTOUM: ... LOOKING DOWN THE NILE.

カトルム一ヨナリイ下流眺望



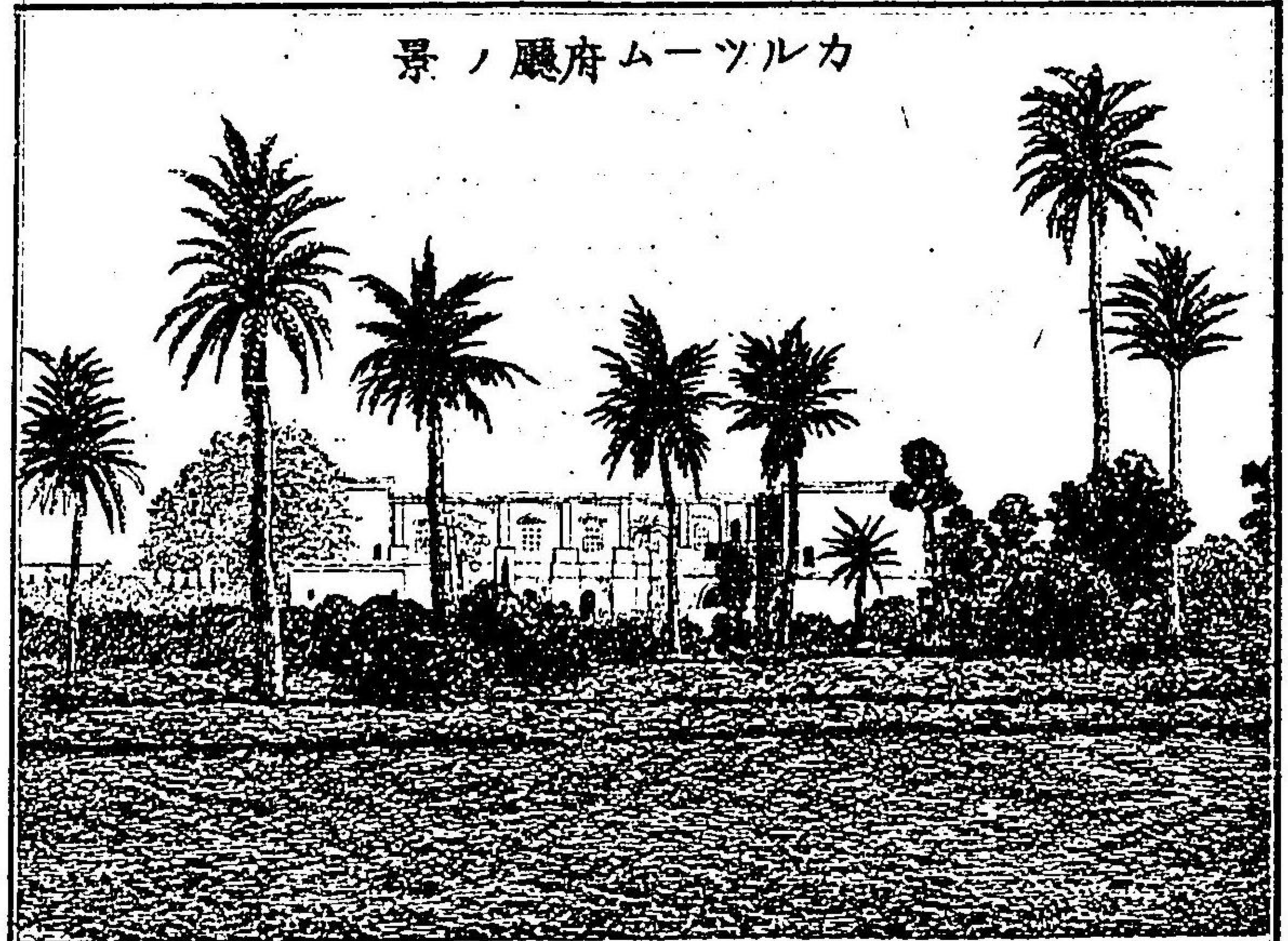
COSTOM OF ABISINIANS.



アビシニア人風俗

阿比西尼亞國之部 又ヒアガルソム山よりマツスア達陸路 驛略五百二十英里
 亞比西尼亞は又ヒア國東南に在り南境はガソマウリに隣せり西南隅は入跡の稀なる内地に連りて境界詳らからざる其紅海の濱邊を以て埃及國に攻め取らせ版圖大に減せしむ其幅員の概算は一千七百万方英里人口僅かに三百万地勢は率高原して海面を抜る八千尺殊に山脈連亘し高峯一万六千尺故に河脈も多々してナイルの一派藍ナイル其源を山間の大湖水より發すなり氣候寒暖大差あり元來熱帶地方にて赤道直下に接近す谿間及海濱は

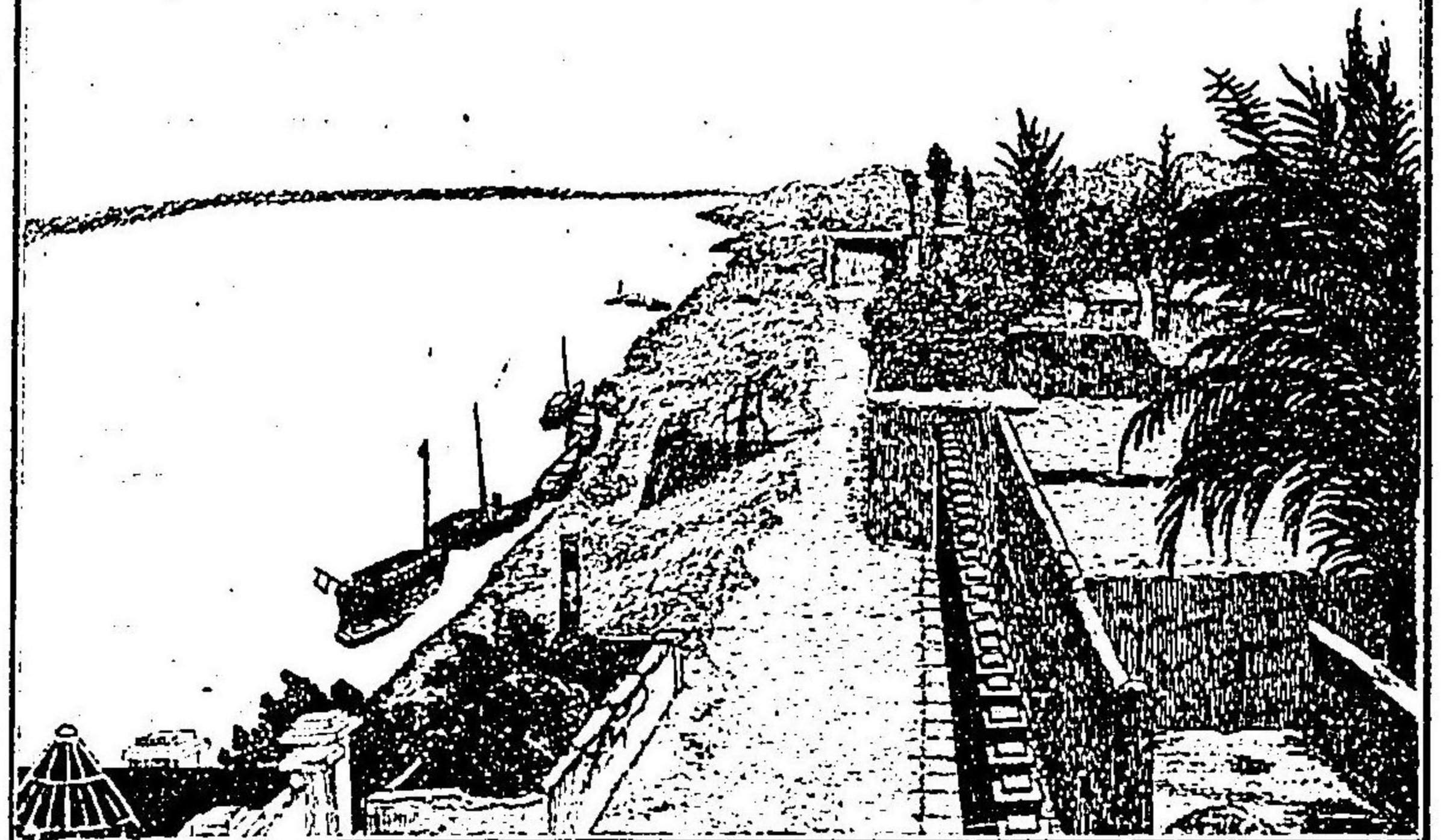
VIEWS OF KHARTOUM: THE GOVERNMENT HOUSE.



景ノ廳府ムーツルカ

VIEWS OF KHARTOUM: LOOKING UP THE NILE.

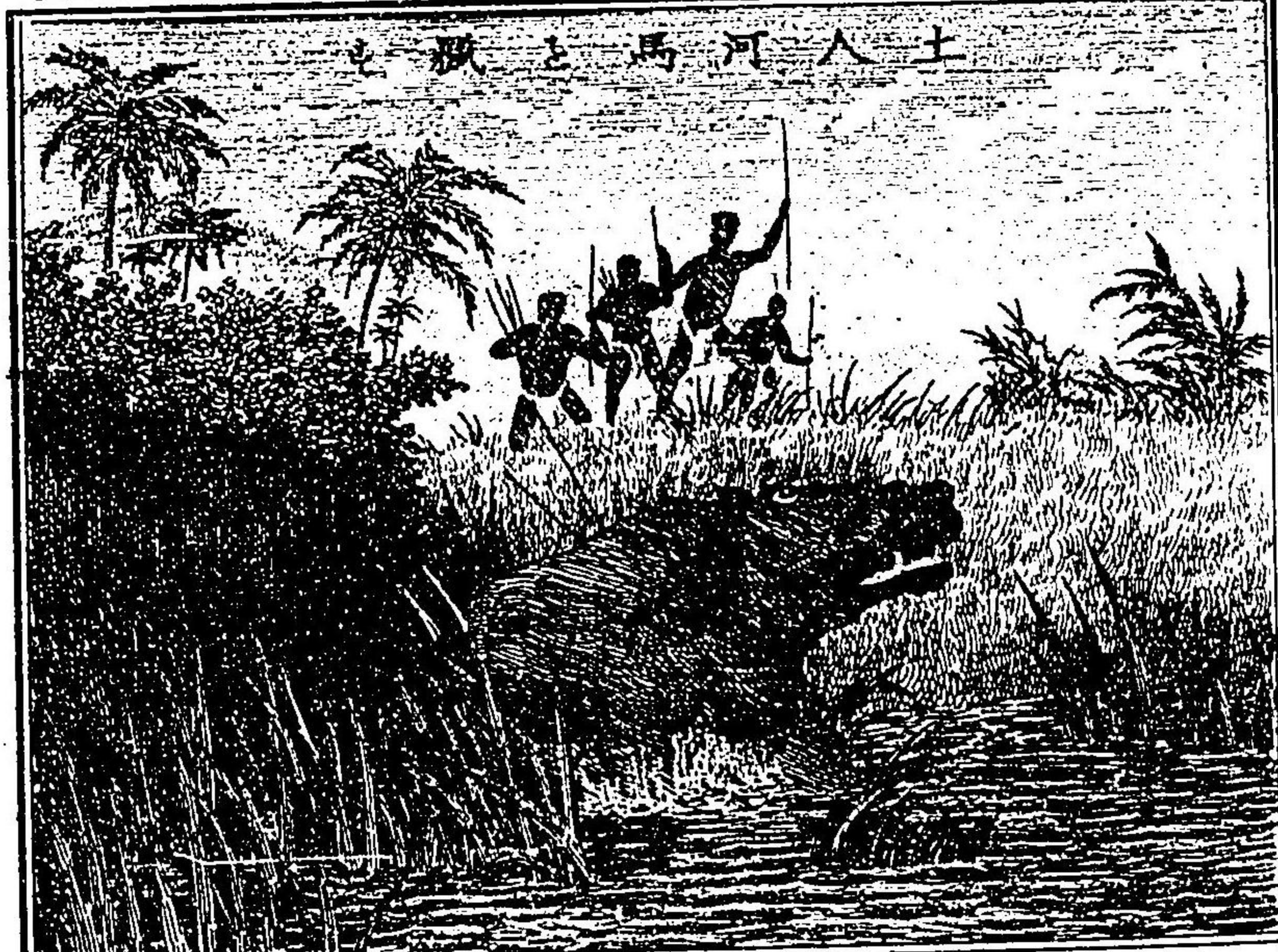
望眺流上ルイナリトムーツルカ



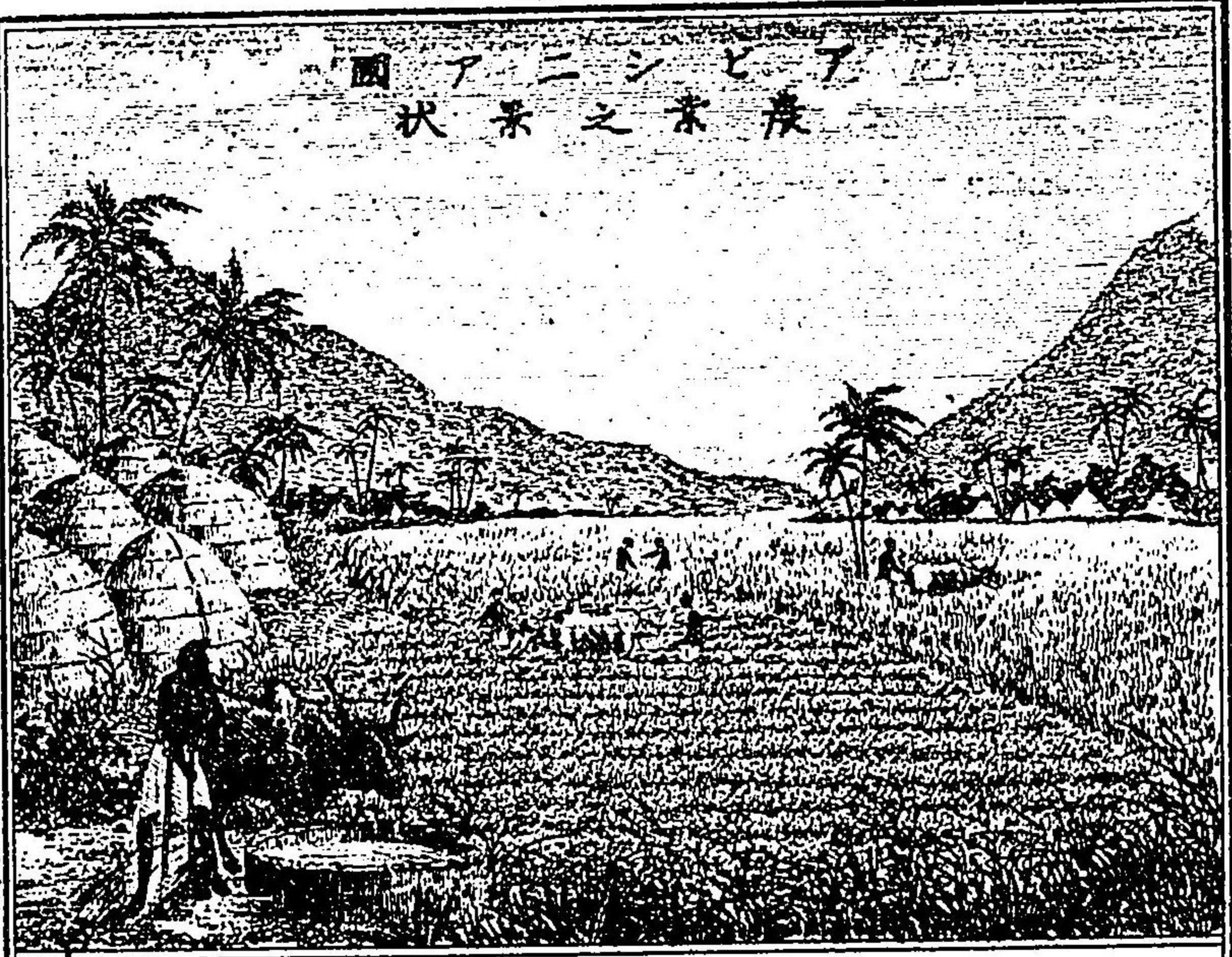
ナイル川

CONDITION OF HUSBANDRY.
IN ABISINIA.

五四 NATIVES HUNTING THE HIPPOPOTAMUS.



土人河馬を射す



アビシニアの農業之景

周歲酷熱塔へ難々高原の地は溫和よて
山上甚寒列とす且毎年六月後
九月迄は霖雨あり其量殊多くして
恰も瀑布異ならず人家牖戸を皆閉て
戶外の事業を廢すあり
産物甚多として金銀寶石鐵石炭
ことチクリス地方は平原中石盤ありて
地底數尺穿ふば隨處に雪白純粋の
品種を得ること限りなし又土壤は膏腴よて
年中三回收獲す然りと魚も上産し
下は惰よして良田も遺つて荒蕪の土地とあり
森林鬱茂し草木は栄を競ふて發生す
故に禽獸又多を獅子犀象河馬豹駝

鯨魚巨蟒は山や野に遍々蕃息ふし居せり
蓋し此國古代より久しき一強國をふし
戰乱常々絶間なく世人稱して阿非利加之
グレートブリテン國といひ其名も高々聞へしが
降て二百餘年前國內大に分裂し
許多の小邦國となる爾來數多の酋長が
分ち領して獨立す其中主なる邦國は
チクリアムハラソアサマラ其他小なる部落とす
○人種は蒙昧野蠻よて文化開けず暴戾よ
殘酷淫逸俗をなし奴隸の賣買又繁々
之を市場の奇貨とせり且人命を輕んずる
土俗の如き酋長は生殺與奪の威權あり
○宗旨は固有の異教あり一千五百餘年前



東部非洲加利加地内之橋然天
Wami天然橋

大洲東部の総稱として之を區別は四邦とす
即ち索謨利邦や瓦刺桑給巴と莫酸鼻
何ぞ七熱帶地方にて氣候炎熱堪へ難
瘴氣昇騰甚し其海岸は低平して
樹木鬱蒼水流は最も多を巉岩や
丘陵突起し内地みか高峻山脈連亘す
猛獸鱷魚巨蟒之類到る所は群をかし
土人の風俗殘忍は殺戮抄掠事として
奴隸の賣買盛なり。

索謨利及瓦刺國之部
二邦共大洲の東端に在リソマウリは
海岸地方の稱としてガラは内部の各地を云
形勢風俗略似より但し幅員人口は

東部非洲加利加洲總說

論ずるに足るものなし。○部邑の有名なるものはサマラ邦のマツスア港入口一方二千あり
是は埃及屬地とす。チクリ邦のアト口府は人口八千余人あり。隊商多く往來し
貿易上の要地とす。各都市邑の風俗はヌビアと大同小異のみ。故に茲には記載せず
○河馬は専ら阿非利加に甚だ多し。他國には絶へて産せず。大サは象に亞げども獸類中
巨大の者あり。其高さ五尺に近き形状は極めて肥満し。彼の腹下地を距る僅かに数寸のみ
口唇平匾潤大。鋭き牙を具へたり。眼小にして鼻廣々。面最醜惡あり
全體暗黒色にして毛無を皮革厚をして。二寸乃至三寸。余利刀も容易に破り得ず
然り而して此大獸。常に水邊住居して。能く水底に潛伏す。只身の運動鈍き故
陸地人を害すなし。水行舟を覆へす。河馬陸上は居る時は土人手頃の鎗を投げ
箠の如きと突刺して。終に之を獲る時は。皆其肉を喫食し。其牙を所用に売つと云ふ
獵景右之畜の如し。

遊牧土民之狀



未だ詳説す處からず或は云ふ幅員は九十万方英里人口一千二百万城内土人の部落あり酋長ありて主人を御す風俗殘忍汚下にして更ニ進化の象を見ず土人はカツプル人種と黑人種との中間にして肌膚皆赭黒色をなし頭髮甚多卷縮むなし概ニ遊牧業とあり城内處々ニ散住す疆内舉ぐべき邑間かし只北岸のアデン灣ベルベラといふ港あり毎歲十月初旬より翌年四月の末迄は埃及又ヒアアビシニアペルシアアラビヤ地方より商賈來りて貿易すソマウリガラの産物は獸皮と象牙と鹿の角製造品は更ニなし。

FARMING OF NATIVES.

内地土人耕作



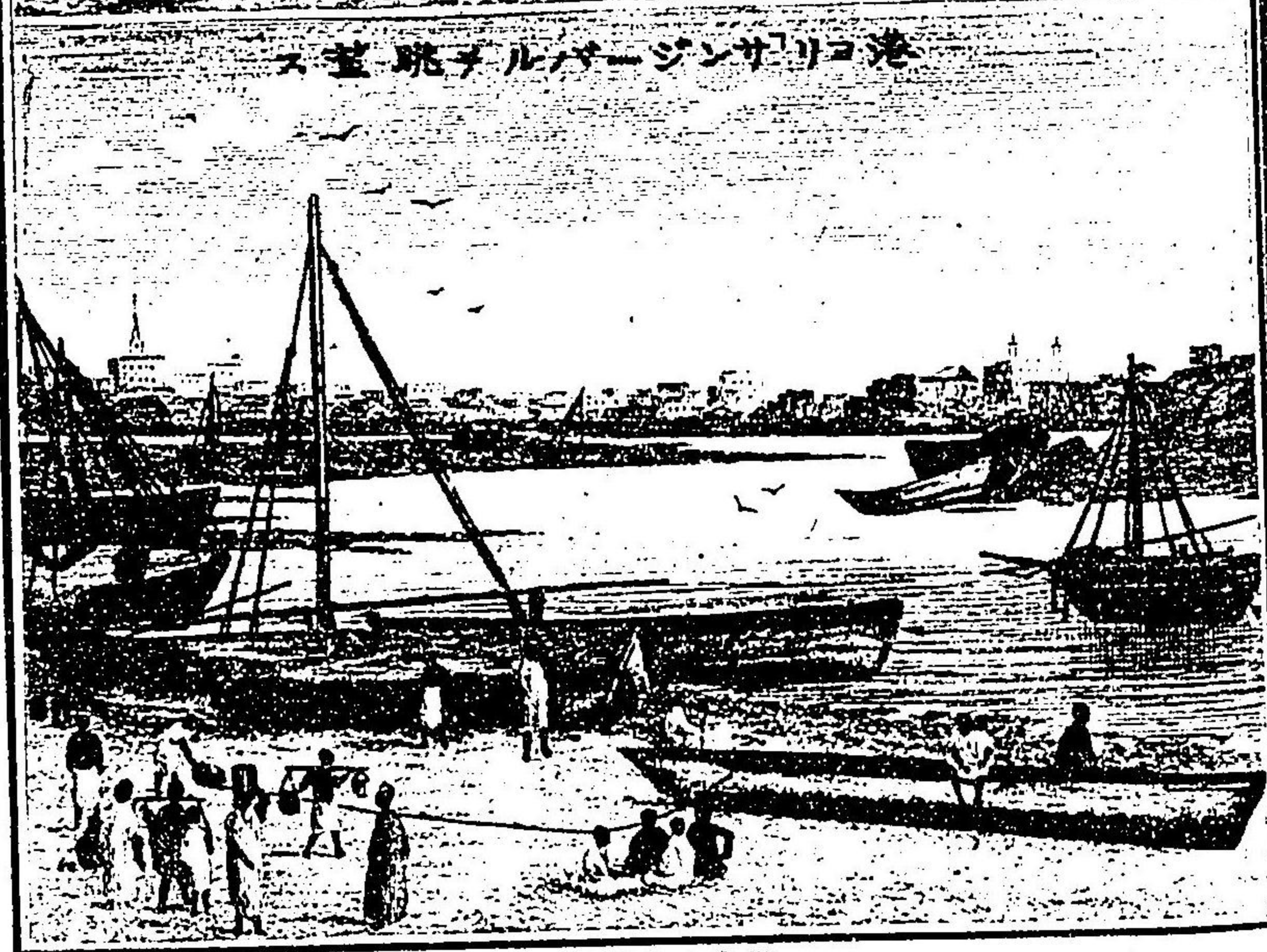
ソマウリは河脈多して海邊肥沃の土地あり未だ曾て開墾なし只酋長の所領地は田畑僅かニ耕作す。ガラは膏腴の耕地なき荒野遊牧野民のみ勢力あるの土民は他の土人らを生捕て奴隸とかし取賣し邪惡兇暴限り多し互ニ鬭争止む間なく其風俗の無慘ある悲むべき又厭ふ處し。東部一の邑間ありハラルといひ咖啡や木膠奴隸等を以て貿易品の主とす。○ソマウリの海南東方ニソコトラといふ島嶼あり。這是マスケット支丹の屬地なきとも近き故茲ニ併せ記載せり人口五千有余あり。

THE TOWER NI SEASHORE, ZANZIBAR.
VIEW OF ZANZIBAR FROM THE HARBOUR.

次十五



ス望眺子ルバージンサリコ港



鑄源長世盛松

SEASHORE OF ZANZIBAR.

十五

島一バジンサ
園園灰館居丹支



桑給巴國之部

サンジバーはソウリーの南に隣る國として
世に支丹領といひ稍進化せる國をかし
推算するに海岸の長さ一千英里余
人口一千余万あり海岸夥多の島嶼あり
其中最も名高きはサンジトバー島として
支丹居住の都邑あり大陸地方大半は
此支丹に隸屬し余は諸酋長分領し
皆支丹に貢を入るの氣候産物風俗は
既以前文掲げあり教法回々信者のみ
サンジバー島之記 ソウリー國ベルベラ港ヨリ
當島迄海路一千九百五十英里
大陸を距る二十余英里長さ四十八英里
人口二十五万あり地性豊饒樹多く

PICTURE OF SULTAN.

今世支丹 像之トイサ .ンベ .シガルバ



軍艦三艘附屬松四艘ありて以上みか歐洲製と保る也。

○政治は君主專治にて今支丹の稱をシイイツドと云其名はバルカシベンサイド也

一千八百七十年十月七日賣兒のサイドメイツド歿せし後位を継ぎて下民をば

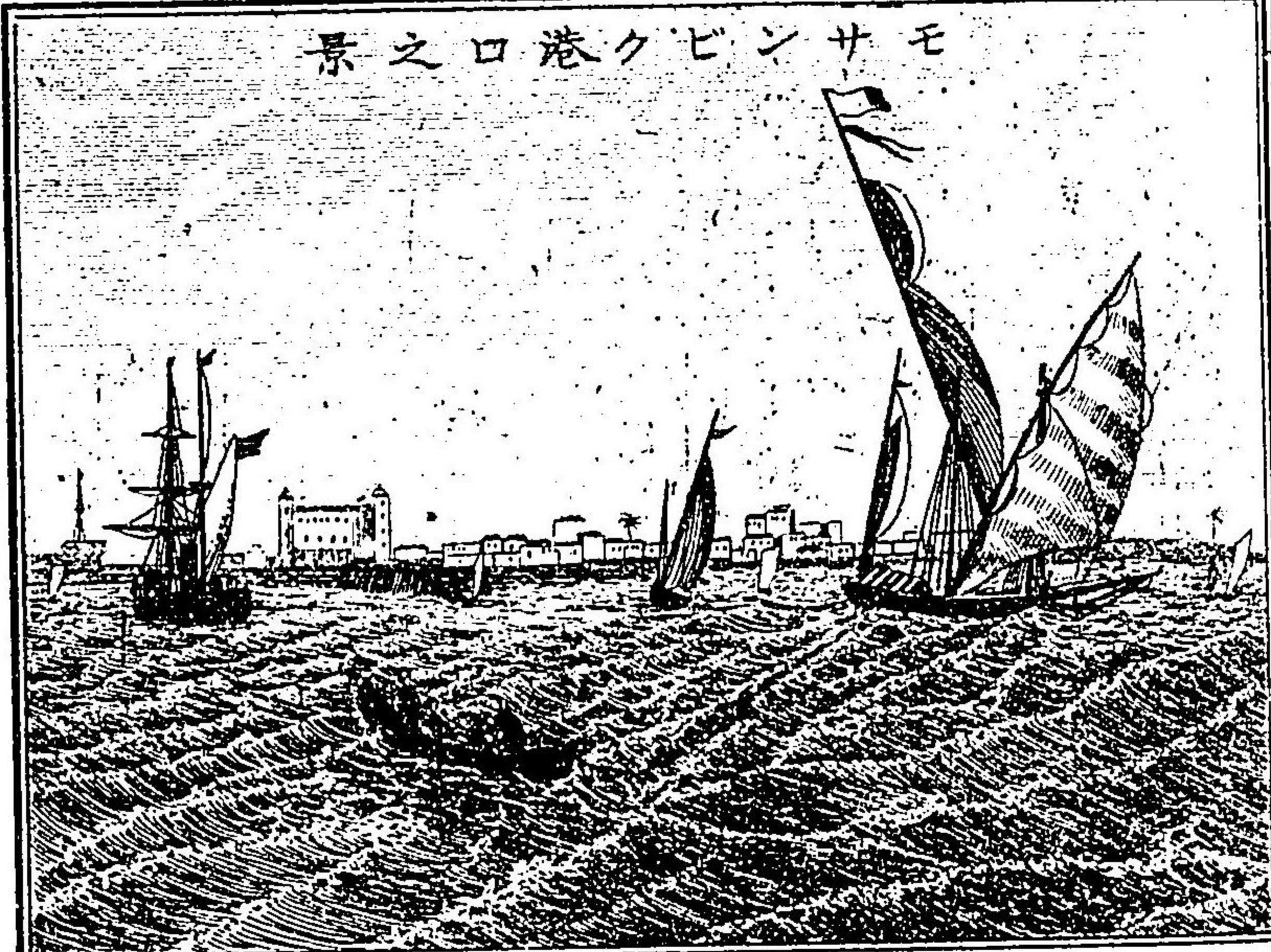
統御したり此府は貿易甚盛んよて輸出品の主あるは象牙丁子木膠や

木材寶石等と云す輸入品は反物や米穀銃砲石炭油英米日佛印度人

阿刺比亞彼爾社の商人はシヤンカンニ居留せり基督教の宣教師大陸島嶼に傳導す

全島平坦沃野あり到る處に橘樹あり
園林と云す其景色甚美かり而して
奇花や芳草又多々大氣清潔香し
シヤンカンニてふ處は人口六万余人あり
是き支丹の都にて木で造りたる城砦あり
陸軍兵士当城より一千四百余人あり
大砲二十二門より五十二門を備へたる

三五 VIEW OF THE PORT OF MOZANBIOUE



景之口港クビンサモ

さきどし回教徒多し○大陸各地の酋長は
 威權甚強として何きも数千の奴隷を
 貯へ常に虐使して或は之を取賣す
 其狀ソマウリと略同也
 莫酸鼻國之部 サンジバール國シヤンカンニ府
ヨリモサンビク迄海上七百英里
 莫酸鼻はサンジバールの南に在りて東方は
 マダカスカル島と相對し中央サンビツシー河は
 西より東に貫流し河北総て莫酸鼻
 本部と稱し河南をば獲賦亞拉と名け全國を
 葡萄酒の屬と云ふ然りと金と葡萄の屬は
 海岸二三の邑間のみ其他は土酋の分轄地
 幅員三十万方英里人口三十二三万
 膏腴の土地は多として禾穀多量に産出す

A VILLAGE OF THE INTERIOR OF SANZIBAR
LIFE OF THE NATIVES OF SANZIBAR.

落村一之地内一バジンサ



俗風之人土一バジンサ



ホロイナトイナトル村落



葡國の總督駐在すソフアラ部のソフアラ港
 其他二三の邑閭あり何きも寂漠記事心か
 人種はカプトル屬として風俗固陋殘暴
 横征未爰變化せず。

大湖地方及埃林北部之説話

大湖地方はナイル河水源地方の總稱として
 埃林北部はアフリカの中央南部の總名あり
 以上の各地は昔より旅行せし人稀として
 詳しき記事もあらずし然るに近頃英國人
 ウエルソン氏は令圖とサンジバーの君主
 主人を僦りて程遠き内地へ深を進み行
 ウガンダ地方に滞在し酋長ムラサと交際し
 土地の風俗人情や總ての事を探究し

鱷魚食人及大牛



氣候暖熱冬季は霖雨數日連りて
 瘴氣劇しや健康上甚害あり本部は
 湖水と河脈夥多ありニアツサ湖は大として
 是より流るゝシール河猛烈極まる鱷魚住み
 數百千尺群集し河中に潛みて往来し
 土人と牛馬や鹿鹿を捕へて餌とせざるあり
 其形狀は吾國の蜎の如く其長さ
 十二尺より二十尺至大の者は三十尺
 跋渉する者危険あり阿非利加各地行々
 川流渚澤に住居せり旅客殊更注意せよ

○本部の都府あるモサタ人口九千余人あり
 是は葡國の屬地にて貿易通商稍開け
 市街の建築佳良かり府中三箇の城砦あり

ARABIANS SEIZES NATIVES AND CAPSUNE



アラブ人が土人及びカプシユン人を奪ふ

カプシユン某日近隣の朋友数人とナイル河の浮島ヨ行き遊びしが時しも春のかかはよて喜ばしむ心憂はきつ吹風とても暖かや四邊ヨ咲ける艸や木の美花を眺めてうち興し互に餘念あかりしが早日も西山ヨ入相のたそがせ時とかりたせば友と打連を歸り道野邊の景色を物寂し何せも父母の案じをば語り合ひつゝ行程ヨ遙か向ふの荒野より駱駝ヨ鞭ち沙烟り馳せ来る者はアラブ人忽ち去り奇せ来りカプシユン始め朋友を無惨ならしむ縛り上駱駝の背ヨ括り附けナイル河を流り七日間を経たりしが斯々数日間一椀の食を乞與へずカプシユンは

FLOATING ISLAND IN WHITE NILE.



ホワイナトイナイル浮島

且此地よて雇使したる土人の男児カプシユンがアラブ人ヨ奪はきて奴隸とあり彼地此地へ賣買使せらきたる履歴の筆記したるあり今左ヨ之を抄譯せん。其地北都之記行は英國人リビンストン氏ノ旅行日記ニヨリシモノナリカプシユン誕生せし土地はホワイナイルの一部落デラと云ふ處あり父は羊を牧畜し僅かの土地を耕して一家の糧は余りあり且綿を植へ布を織り家族の衣服又足りて土人中の富家たり此邊総て黒人種さきども人情質朴は頗る温和の氣風あり然るは隣國アラブ人強狂勇悍情義を乏し凶氣を携へ隊を組み内地各處を荒せ巡り土人と貨財を抄掠し之を賣りて業とせり



酋長之宮

中間にあるウガンダへ運送行かせて又賣らせ
酋長部下の小作人某人の手で渡させて
毎朝星を戴ぎきつ野山に出で雇使せる
其状牛馬は異ならず苦役終りて歸りおは
軒端傾を荒破羅小家骨を現はす破壁
纏ふ庭のをささへも風のまよく吹取らせ
時雨の月も居あがらふ眺めつ古郷を思ひとし
泣々日を送りける。

○さて此ウガンダ全地は大湖地方の大邑間
酋長ありて総管し蓋葦人家数千戸
此所彼所又散在しウニアムーンジやウジンザヤ
ウイ、並ニキツタフの各地と貿易通商
東ニウイクトリア湖パリンの二湖あり西方ニ



一人アラブ、シニアカ
るふと隷奴を賣り

只兩親の悲みを深々心に察せきと
詮方嘆き行程はゴンドコロイふ邑に着く
是は奴隷の貿易場二三百戸の人家あり
酋長ありて管轄すアラブ人はカフシユンや
其他の土人は首飾を堅固に嵌めつ鎖鎖以て
十二人宛縛り附け商賈の前より引出し
互に直組をかせし上獸皮食物と貿易し
拾ひ勇んで立ち去せり噫哀むべしカフシユンは
唯一點の罪ふきよ天賦の自由を剝ぎ取らせ
真個の奴隷とありたるは彼の清國や魯西亜國が
下民を虐げ政略も是は優りし事はあし
扱て商人はカフシユンや其他の者を縛りつ
ウイクトリア湖とアルベルトニアンザ湖の

A EUROPEAN MEETING WITH CHIEF NI UGANDA.
DRINKING POMBE IN UGANDA.

次十六



才見崎子長首ダンガウ入洲 歐

酒飲人土 ダンガウ



第湖長史區松

A PICTURE OF THE
INHABITANTS, UGANDA.

十六

像之人土ダンガウ



アルベルトナイエンザビアギヤフチの三大湖
南ヨタンガンイカ湖あり其他西南各處
大小夥多の湖水あり以て大湖地方と云ふ
ウガンダ地方の人民は元は瓦刺より遷徙して
邑間部落を建じたり然りと云ふも瓦刺よりは
地味甚多膏腴より産物の量又多々
風俗自然に進化して衣服の制も格りつ
音楽遊戯の具もありて近邦勁悍猛悪乃
蠻夷に倫ふる兵士もあり然るユルベルトニア湖の
西北方ヨオボと云ふ悍悪雄鷲無敵なる
甚多横征土蠻あり腕力威權強きもの
首領とありて教百の子分を養ひ近邦を
抄掠して其生活す或日オボの悪漢ら

漢 傑 之 才



オボ土人

数十百人隊を組みウガンダ指して攻め來り
 邑間を騷し乱暴オウガンダの兵急に出で
 邀へ戦ひ拒ぎし心敵は慄悍無頼の徒
 士入奴隸や貨物をば夥多掠めて逃げ去れり
 時カプシユン此中浮とありて連行かせ
 オボ止まる数月間此地は前も迷ぶ如く
 風俗殘忍極りて人間界とも思れず
 男子は眞の赤裸婦人は襁かゝ木の葉にて
 前を蔽ひしるのみ周圍事物の汚穢ある
 其貧窶の形象や見るに耐へず而して
 人の命を輕んずる土俗の如き食物の
 乏しき時は人を食ふカプシユン常は逃げんとし
 隙を窺ひ居たりしが某日幸ひ間を得て

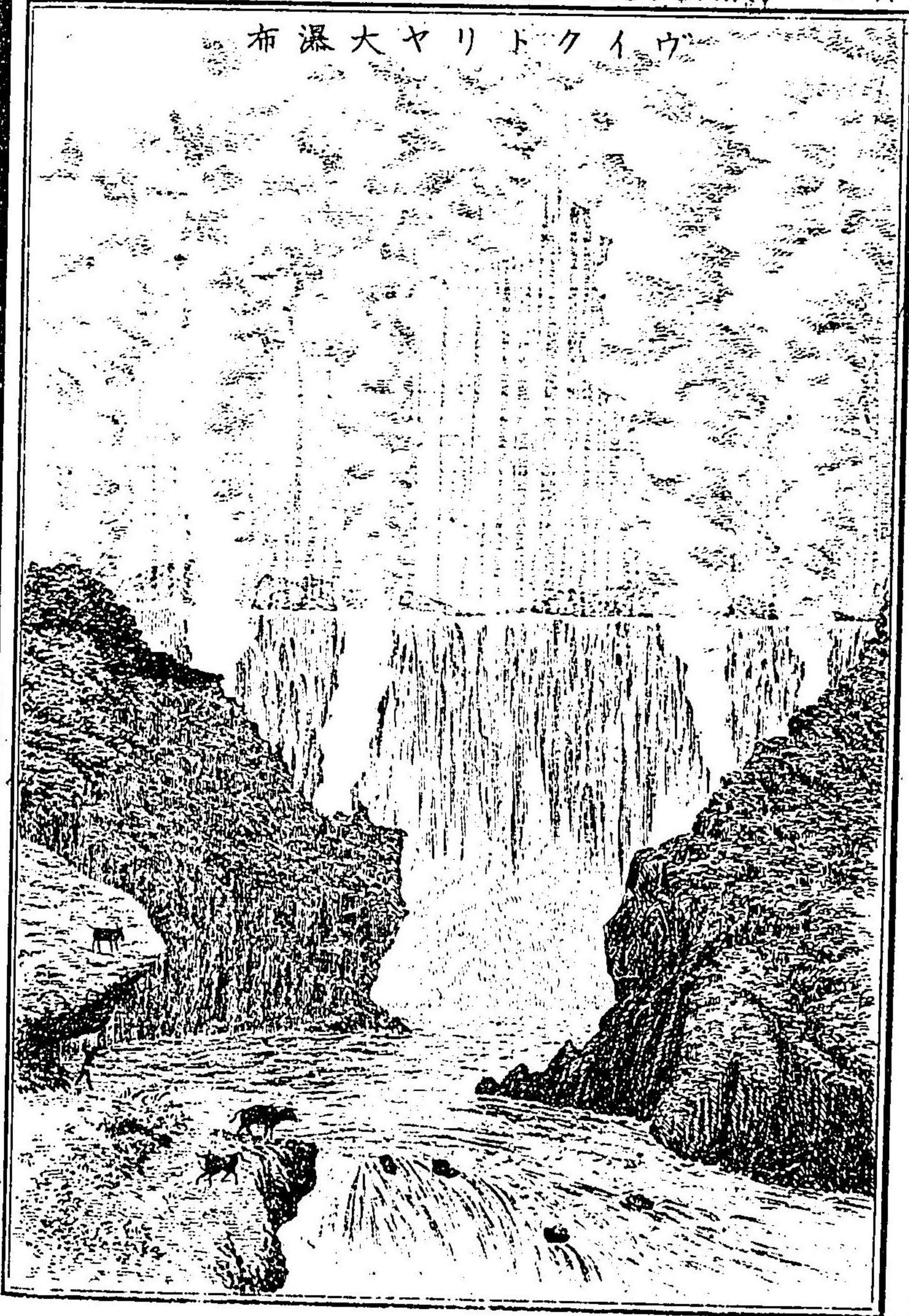
獅子カプシユンと途ふ



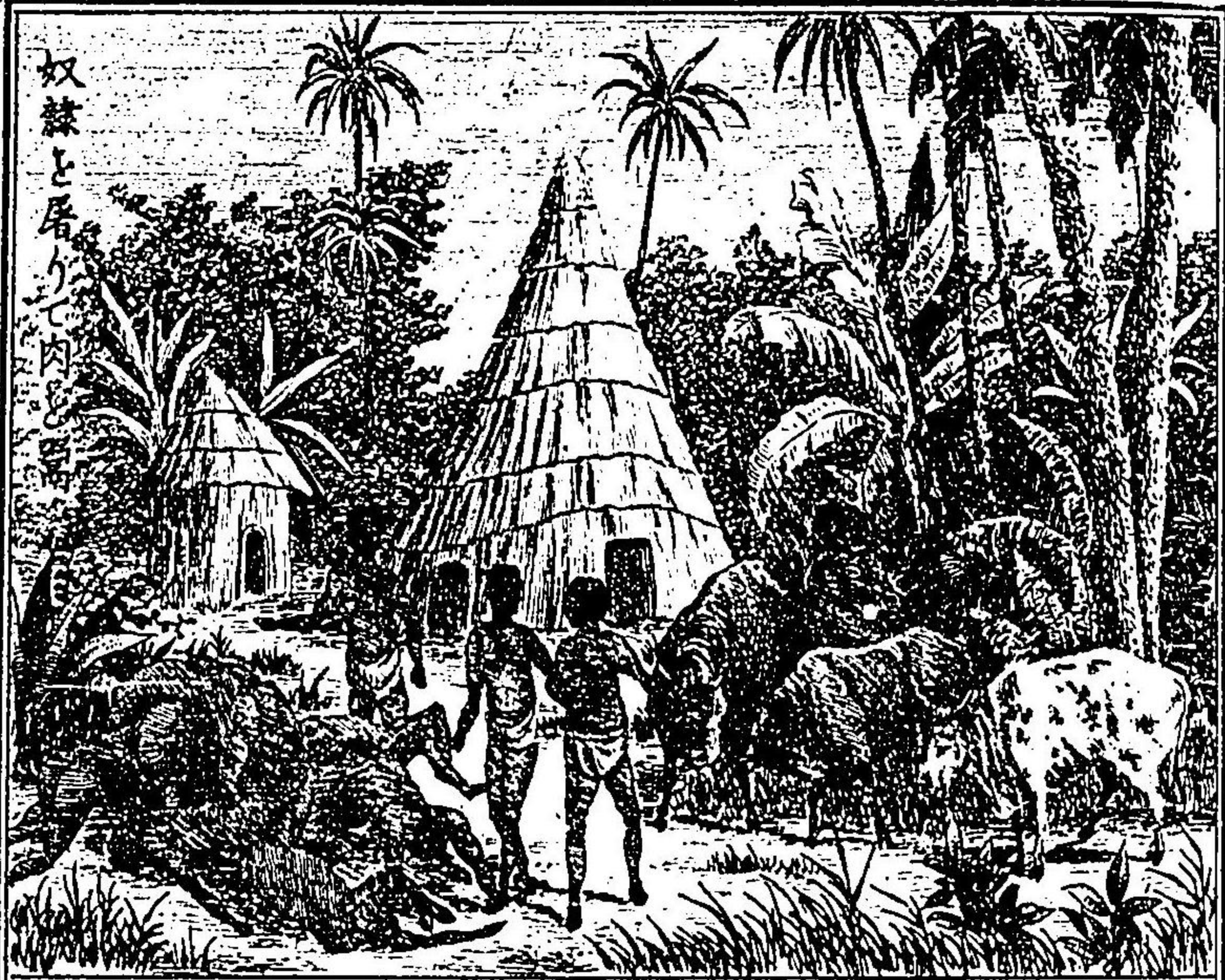
其機外やぞ遠き出山路を遠を逃延びて
 今は自由の躰ずと木の葉を敷て憩ひつゝ
 獅子の實を取り喰食し饑は凌ぎしも
 古獅は何方のなるや方角さへも知難
 且此邊は獅子巨蟒大猴多々生息し
 安眠す處き場所からず四方を望めば夕暮の
 景色ハハヤと寂しめて唯この時聞ゆるは
 赤道直下の夜嵐と藤や藟の最としげき
 古木よやどる梟の近よる我を以のし見て
 我巢を窺ふはをのし訴へんとや月又鳴
 々と哀し声はのみ
 カプシユン神は祈禱つゝ月の明りを便とし
 路かき處を蹴躓つゝ谿間を沿て下りしが

忽ち前途は大河あり迅流流々輪をかし獨木橋もあらざれば左方踏分け進むうち
 夜も黎明は近々あり暫時休足居りしが歎ち聞ゆる百雷の朝食を求獵獅子の聲
 響き渡りて凄愴しカプシユン心を勵まして麓に攀縁るババアの大樹を便り奔り出で
 半途攀ちて見下せば獅子奮迅群をかし吾を捜して過ぎ去せり此巨木は今を去る
 三千乃至四千年最ん古きは五千歳以上を閱する老樹にて並非利加洲の著名也
 木理學にて確定し植物學の詳記せり則ち右の番の如し
 却て説をカプシユンは一呼吸ホット昊天を仰ぎて神恩を謝し四方を眺めば南方は
 曠漠無邊の荒野にて背後右方は嶮山高く左り一帯巨流ありカプシユンは獨り言
 吾幼時父は聞く凡る人家の無き土地に踏み迷ひおは河は沿ひ必ず下流を行べしと
 父の教へは隨ひて淵瀬定めぬ獨り旅古脚を思ふ一念は艱難辛苦もうち忘き
 足に任せて流き行心の裡を哀きあり
 斯て幾十日を経マシエマロンダの地を過りマコロ地方に迷ひ入リンヤンチに來りしが
 此間カプシユンが艱苦名状す盡かすどと虫ども紙教に限りあきは略す是地は叢林の北部中

布瀑大ヤリトクイウ



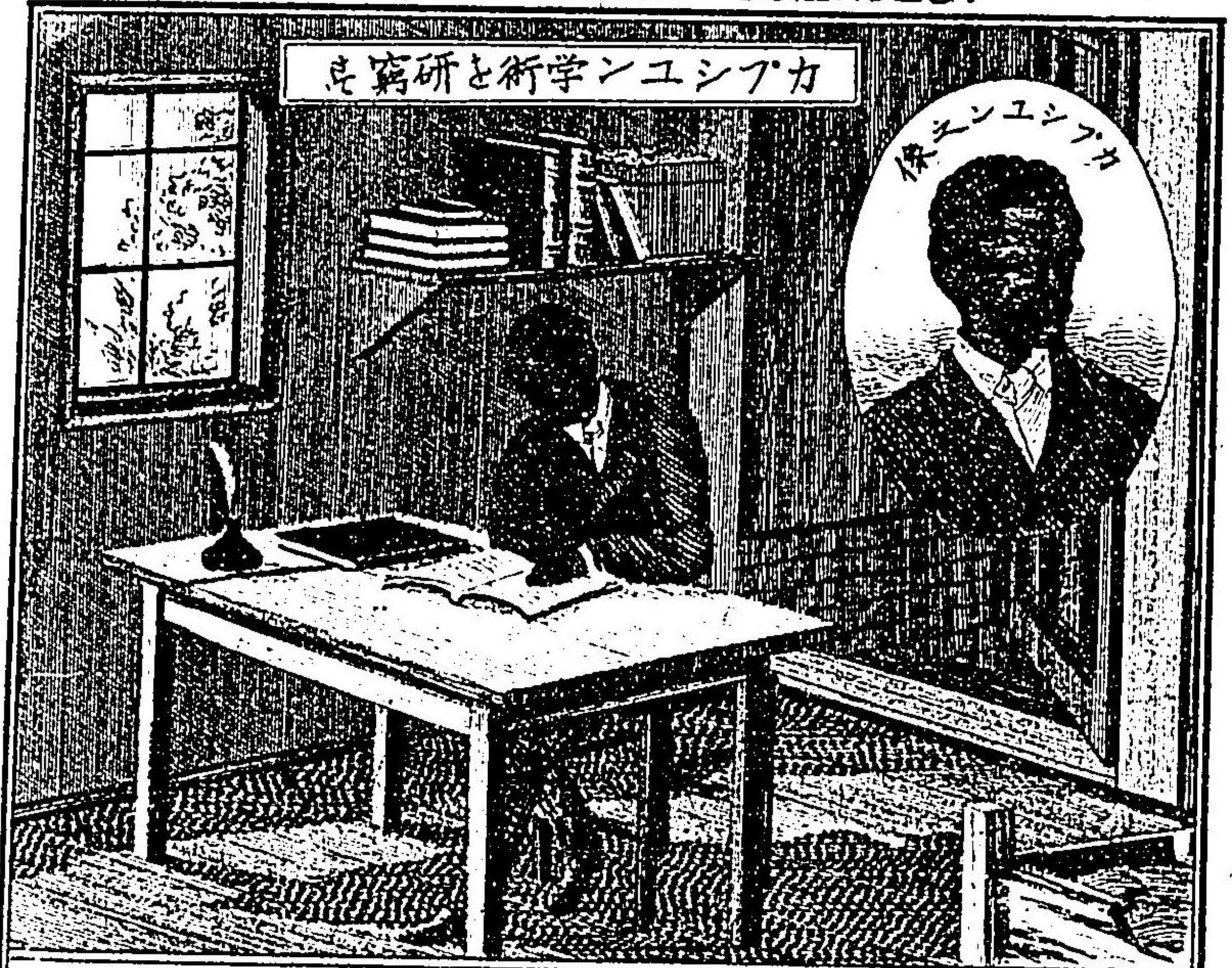
最も大なる邑間にて茅廬一千五百余戸・人口八千餘人あり・地位サンビツシー河の支流なる彼のチヨツフ河の北岸にあり此土地の酋長威權熾にして近邦各部を蚕食す氣候甚炎熱けきと晩涼頗る快を得て地果豊饒産多く禾穀の收穫年二回バナバブ椰樹や檳榔は山野に叢々繁茂せり土人は剛毅勇あせと矚目野蠻の夷狄のみカラハリ砂漠の近邊やベチニア番部の土人は多々此地に通商すベチニア土人の風俗は頭髮短々捲縮し獸皮の單衣を肩に懸く婦人は短袴を穿つあり玉石連珠を首飾とす男女肌は黧脂を塗抹・赤綠顔料混和して頗る奇異の状を爲すカプシユン漸を具て來て奇觀を眺め居りしが酋長部下の悪漢ら忽ち捕へて奴隸と酋長族戚門閥家某の手は賣せしが彼をカプシユンと猛牛を十有二頭引出し上等婦女と貿易すカプシユン翌日逃ぎ出テチヨツフ河を遶りサンビツシー河の上流に出四英里半を下りしが全川大なる瀑布を爲し絶壁間を奔下せり右に掲げし眞番はリビングストーン旅行之際眞写せし者よし凡・ウキトリア之瀑布と云直立三百六十尺・幅七百餘尺あり中間遠か狭隘なり雷震極海澎湃し中間煙霧を蒸騰す其煙五條の柱とあり



奴隷と屠りて肉

カプシユンを訪ひ阿非利加の内地の事情を探問す
カプシユン人又會ふ毎己が経験せし事情を
最と懇切に談話しつ且常言へるやう
吾幸ひ是地を來て世の大勢既知
然るは故郷アフリカ乃兄弟姉妹は何故
無智猛悪の野蠻をや予内地を経歴中
炭朴北部は漂流し奴隷とかりて西南方
錢内亞の内地サボンダは虐使せられし時杯は
人を屠殺取賣し人肉料理し需あり
各家の厨下に至るは半は焼き炙る人間の
手足首級は狼籍し厨房碧血淋漓なる
屍を多を堆積す吾今一日止らば
俱に撲殺せらるる如斯の慘狀は

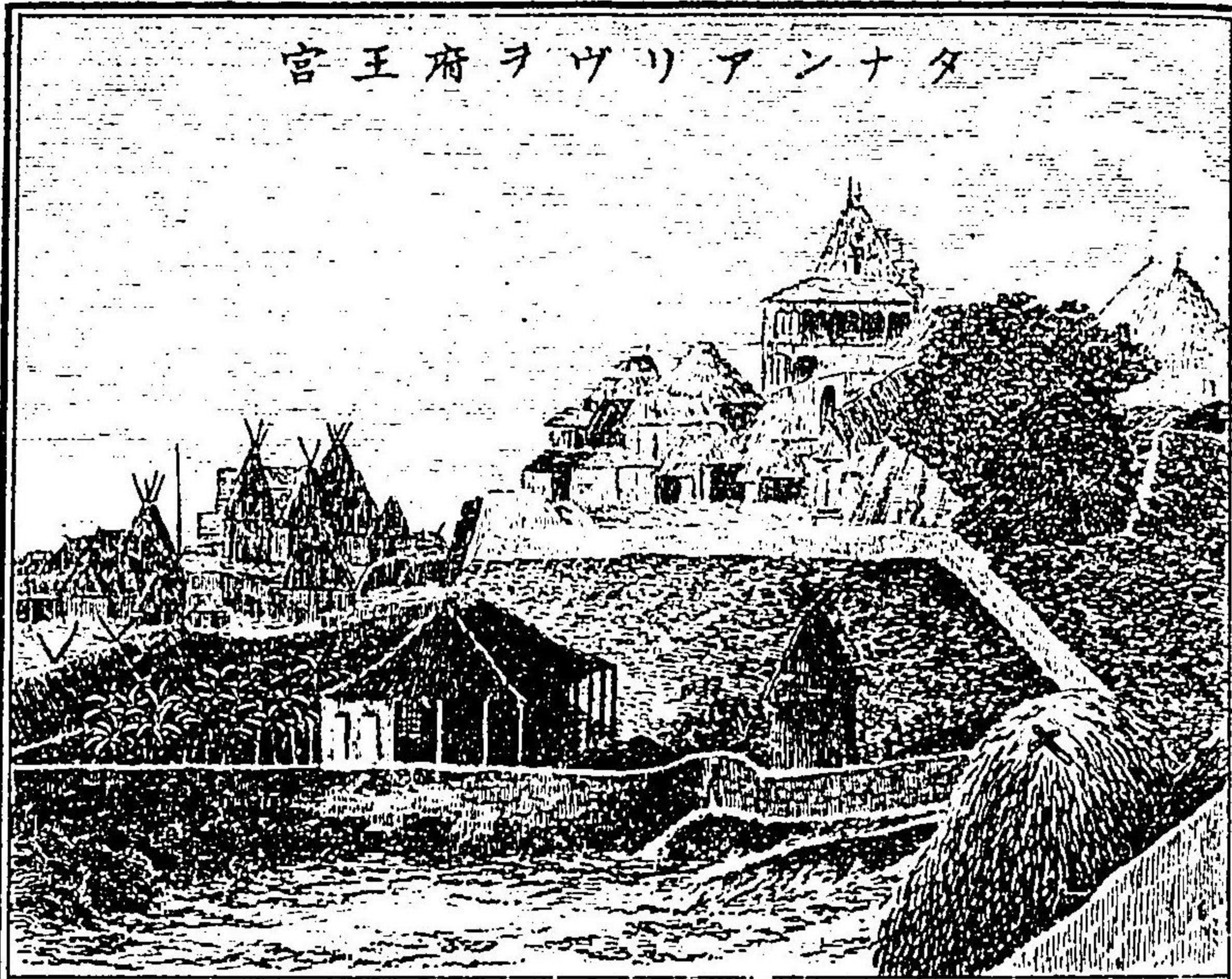
雲に接しつ滴とかり驟雨の如く注下せり其霧其巨聲十余英里の遠き一聞カプシユンは
接近せし時驚愕て爲めは戰栗たりとぞ今よして知る世界中三大瀑布の一なるを
カプシユンは是より河を沿サンビツシー河を云ふ千辛萬苦を嘗し末モサンビツ國に出で
濱邊を北へ数百英里モサンビツの港に着き当所は彷徨居りしが英國船に助けらる
時英國宣教師ウエルソン氏は令聞乃ペルキン氏とて阿非利加内地傳道
命を請けてウガンダへ派出するの際かきは彼をカプシユンを伴てサンジバーに到着し
是より入夫を備へ入を任地へ安着しとりけりカプシユン此地で古御あるデラの安否を聞きたるは
最初御里を出しより屋霜を數へば十五年兩來屢々アラブ人デラを抄掠殺戮し
父母も彼らに伐取らき今は家屋の跡もなしカプシユン痛々驚きて恨み歎きつ悲めど
又詮術も非せば身の薄命を語りつウエルソン氏は依頼して氏に仕ふる三年間
忠直勤勉怠らずペルキン氏もカプシユンが不幸を憐み愛撫して尚氏公務の間には
深々英語を教授しつ一千八百八十年英吉利國へ速き歸り今は龍動某街の
全氏自宅に留學し學藝大ひ進歩せり然るは龍動及他の學士商人日々よ



到る處は行き絶て怪むものもかし
 吾も彼の地の居時は敢て心は怪まず
 唯父母をのみ思ひ、纔か其場を逃さ出
 身の幸かきを嘆ずのみ、然るは最初是地に来て
 貴國の殷富隆盛を見聞するよりとして
 眩目驚心せざるなく、夢中夢入る心地して
 爾來茲は五星霜百科の教育既享け
 大に悟る所あり、噫十九世紀今日の
 諸君も同じを人として、吾々阿非利加兄弟も
 正しを人よ違ひなし、彼等の蠢然頑愚なる
 他洲の人は蔑視して、嗚呼蛇蝎も音ならず
 吾々之きが閑進を心よ期する切かきは
 今又諸君よ閑陳し、萬感心よ懽り来て

悲痛堪へず請ふ諸君以上述べたる談をして、忘りよ奇とせず、怪とせず、吾阿非利加同胞の一億九千の兄弟を憐みて予を助けよや、嗚呼阿非利加の兄弟は何故開化後せしか、氣候の為乎、將た彼等の人種の為め乎、吾未だ之を研究せざざと、吾嘗て史を讀む諸君の祖先ゲール種、二十余年の以前は、今のアフリカ内地ある土蠻と恰も伯仲す果して然らば人種と氣候は恐るは足らざらん、ウエルソン氏が予を救ふ、蓋し天父が予をして彼を阿非利加の兄弟を救はしむるは外ならず、予近日歸國せば、先づ教育を普及して神の恵に依らしめつ、誓て彼をらを改良し、諸君と天地を共にして、國の光輝を反射せん、諸君彼をらを憐まば、請ふ幸ひは贊助せよ、予は斃せ後止まんのみト。
 噫義ある我カプシエン氏、壯なる我氏の精神、前段陳述せし如く、氏はアフリカ土蠻の子嘗て教育請しより、自國を思ふの念深し、近日卿里に歸省せば、必ず有為の士とからん、蓋し編者が此文を抄譯せしは、稍偶意の在て存する事かきは、讀者宜しき注意して、輕々看過し玉ふ、且其地理や人情や風俗並にカプシエンが経歴せしは事實にて、編者は文飾せざる也。

宮王府ヲウリアンナタ



妖魔の鬼神を尊崇し、淺陋なりしが現今は
 耶教大に傳播し且つ國教と承認す
 氣候炎熱半年は殊に酷を五月より
 十月迄は兩多く瘴氣疫癘流行す
 然るに地味は膏腴にて禾穀蜂密々蠟や
 砂糖煙草麻胡椒金銀鋼鐵鉛石炭
 其他鑛脈又多し

タナンアリウラ府之記 モサンビク國モサンビク港
ヨリ海陸六百英里余
 タナンアリウラは首府として國の中央溪地ある
 高原上ニ位せり人口九万八千余
 王居は丘陵上ニ在り全体木材造りて
 其觀甚豪華美からず市街の屋宇も皆総て
 粗惡清潔からざるを見るに足るもの更なし

望遠府ヲウリアンナタ



馬達瓦斯加苗國之部
 馬達瓦斯加苗は阿非利加最に大なる島嶼にて
 世界六位の巨島あり其位置東は盡く
 印度洋ニ濱臨し西モサンビク海を隔て
 大陸地方と相對す面積小島合算し
 二十二万八千五百英里人口三百五十万
 現今女王ラナヴア口は一千八百八十有
 三年七月十三日王位を継ぎて宰相の
 レニラソノと結婚す地勢海岸平坦に
 内地は山嶺連亘し森林全土を蔽ふ如く
 巨大の良材産出す
 政度は專制政治にて王宰相は輔弼を盡
 宰相政權掌握す其教法は近年迄

圖之木旅羈



卷之五

俗風之ルカスカタマ



四周山嶺のみかきは山水頗る秀美のみ
 ○製造學藝進むかく運輸交通又不便
 漸々肩輿に乗り以て内地各所へ旅行せり
 ○府外に教箇の城塔あり常備之陸兵二萬人
 甚醜き兵士あり文官並に將校や
 民間貴顯の人々は多々西洋服を着る
 ○東面海岸良港ありタマタウア港を最とす
 英米佛やロウニオンと貿易近年繁昌す
 ○此國熱帶地方なる奇異の動物植物や
 其他の奇觀多とす左に掲げざる植物は
 羈旅木といひ葉の長さ八尺余
 葉並多くの水液を含蓄したり旅人は
 莖木を刺し器に受て渴を凌ぎ甘味あり



主として固有の土人とす。歐人土人と血脈の混交せるもの又多し。

蘇拉蘭國之部

蘇拉蘭は莫三澳ソアラ部は北接し南ナタル界して西は橋河共和國タンスウアル共和國二邦隣し東面は印度洋に濱しこの實は窮僻の番部にて面積大約七万零五百方英里人口は僅々五十余万のみ氣候温暖地果肥て産物夥からざるをど土人はカヤル種にして風俗凶暴又邪惡酋長威權を擅行し抄掠苛虐を事として妻妾七十余人あり何れ七部下より脅奪す曠昔和蘭の農民が

南部阿非利加洲之部

阿非利加南部之總稱として地形三角状をなし東南一面印度洋西面濱する大西洋北は橋河を限りとし大那馬加と取せり面積四十五万余英里あり人口は一百五十二万余地勢海岸低地にて内部は高原山脈は其一スウエレンダムと云ひ東南又あり其高さ三千五百八十尺山頂廣坦机状あり歐人机山と云ひ其二は内地の黒山脈其三北山脈と云ひ東北各地に嶺岨し雪山龍山等ありて峻峰一萬余尺あり河流は其數夥多あり橋河ウール河ブレデ河最心大かり然きども水流常に乾涸して舟楫通ぜず不便あり○氣候温暖瘴氣多く其東岸は雨多々西岸内地は三年間一雨を以て常とせり雪は高峯上に見る十二月より一月は此地総体大暑にて華氏の九十四度あり之を准じて六月と七月頃は冬とあす五十六度最下とす○地味は總体膏腴にて穀物葡萄の産多く原野は牧畜に適當し羊毛の産又多し○産物中の重なるは駝鳥の羽と羊毛や葡萄酒と砂糖あり木綿良材皮革象牙金銀銅鐵石炭は最も多量に産出す人種は英人蘭人



主とし固有の土人とす。歐人土人と血脈の混交せるもの又多し。

荷拉蘭國之部

荷拉蘭は莫三鼻ソアラ部は北接し南ナタルに界して西は橋河共和國フランスウアル共和国二邦に隣し東面は印度洋に濱し其の實は窮僻の番部にて面積大約七万零五百方英里人口は僅々五十余万のみ氣候温暖地果肥て産物豊からざるをど土人はカナル種にして風俗凶暴又邪惡酋長威權を擅行し抄掠苛虐を率として妻妾七十余人あり何れ心部下より脅奪す隣昔和蘭の農民が

南部阿非利加洲之部

阿非利加南部之總稱にして地形三角状をかし東南一面印度洋西面濱する大西洋北は橋河を限りとし大那馬加に界せり面積四十五万余英里あり人口は一百五十二万余地勢海岸低地にて内部は高原山脈は其一スウエレンダムといひ東南又あり其高さ三千五百八十尺山頂廣坦机状あり歐人机山といふ其二は内地の黒山脈其三北山脈といひ東北各地に嶺岨し雪山龍山等ありて峻峰一万余尺あり河流は其數夥多あり橋河ウール河ブレイデ河最心大なり然せども水流常に乾涸して舟楫通ぜず不便なり○氣候温暖瘴氣多く其東岸は雨多々西岸内地は三年間一雨を以て常とせり雪は高峯上に見る十二月より一月は此地總体大暑にて華氏の九十四度あり之に准じて六月と七月頃は冬とあす五十六度最下とす○地味は總体膏腴にて穀物葡萄の産多く原野は牧畜に適當し羊毛の産又多し○産物中の重かるは駝鳥の羽羊毛や葡萄酒砂糖あり木綿良村皮革象牙金銀銅鐵石炭は最心多量に産出す人種は英人蘭人と

ナタルは移住したる頃酋長詭り和約して和蘭の村を襲撃し蘭民を殺戮し悉皆掠奪遺すかし蘭國政府は數年間彼を討つに闘ひ難敵す以て百車暴戾の風習ある推して知せ。

タランスウアール共和國及橋河共和國之部

タランスウアール現任大統領ルイカ氏
オレンジブル現任大統領フレド氏

タランスウアールは東北を莫三鼻と取して西はリムボ、河を隔てピチユアナ番部と境し東は龍山脈を以てニューリーランドと隣せり南は橋河を取とし橋河共和國と分界す面積十一万五千英方里人口四万有餘余オレンジブルは東方をナタル國と取して西南ケープコロニーピチアナ番部と隣せり幅員七万余方英里人口十三万四千餘人蓋し以上の兩國は炭林に住せし蘭人が炭林は元來蘭國の創建也英の政度を悦ばず今より三十九年前家内内地に移住して遂に荒蕪を開墾し新に二邦を建しなり住民概し和蘭の風を係せば政治も頭領公撰共和にて言語教法悉てみか本國和蘭に似せんとし創建以來日淺を教育の道あらざきは無學頑陋進化せずオレンジブルは首府ありブルムフランドンと云ふタランスウアールの首府をボナエフストロムと云ふ

何せも政府のある處共々寥たる邑間あり人民農牧業とせり。

那達爾國之部

莫三鼻ソフアラ港
ヨリ海上九百英里余

ナタルは英の領地にて北はニューリーランド國南はカツプルランドにて東岸一帯印度洋面積二万方英里人口未詳大約は七万前後なりと云ふ本ニューリーの一部を今より五十余年前炭林の蘭人移住して酋長某と劇闘し終に攻略しとりしが再び英に攻め取らる東岸ホルトナタルてふ近邦至要の港あり人口二千余ありて象牙犀角木材や礦物貿易繁昌す英政府は此土地に副總督の官を置き公務を管轄せしむ也其他大なる市邑あり。

加弗爾蘭國之部

那達爾國ホルトナタル港ヨリ
カナンウ下地海上四百英里余

カツプルランドはナタルの南に接する番部にて面積未だ知を難し人口十萬前後あり西端英國領すきと他は數多の部落にて酋長各自統轄す人種はカツプル種と云ひ色黒々唇厚々身軀長大勇にして能く労働し堪へ風俗は裸跣跣足陋にして是を亦鬪争抄掠し牧畜以て業とせり城内大なる邑間はベーカームワードを始めと

加弗人勒之舞樂



アマタータ河の上流にパークモレー等ありて
北部の内地にヨニーバーリー何きも茅屋數百あり
土人舞樂を嗜好して軍樂各地に行はせ
其狀甚だ過劇なる一種奇態の蠻戯あり

炭林哥論尼國之部

炭林哥論尼國は英吉利國の領地にて
阿非利加極南著名の地北は橘河を限りとし
ナマツカ諸番と境取し東北橘河共和國
カブルランドに隣して東南印度洋を帯び
西大西洋を達せり面積二十三万余方英里
人口六十二万あり城内東西二部に分け
二十一洲に區劃せり地勢産物は南部總論を見
往昔葡萄牙國の最盛ふる頃幾回か

船隊を出し東洋の印度其他へ通ずるの海路を搜索したりしが今より四百年前より
葡萄牙國船將のバルソロメウチヤス此國の喜望峯を發檢し東洋各地へ航路を得
忽ち世取も名高き世人喜望峯を以て通常最南端と云ふ然りと金ども極南は
アガラス角を最とせり。

グラハムスタウン府之記

那達西國ポルトガル港ヨリパンサルド港迄
海上四百五十英里バツサルド港ヨリ吉府至七英里

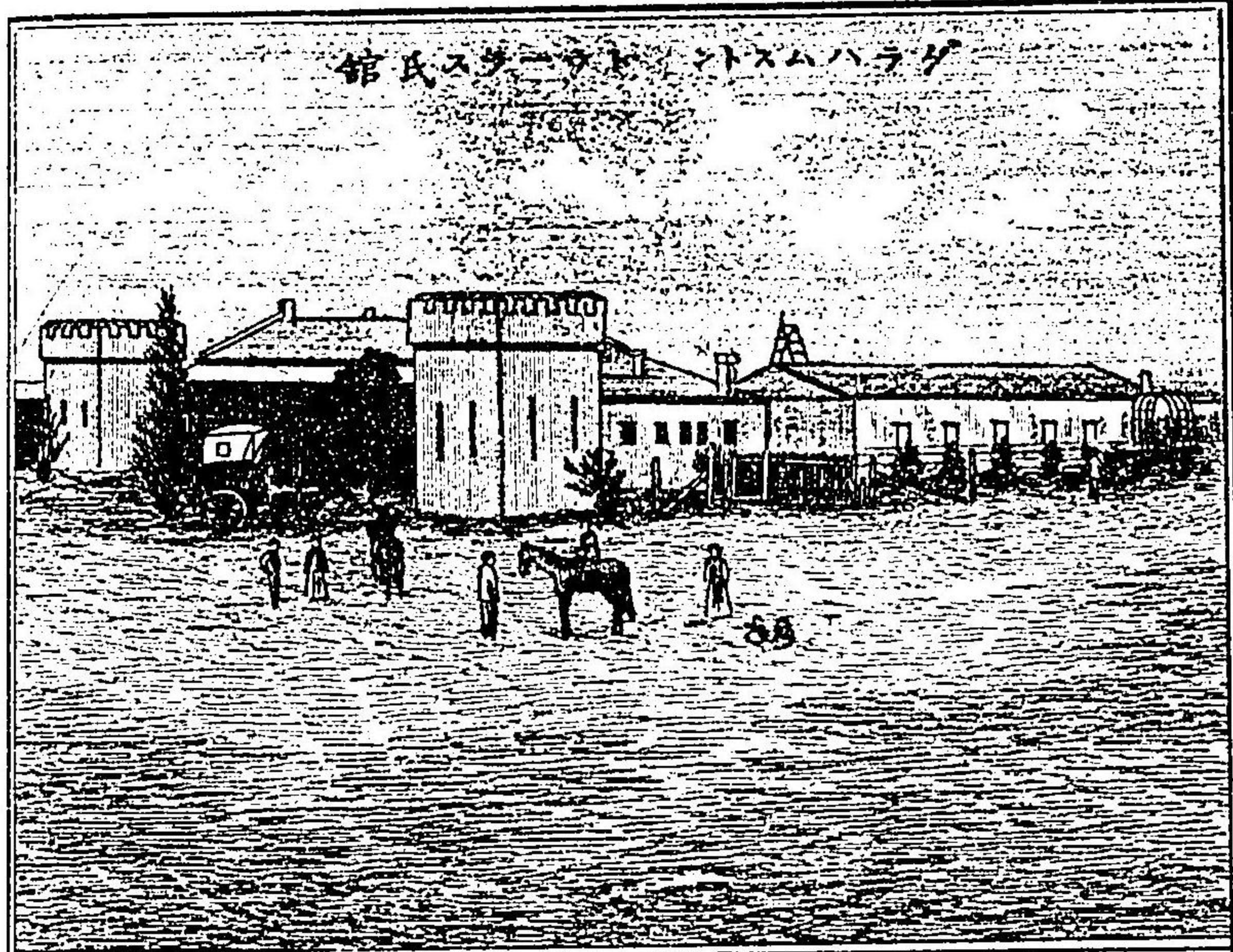
グラハムスタウンは此國の東部の首府なり人口は七千余あり其地位は大英バスマン西河の
中央内地に位せり英國政府は此府に副總督の官を置き東部の政務を分轄す
市街は番部と車かはり総体進化の象を見る隣邦諸州と通商上欲を富からざる要地なり
○今より十有八年前トウラス入此土地に駝鳥を夥多飼養して殖産を為し年々
多額の利潤を得ると云ふ抑も駝鳥あるものは禽鳥中の王として通常大なるものにて
高さ八尺余りあり脚は甚だ長きとして背は短き頭小く全體軟羽を被りて
雄は黒白色也雌は灰白色也翼短き空中に飛揚するの自由なし然りと其も胫脚は
頗る健剛足趾唯二枚あり恰も蹄に似て疾走駿馬も音あらず力極めて強きとして

産を卵鳥駝



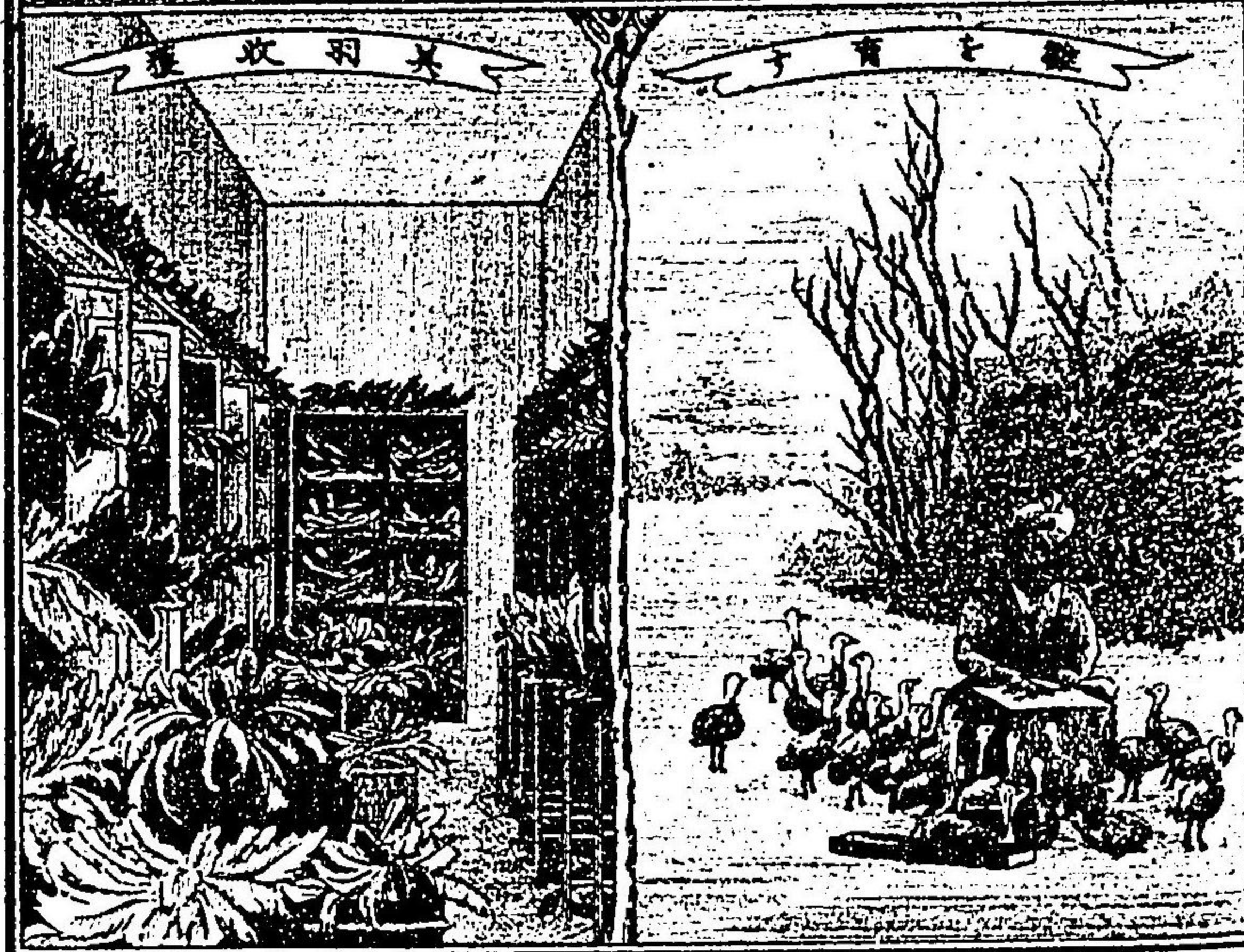
卵は甚だ佳果かきば種々の料理に適用す
 をせども此を飼養して利潤を得るは皮に非ず
 卵にあらず羽あり。
 駝鳥の羽は軟々其美麗なる比類なし
 以て首飾又供給す毎歳英國能動や
 其他歐米各國へ輸出甚だ巨額にて
 貴人は鏡みて需むなり上擡り掲げし各畜は
 トウーラス氏より送りし写真を復写したるなり
 第一畜は氏の居館第二は卵を捜索し
 第三畜は飼養の状第四は温室備入の
 時日をはかりて卵を破り人為以て轉らしむ
 第五は葉の葉を細断し種を育つる様にして
 第六畜は美麗なる羽を收穫したるあり

館氏スグーラト トヌムハラジ



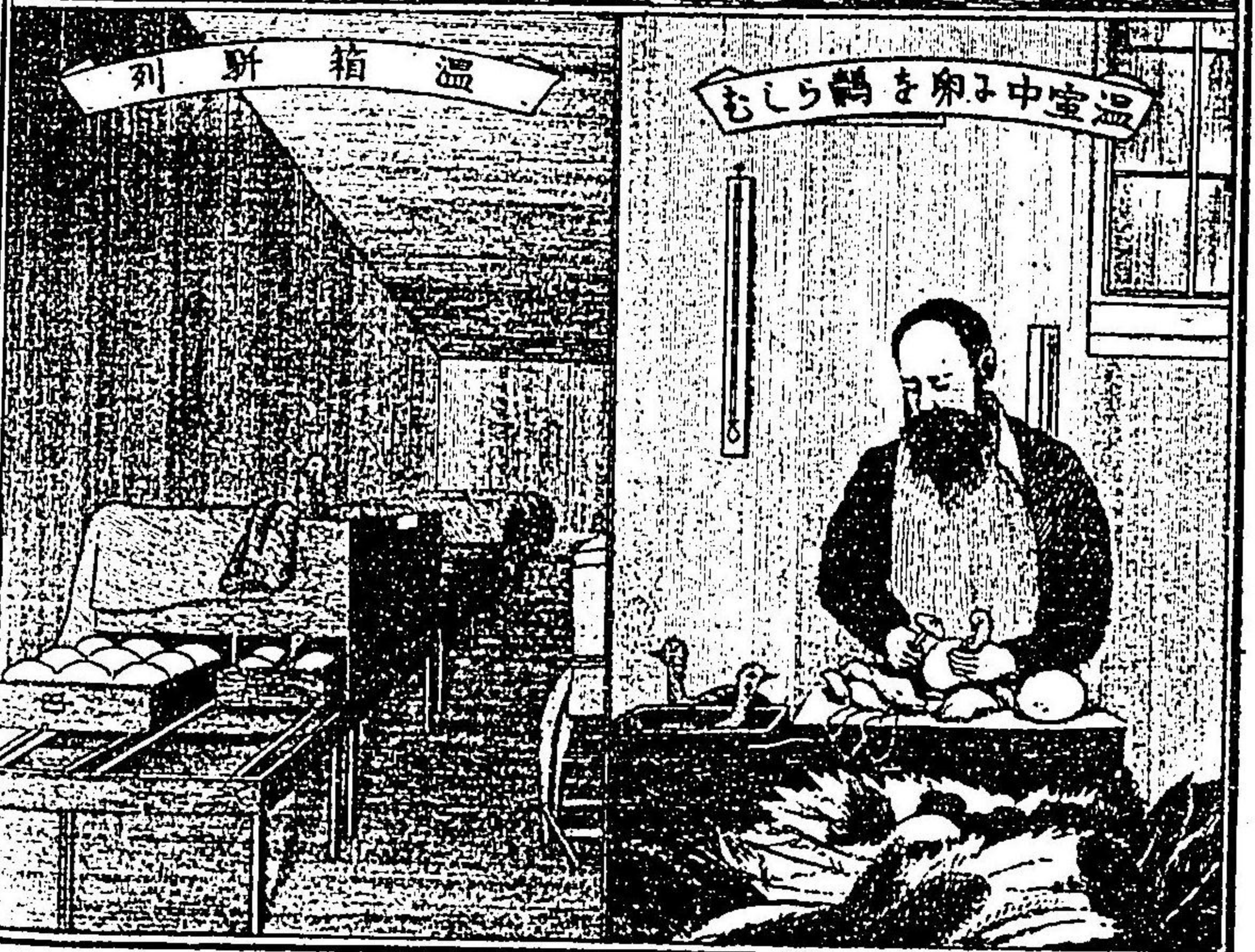
人獸を蹴倒し殺傷す卵の大き通常のもの
 直徑縦二寸あり横は一寸五分ありて
 周囲は縦四寸五分横は三寸七分あり
 容積水を八合余盛る事を得るきあり
 前記馬達加島駝鳥三類スル此鳥森林程遠き
 沙漠曠野に棲息し小蟲を食ひ自活しつ
 沙中より卵を産み落し再び之を顧みず
 天帝太陽を命令し熱度を與へて轉らしむ
 左に掲げある温室はトウーラス氏の生育法
 元来当府は温帯の氣候かきば太陽の
 熱度不十分なるに因る。
 駝鳥の皮は厚々して其質も亦硬けきば
 土人沙漠に捕獲して楯や鎧に作るとぞ

鳥を放飼する



五之卷

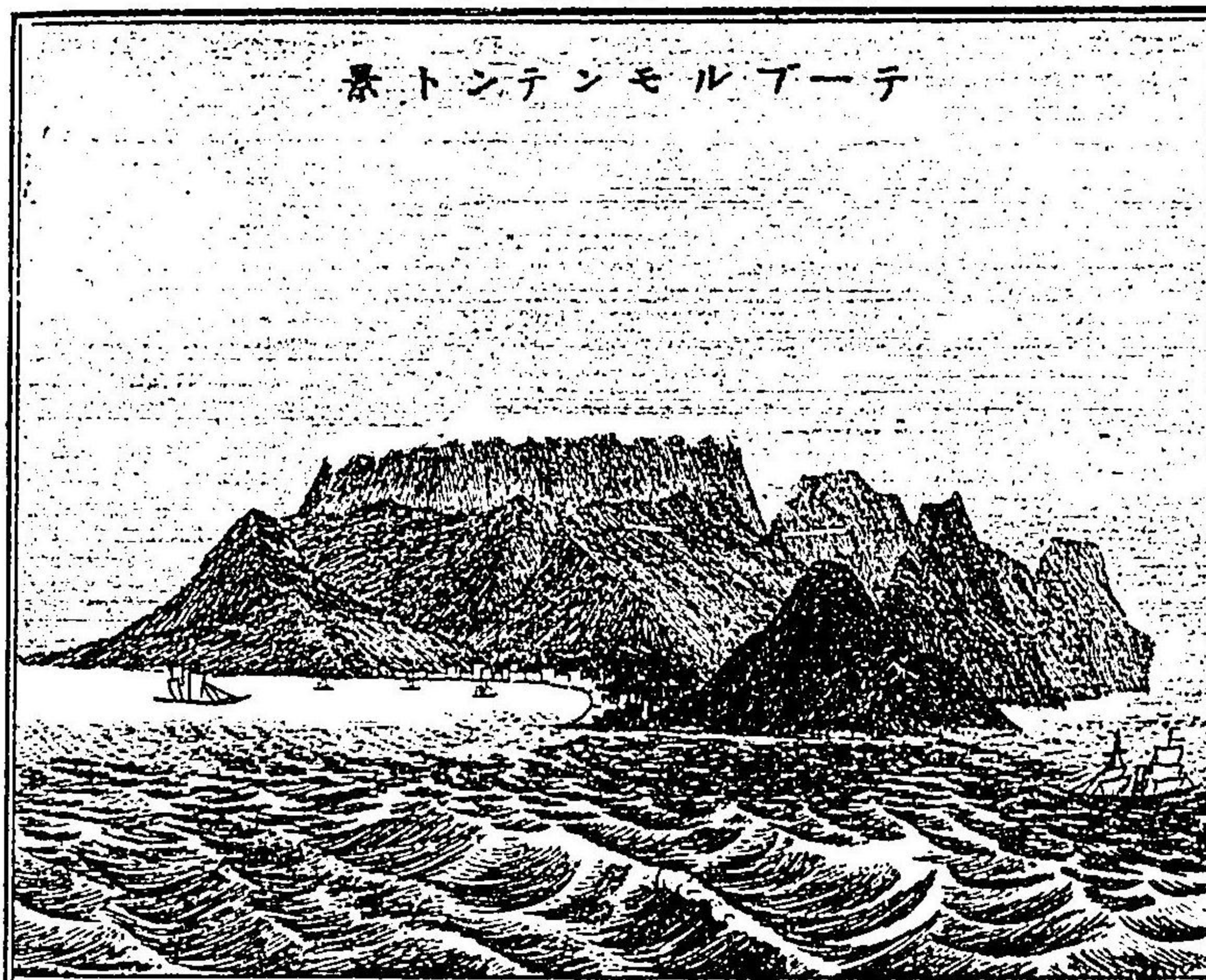
廣野に駝





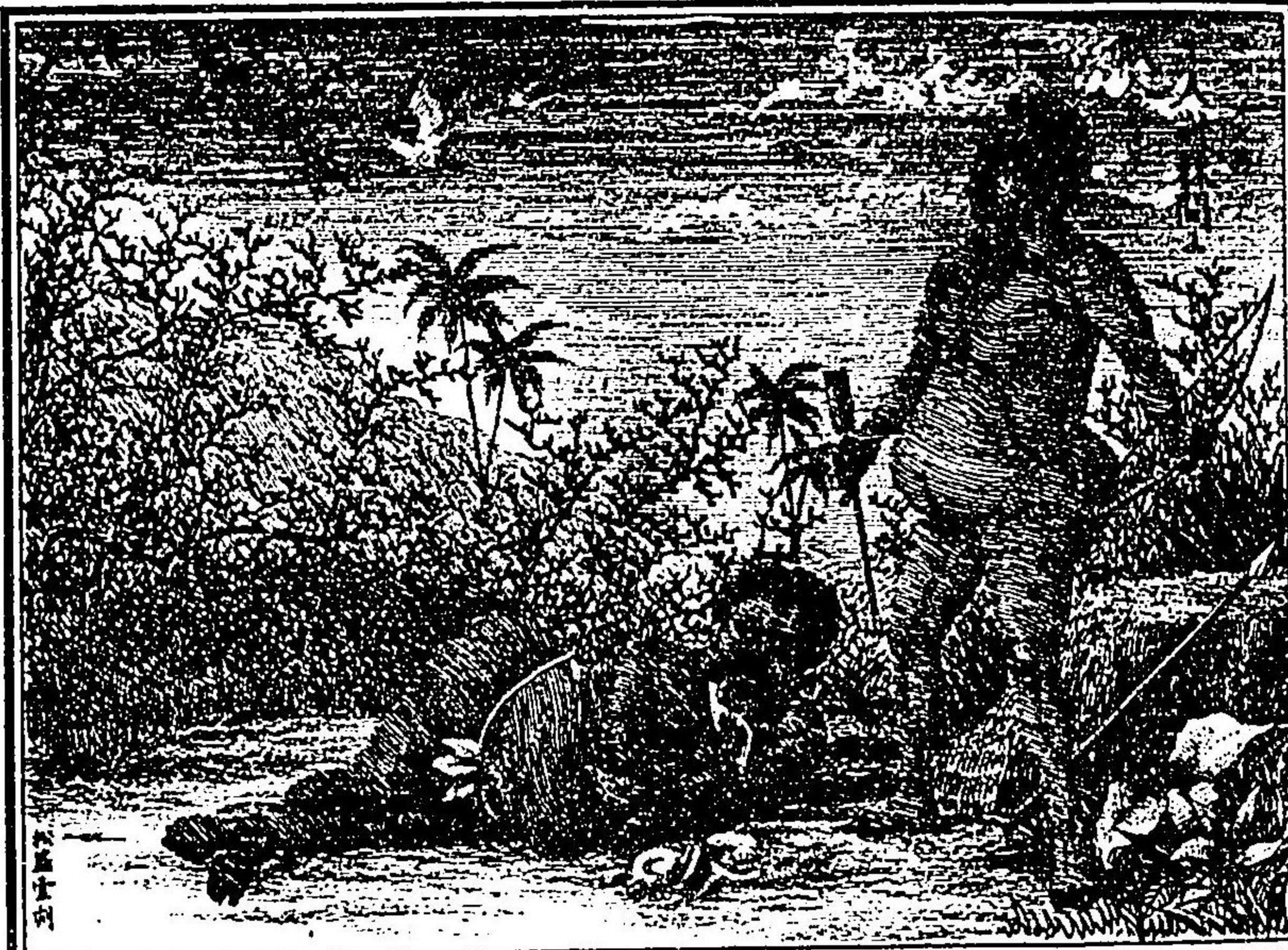
景全ソウタゴ一ケ

市内に住する人民は英人蘭人多しとす故に家屋の構造や其他のものも皆総て英と蘭との風を模し本洲南部の別世界府内は著名の建築は電信局の設けあり沿岸各地へ線通じ中央局の位置を占む英國政府の官衙あり総督官吏駐在し領地の政務を統轄す当港堅固の城砦あり周圍に五陵の保壁あり兵營ありて屯在す大中小の學校や一致教會天主堂回教宮殿寺院寺彼處此處に散在す歐洲人の諸家屋何れも歐洲風をきと主人の家は屋根圓々又一種の佳風あり中央博物館ありて之に附屬の公苑地



景トシテシモルデーテ

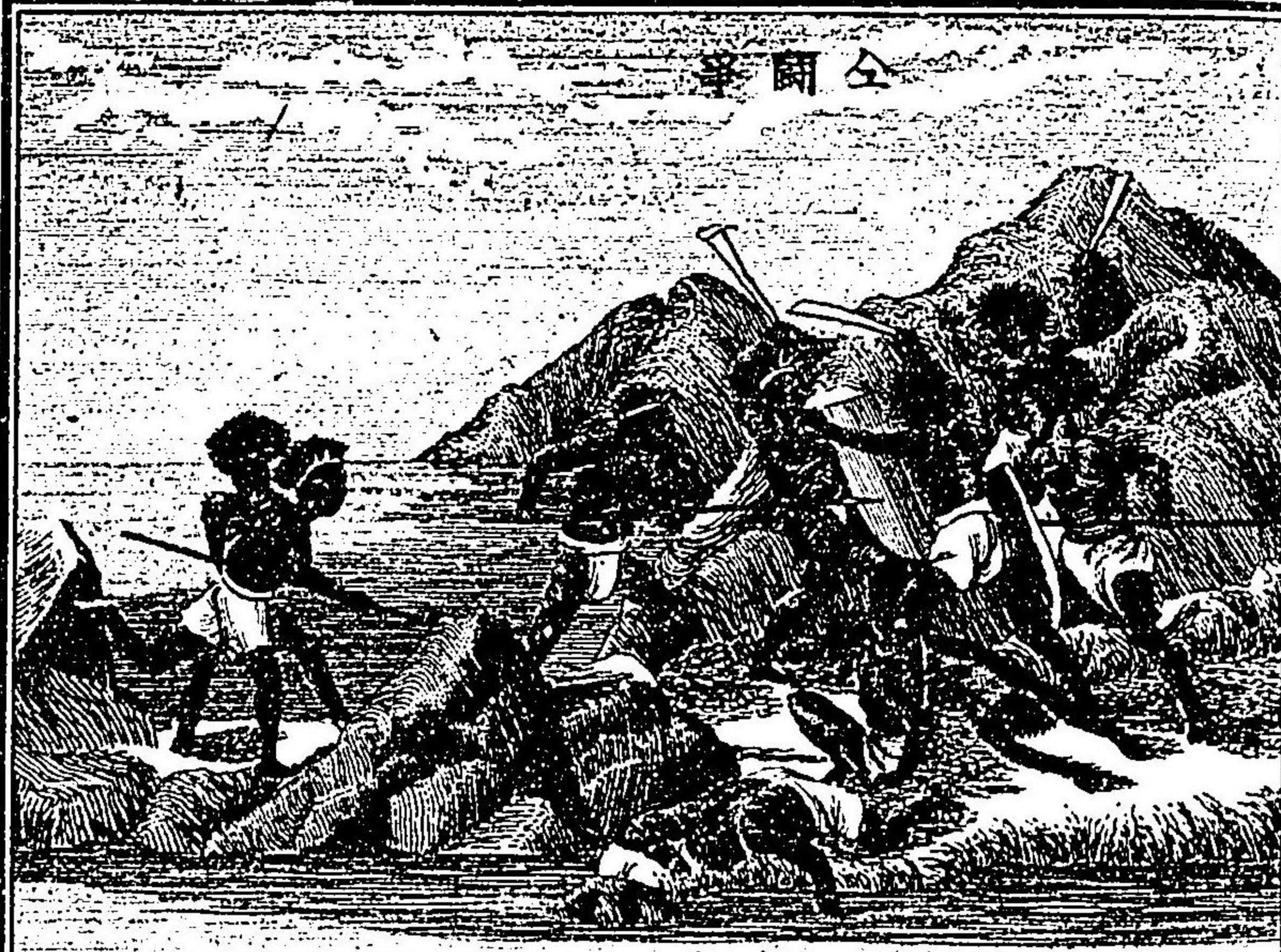
東部之首府パンサルドヨリ 海上四百六十五英里
此地は西部の首府として阿非利加南部に第一の都會ありと知らるべし地位は机状山の麓にありて東北部航港に濱しとり往昔葡國の船將が喜望峯を發見後和蘭人も又來り當府を創建しける也今は英に屬すきとスエスの開鑿前道は東西洋の航通船必ず此港に投錨し東西通商貿易上甚多振興の港なり現今入船減ずきと貿易の額衰へず人口三万五千あり五十英里の内地あるウールセストルてふ地鐵道を布き瀛車通ず市街方正家屋美し人道車路の區別あり



合類多番部
 南は埃林哥論尼橋河を以て境とし
 北は幾内ニ隣して西一帯は大西洋
 東疆域限りなきカラハリ沙漠ニ連接す
 海岸南北千英里面積詳かからず
 人口大略九百万世界ニ類なき野蠻の地
 國と名附る者はなし地勢は概ニ山地にて
 高原多く内地ニは平原曠野亦多し
 海岸良港あらずして南部の橋河は大なきと
 平常流水乾涸して舟楫の便更ニかたし
 氣候炎熱雨稀ニ沙磧恰ニ燠如く
 此地ニ生ずる植物は其根土中ニ深々入り
 且巨大ニて根中ニ汁液多量ニ貯へて



大樹翁鬱花木あり山腹處々ニ別野あり
 山頂総て平坦ニ恰ニ削るが如きにて
 机状山名の如し俯て四方を眺むれば
 後ろはライオンヘッド山脈秀峯連亘し
 内地へ遠々かきりなし杭港の海面は
 水波森漫漣りな々風帆浪舶江濤の
 間ニ搖蕩掀舞して恰ニ落葉ニ異ならず
 港内五大洲中の客船國旗を翻へし
 大小漁船は煙を噴き帆檣林立畫の如き
 街衢は東北平原へニ條長々を連續し
 二英里半の處ニは府立の測候所を眺る
 光景頗る絶佳にて内外人の遊ぶもの
 飄々乎として世を遺き旅の鬱をも慰めん



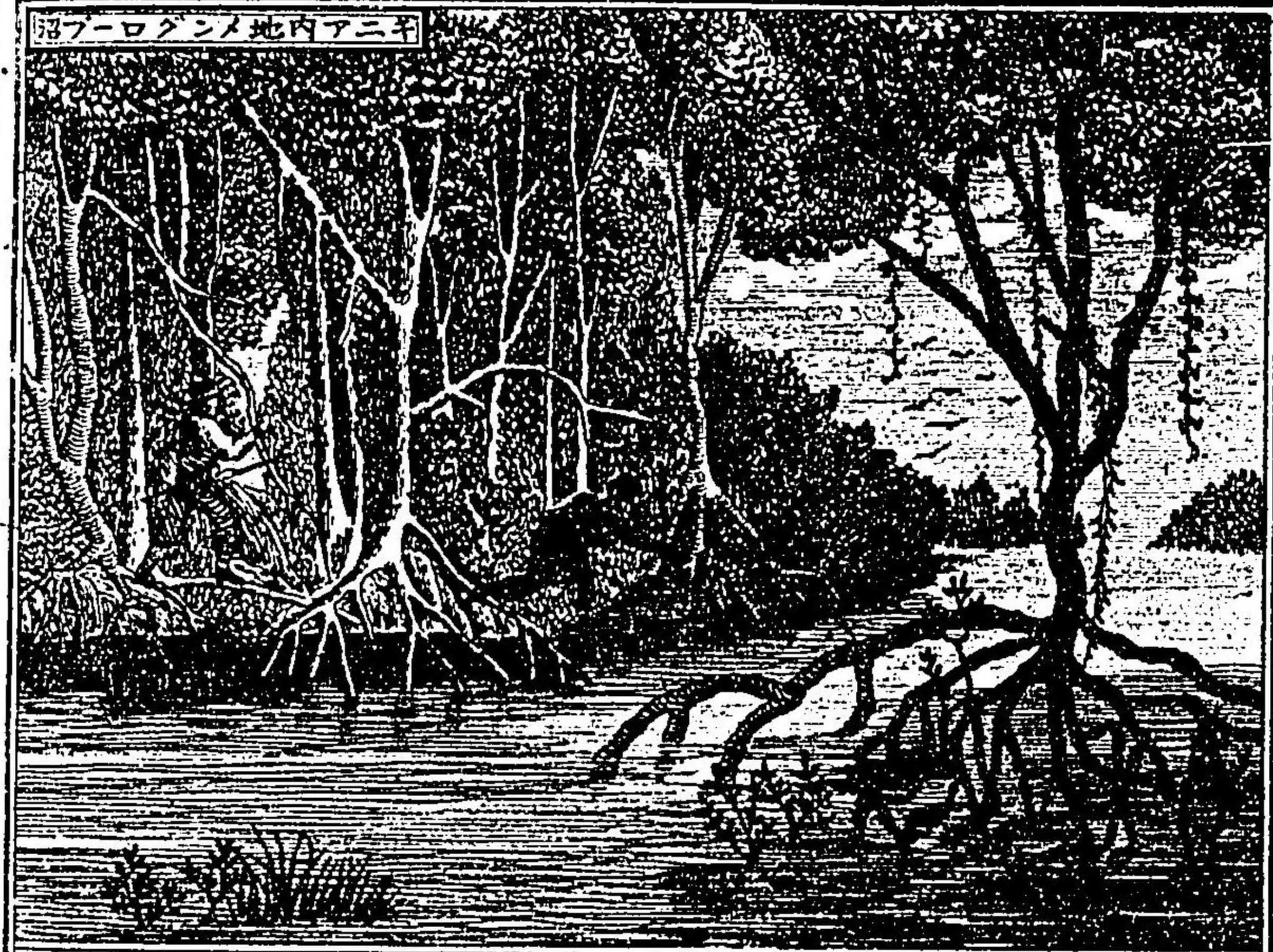
性質慄悍邪惡かり茅舎もふけば衣服かや
 荆棘間ニ眠食す食物蝸牛芋蠟や
 蝗蟻野獸等ニして捕へば其俵暴食す
 飽けば地ニ臥し饑きは食を求めず骨肉の
 夫妻の分別更にかや素より姓名等もかし
 器具は鎗と弓箭あり何せも完全からざせど
 一と此矢ヲ觸る者は忽ち命を殞すあり
 蓋し其葺蘆ニして獸骨を矢ニ鑲とかし
 先ニ一種の毒を塗る製法毒ある艸草の
 汁液中より得ると云ふ獸類ニ殺き蠻夷善く
 毒を利用す又奇あり此蠻橋河の北方ニ
 跋躋し時々炭林なる牧場ニ家畜を盜掠す
 守人獅子と同視して撲殺以て快とせり



枯燥ニ耐へつ繁蕪せり土人の種屬教派あり
 合類多種のもの中央南部ニ棲息す
 ○此種は人類中最ニ醜惡蠢愚なる
 獸類ニ近きもの多し身體矮小肌膚赭黒
 頭髮短かく卷縮し鼻は小さく平たてて
 土俗偏小なる鼻を好男別嬪かりとせり
 故ニ幼年なる時ニ百方尽力壓縮す
 處かはせば品變る人情の異なる奇なる狀
 吻唇甚だ厚くして手足弱小満身ニ
 獸脂を塗抹し皆て又入浴したる事はなし
 婦人の乳房は長を垂ぎ下腹と臀とは膨脹し
 前と後へ突出す具氣魄穢鼻を裂き
 實ニ名狀するからずホシメン種と云へる也



沼澤濕地も多きとして硫黄と水素を含むなる瘴氣蒸騰人畜の衛生上より多害あり毎年六月初旬より大雨連日降り続き疫病頻り流行し十一月より五月迄又一滴の降雨なし地味は概し膏腴にて草木萌鬱繁茂せり深林中は獅子犀象河馬一豹駝や巨蟒らの蟻屈して殊に彼のゴリラ多く棲息すゴリラは世界猿類中最も巨大の者にして樹間に跳躍入立し疾走甚だ自由也身の丈六尺余ありて全身黒色満頭は茶褐色なり骨格は全量入に近似せり○鳥類鸚鵡や鸚哥の艶美なるもの多しとす○産物金銀銅鉛や



蓋し右らの蠻族も皆か同胞の一として吾兄弟や姉妹のみ軽々看過すべからず阿非利加内地の慘状も茲に至つて極まき矣彼のカプン氏か計蕩至難なるを知るに足る

幾内亞國之部総論

幾内亞は大洲西部中最も大なる部分にて疆域二部より大別す上幾内亞は北にして南は下幾内亞と云ひ又昆岡とも名けり西岸曲折大灣をギヴニア湾と通稱す北は昆山脈を隔て幾丹地方と界しつ南は合巔多國東は人跡未到の地赤道中央貫きて氣候炎燬堪へ難地勢は山脈蜿蜒し海岸平坦河湖多く



下幾内亞之記 ポルトガル領地 港地海上二百英里

域内数多の部落あり、ヘンダーラは葡の屬地南部に最も著名なり、部内は同名市邑あり北に隣せる昆岡は下幾内亞中主眼の邦國にして國王は強兵數千を養成し武威逞し、近傍の小邦半は送貢す首府サルワドル繁華にして人口二万四千あり其ま北のロアングは主候之を所領せり最とも大なる都會あり人口一万七千余アンゴラ國は葡の領地海濱一の都會ありバルデロアンダ港と云ふ人口一万四千あり葡の總督官駐在し領地の事務を管轄す貿易甚だ熾かり、ポントデニバと云ふ土地は

コリラ之圖



穀物木綿蜂蜜や象牙木膠石炭油椰子油煙草等と云ふ何きも産額多量あり殊に黄金多として、歐米諸國へ輸出す土人は純粹まかふかき黒人にして肌膚はみぶ墨色も又齒はくす厚唇深目口舌は前より隆々突出し頭髮全を巻縮す風俗殘忍兇暴に人命主林の如きにして殺戮非常に行はき開化淺きて文字なく亦嘆ずべき種族あり然るに土人は製造と耕業意外に進歩せり○宗教淺陋害多く水火木石蛇蟻の類鱷魚を祭りて尊崇し何きも人を犠牲とす尚下條に詳記せり。

THE KILLINGS OF SLAVES AT THE FESTIVAL DAY.
 五九 THE OFFERINGS OF THE NATIVES AS A SACRIFICE AT THE FESTIVAL DAY.

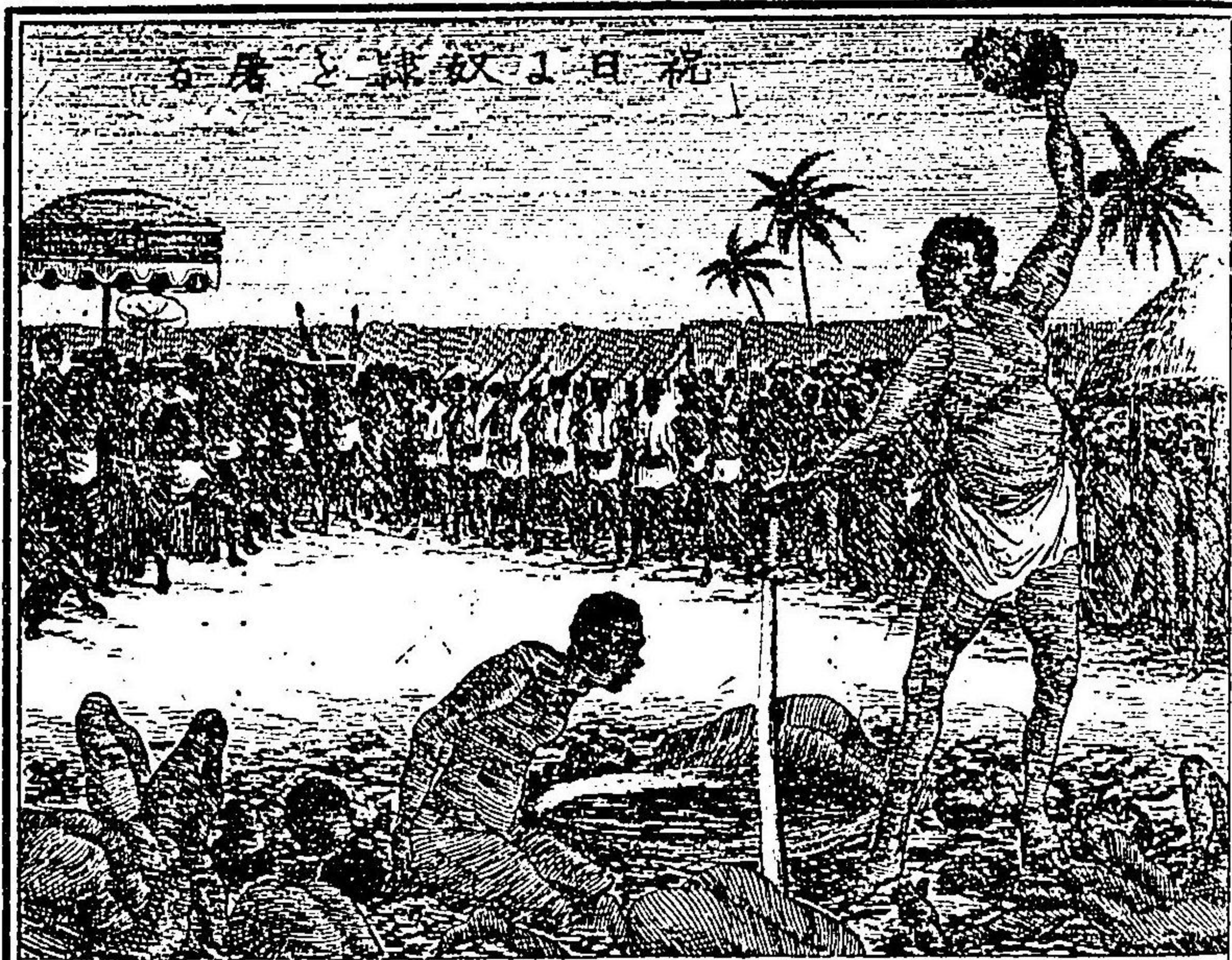


IMAGE OF THE KING AND
 QUEEN OF DAHOMEY



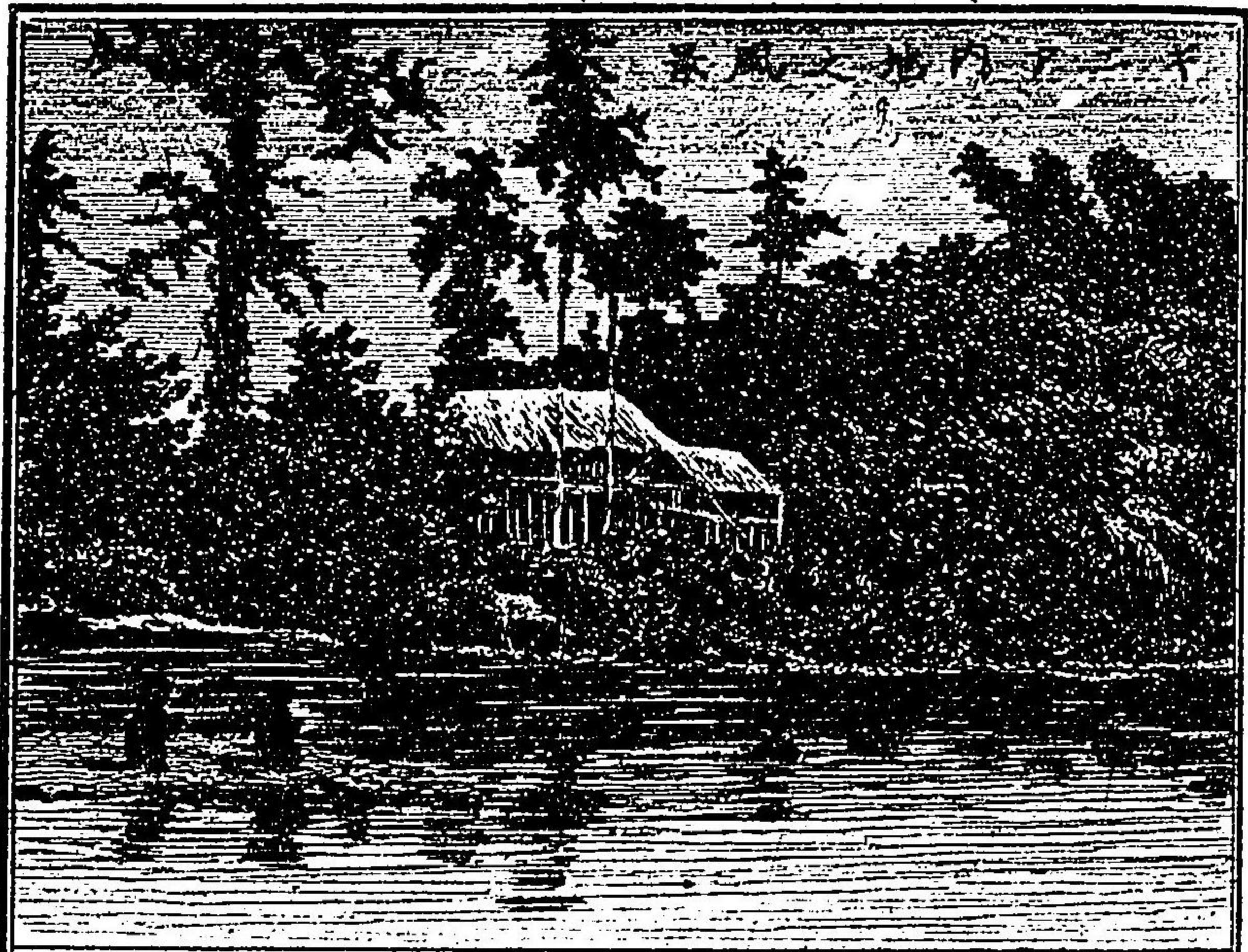
ボホニ一王
 并に皇后
 之像

英米葡の三國民綿布製造場を建つ
 綿布の産額又多し近傍野生の木綿あり
 品質甚佳良かり其他部落多けきど
 遂一茲に記載せず城内奴隷の賣買は
 到る處に行はき其殘酷の景状は
 目もあいらきぬ斗あり。

上幾内亞之記

二百三十三英里
 二百四十四英里

域内名ある邦國はボホニ一並にアシヤンチー
 リベリアゴールドベニチ餘は名も知ぬ部落のみ
 英蘭領地二三あり海岸四箇の區分せり
 未金奴隸象牙濱
 ベニチは下幾内亞なる西に隣する國として
 頗る強國名高しニゼル河より遡る



國王出でて接待し兵士百人呼出どし
 棒を持として立しめつ次は奴隷を五十人
 縛して是より引來り兵士の前より立しめり
 國王近臣埃及の大臣前より見物す
 暫時として國王は大喝一声號令を
 下すや否や兵卒は棒を振上げ奴隷をば
 滅多無情に撃殺し以て祝意を表したり
 大臣痛々愕きて止んとすきと此國の
 礼式なきは無礼をば氣遣ひ見物したりとぞ
 ○親兵二万五千あり戦隊銃隊二部に分け
 婦女子を用ひて騎兵とす猛烈壯丁番からず
 ○國民蛇を神とせり土人蛇を見れば地は伏し
 誓首再三市内ふる蛇堂の中より納むなり

圖之堂蛇



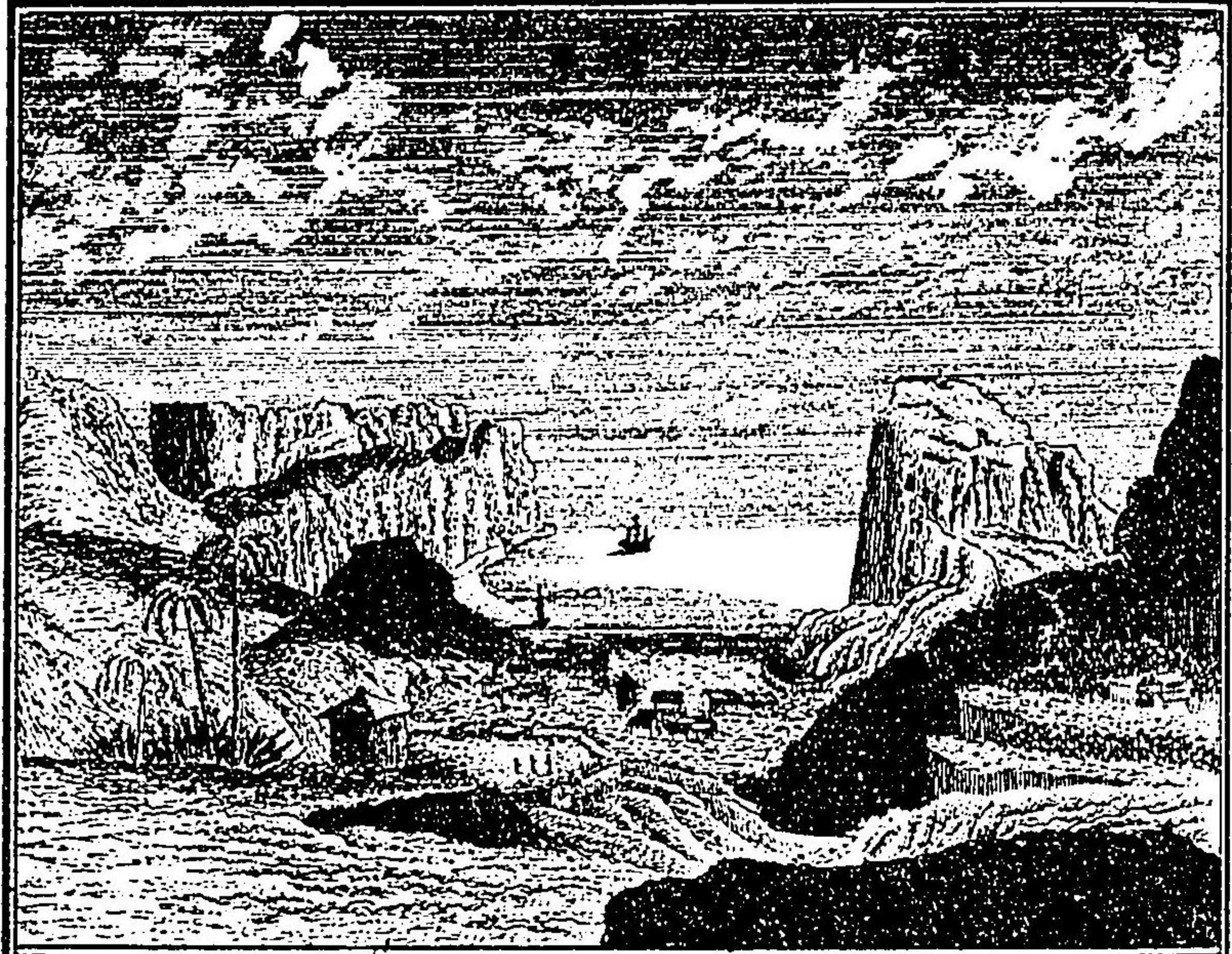
二百英里のベニン府は人口二万二千あり
 其他の邑間は僻地のみ。
 ダホミー國は前國の西より接して人口は
 二十三万余人あり風俗猛惡其威權
 近隣諸邦に跋跨せり域内赤土平坦
 地果は甚だ肥沃あり首都をアホミー府とす
 人口三万四千あり國王此地に住居せり
 第宅人の頭顱や骸骨以て粧飾す
 國風神事の祭礼や葬式等は人民を
 数千殺すを第一の盛典とす國王の
 死せし時は四千人屠殺するを例とせり
 祭日三ヶ月間余以て之を供すあり
 エジプト大臣此土地に派遣せらるし時杯は



米諸君裸躰堂に入り伏拜群蛇纏はしむ
 ○土人面部に刀痕を加へて以て飾とし
 貴族は頭頸腕指等純金以て粧飾す
 ○アジヤンチーはタボの西に隣る國にして
 人口一百余万ありクーマツシて首府ありて
 風俗大同小異のみ精良陶器を産出す
 人民兇暴邪惡なる前教國と變りかし
 ○金演は二百余年前英吉利國の領とある
 同國頻りに植民し西アツサイン大河より
 東ウオルタに到達すケープコスタツルに
 首府海岸に各高し人口一万二千余
 砲臺ありて守衛す其他處々に城壁あり
 本は奴隷の賣買を禁ずる為に築造す

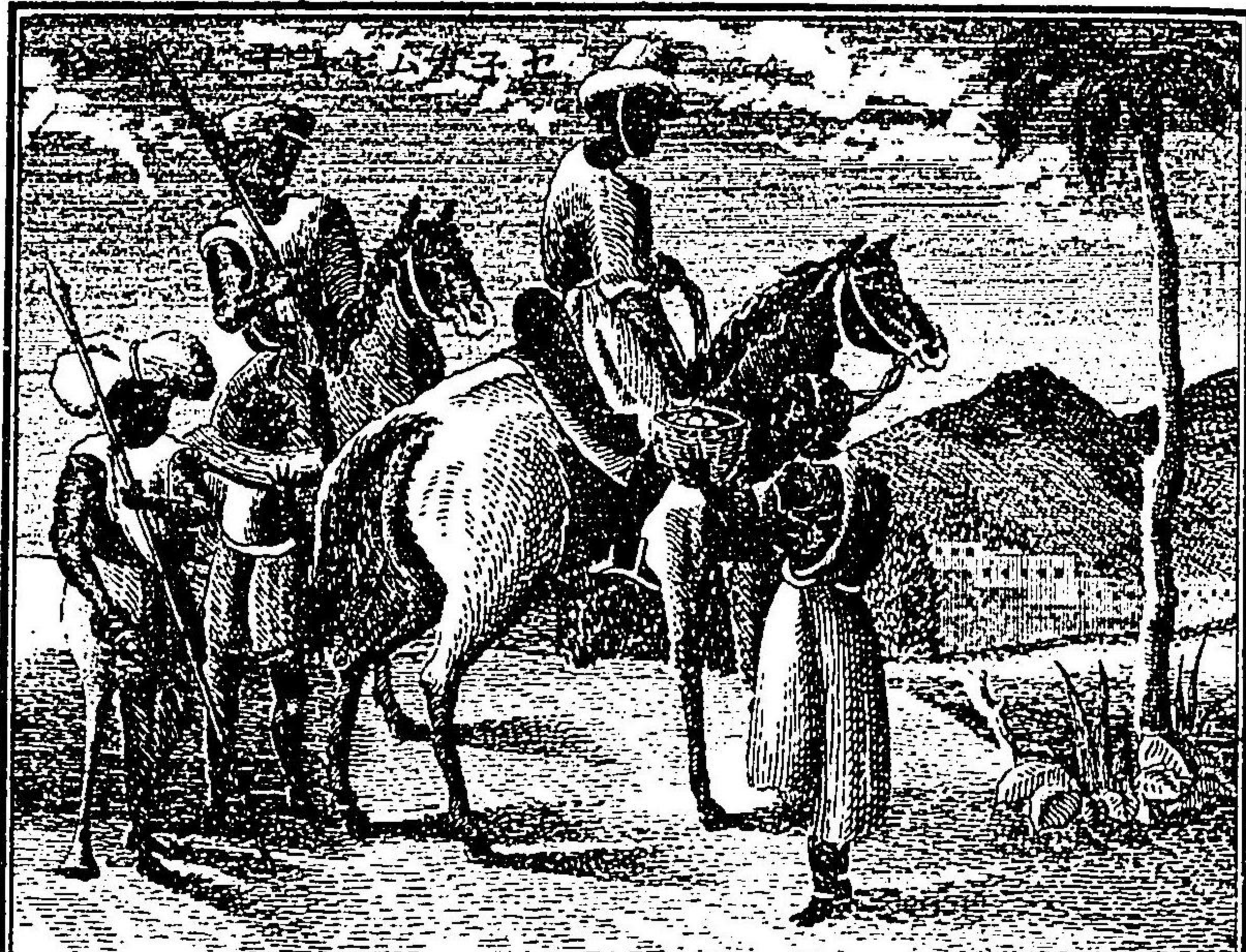
邦内エルミナて首府あり人口一万余千和蘭國の所轄あり○當國並に隣邦に
 牛酪樹と云つるあり此は甚奇樹にして汁液牛乳異ならず土人は乾酪と云して
 歐米諸國へ輸出す

◎里比利亞國は金演の西に連なる共和國北は岡山脈を帯び南は大西洋にして
 象牙未演に臨み海岸長を六百英里面積殆ど一万と四千三百英方里
 人口一百七万人叔此國は北米が阿非利加諸洲奴隷の貿易廢止せんが為め
 嘗て數艘の軍艦を大西洋に遣はして彼の憎べき西班牙や葡萄牙の賣奴船
 數百千を捕獲して不懲の奴隷を救ひ出し此地に移して天賦なる自由自治の民となし
 米英富人社を結び資財以て救助しつ此里比利亞國を建つ葡西二國の奸商が
 利の為め倫を毀りて黒奴を殘虐しる事載せて本書の第二卷十五ページに詳記せり
 讀者参看せらるべし英米兩國文武官奴隷の爲めに出張し瘴氣に犯さき死する者
 亦年々數多し然れ二國は熱心し力と費用を惜むなく稍々賣奴の輸出を
 防止しるは是を實に至大の功德と謂つべし輸出漸を減せしめ内地の賣買盛んして



○幾内亞海中嶼多し西葡の二國分領す
下部のニグロ海角より直西九百英里余
其名世界に隱をふきセントヘレナ島あり
現今英國所領せり諺曰佛蘭西皇帝の
拿破崙第一世が配所たるは小學の
生徒諸君も知る所蓋全島面積は
五十方英里人口は七千二百人種は
歐人黒奴半せり地勢山嶺崎嶇として
樹木稀かり然を共氣候温和と地果肥へて
穀物菓實の産多し西北岸一港あり
ゼムスタウンと名稱す歐風家屋岸に浴ひ
周圍三方山にんて風景頗る絶佳かり
一千八百十六年帝は此地に配せらる

彼のカレン氏が経歴し自ら嘆ずる所以也
却て説く現今の大統領はヒラリー・アルダブルノウゴンジ氏一千八百八十有
三年五月に撰きて翌年一月職に即く政制米に模倣したり上下議院の設あり
上院議員八名あり下院の議員は十三名大統領は名望と價値六百田以上の
不動産を有するの人は限り其任期通常二年と定めたり大統領を輔弼する
内閣員は五人あり國務大藏内務卿驛遞總監司法卿政府の年々歳入は
十萬田なり歳出は九萬田の前後とす日本中等商人の歳出入に比適すと
謂ふも過言易らぬかし蓋前段述べ如く此國は元來米人が黒人種より自治力
堪ゆるの証を揚ん為創建したるものなきと悲哉 黒民中政務に熱せし者あらず
秩序整頓多し難く今より十有五年前七分利附の公債を五十萬田英國に
募集せしが本年は其償還の期限とり然るに十年前より利子を拂ふ事を得ず
政府は實際破産する場合に達したりと云ふ首府をモンロピアといひ人口一萬四千あり
學校會堂等もあり産物椰子油樹膠や胡桃象牙を最とす



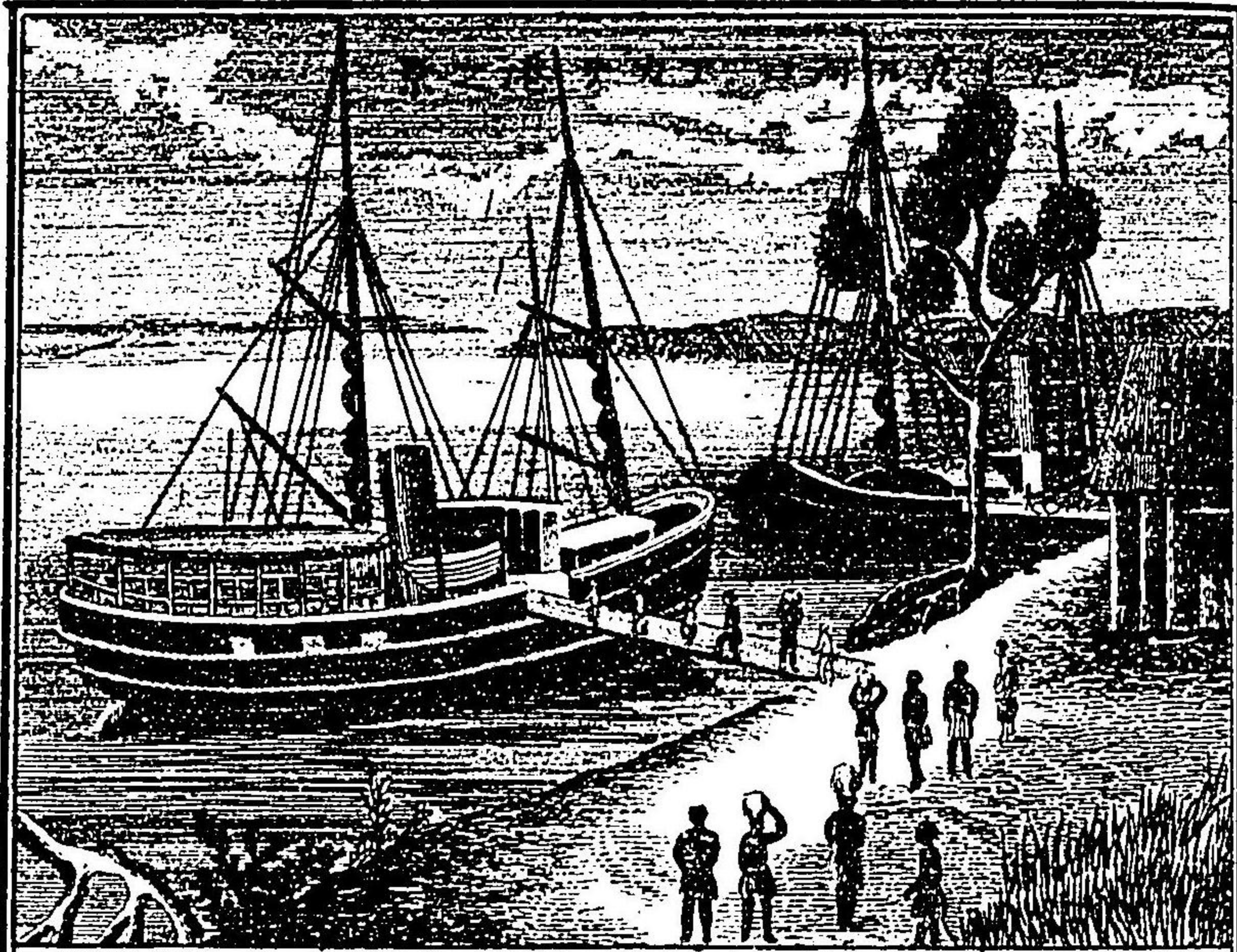
肌膚黧黑純粹の黒奴は非ず智識の度
 稍黒奴より進歩せり殊に北部の人民は
 歐洲人と貿易し百車大に進化せり
 教法木石獸巨蟒以上を神とし尊崇す
 中部南部の人民は風俗甚金汚下として
 野蠻の地位に止まきり土人総体裸躰にて
 跣足或は顔面に刺文をか飾とす
 産物木材椰子の油や金銀銅鐵ゴムとす
 ○フアラの中のフアラ部内は主眼の小邦あり
 首府はセドあり人口は七千余ありボンスイは
 最も強國人口は二百六十余万あり
 フアラヤロンはセカルの上流にある國として
 チムブを以て首府とす人口九千余人あり

本書第三卷三十一ページ以下帝の傳を詳記す考者せし
 〔後〕六年を経て卒せらる時一五年五十二乃ち厚く此島の
 山中に埋葬せり然るに四十四年前更に遺骸を佛京に移して之を改葬す
 きせども今其墓地の遺跡と帝の住居せし屋宇も皆此山中のロングートに溪間に
 依然存せり此土地を經歷する者低回し蓋世の英雄豪傑が末路を顧み感慨を
 起さざるものあらざるは佛は近傍掌大の土地を英より購ひて同國軍人老衰の
 将卒をして守らしむ

塞内岡比之部

上緯内エト十港より佛領セント
ロイス迄一千六百五十英里

南は幾内亞の境界し北はサハラに隣して東はスータン西方は大西洋に濱臨す
 面積應算二十有七万五千方英里人口一千二百万氣候酷熱堪へ難く
 衛生上は多害あり中央山脈峰屈し海岸平坦沙地多しセカルクカンビヤ二大河は
 域内最も名高く両名合して此國の總稱とあせしあり疆域三區は大別す
 其北方はフアラといひ中部をヤロー部といひ南部をメンデゴースと云ふ海岸處々は英國や
 佛國葡國分領す其他は人種は隨ひて稍邦國の状をなす主人はエシオピア種にして



二小角あり形状は瘦瘠鹿に類似して甚だ美あり其頸は非常ニ長々頭をば昂ぐる時は其高さ一丈八尺余りあり蓋し世界の獸類中最も高きものにして至大の亞刺比馬とて尚半より達し得ず

蘇丹諸部 セントロイスよりチンバクティニシテ陸路一千二百英里余

蘇丹一名ニグリチア大洲中央赤道線以北地方の總稱として北はサハラの大沙漠南は幾内亞西方はセネガムビヤに隣接し東はナイルの上流あるゴルドブアン迄毗連る最と廣大の部分あり東西二千三百英里面積總算七百〇五方英里人口は三千万の前候と云ふ城內夥多の小邦や

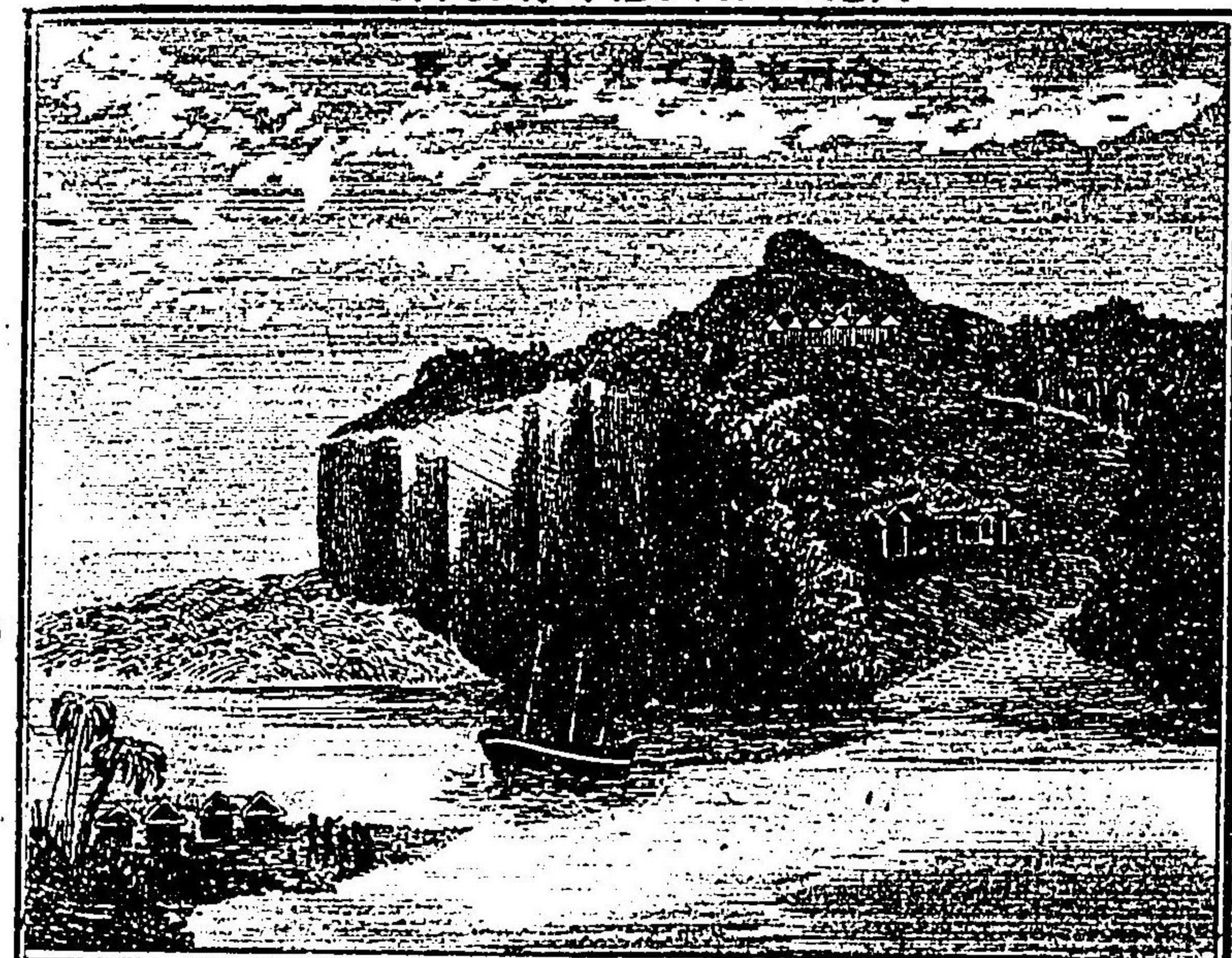


○中部ヤローは未開カへ内地の形状知り難し海岸カヨルサルム等の小邦ありて蜂蜜や象牙皮革を輸出す

○マンテンゴ―中同名の小邦ありてカマリヤは部内ニ屈指の都會也

○シユルレオ子は英屬地首府をフリータウンと云ひ人口二万余千あり英人大西洋中ニ賣奴船を捕ふきは奴隸を此地ニ解放す然るニ氣候酷熱くして乾燥夏月は沙漠よりハルマツテてふ熱風來り草木凋枯し家屋器具木製物はこもく々爆裂するを常とせり

○豹駝奇異の大獸とて阿非利加洲の土産す全躰茶褐色を帶ぶ斑紋あり又蹄鬣と



部落各處に散在し酋長ありて分領す。何き心強勇の族にして文字等は更になし。地勢西部は山脈や河脈多々剛山とナイゲル河は名高し中央チエツト大湖あり。近傍部落多くして湖面に大小島を眺る。氣候は熱帯中に於き殊に酷暑の地方にて年中二季あり二月より六月迄は雨降らず寒暖華氏の最低度一百度より降る。六月以後は雨濕候我國入極異ならず常に大雷雨にして川澤何きも漲溢す。産物金鐵木綿類烟草沙金を多とす。埃及其他の隊商は沙漠を涉り致す來つ海塩以て貿易す。域内山谷曠野みだ猛獸巨蟒の巢屈して土人を害する甚し。

○右に示せし三圖はナイゲル河流の景にして西部の貿易要路なり。第一圖は河口にて上幾内亜の灣あり。諫河は六月以後より河水漸々増すを以て歐人漁船を廻航し夥多の貨物を積入てエダアウイトサ等の地に通商す。つゝ、派り歸途亦貨物を買入てアカサ港に歸航せり。斯をさせる事六月後九月中旬迄とせり。九月以後二月迄河水溢せて登り得ず。二月以後は水涸きて常水一尺五寸のみ。

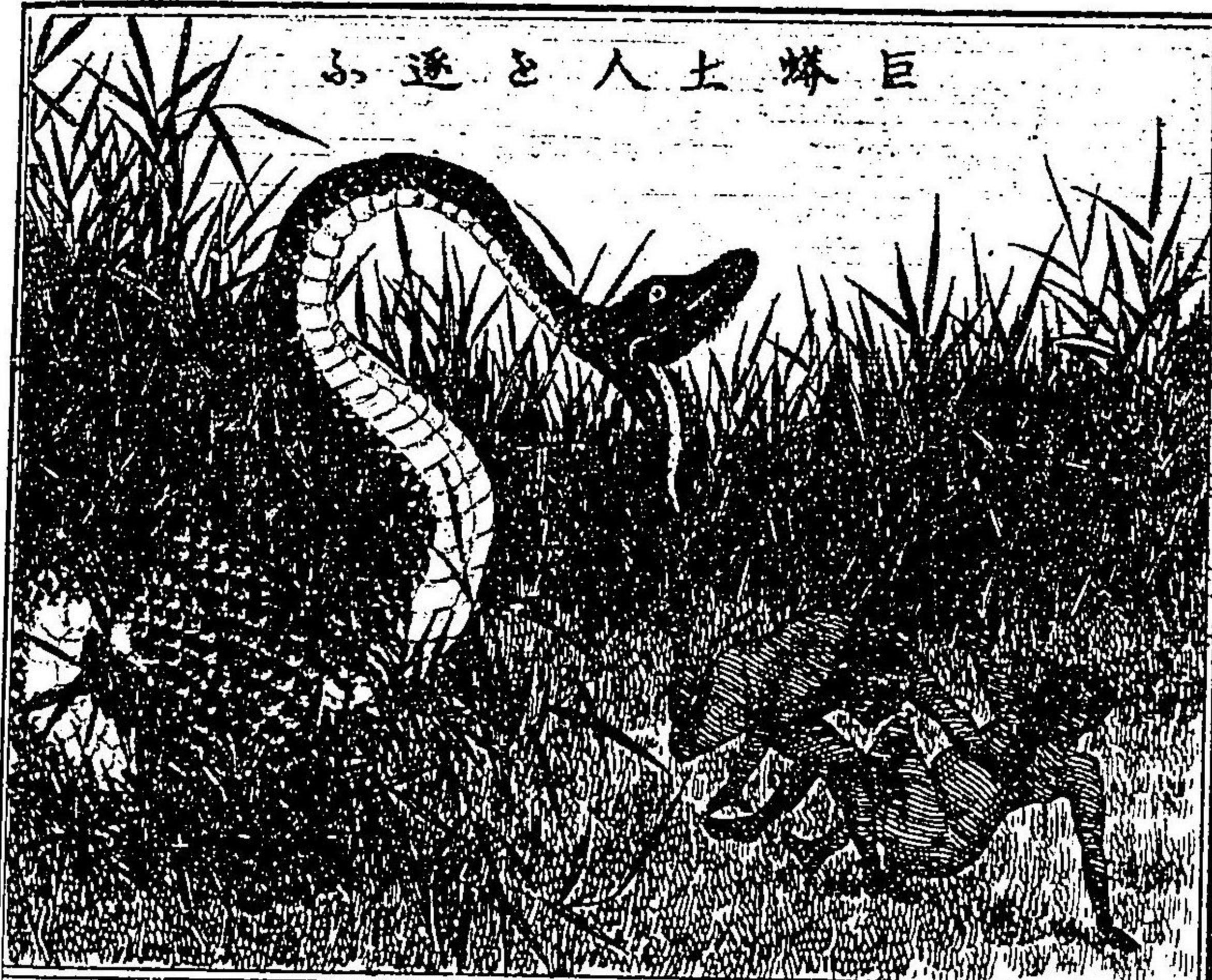
第一圖は上幾内亜故に風俗贅記せず。第二圖エダの小邑は諫河の中流地方にて

行旅人ソダース



人口三万二千ありサンサンチー七名高を
 隊商貿易盛よて回教寺院又おほく
 家屋の構造稍佳なりベルー部のワレット邑
 人口二万四千ありチムバクツは大邑閣
 サハラの沙漠に隣接し人口二万五千あり
 バルバリーや埃及の諸邦と通商盛よて
 西岸諸邦と貿易上欽をへからざる要地也
 回教寺堂教箇あり衙街も甚穢ならず
 ボルグー部のポーサ邑ラツバ等の諸部落
 人口二万前後ありソカト部のソカト府は
 人口九万余ありて續丹全部の大都と
 チエツト大湖の近傍は大小部落夥多あり
 ボルヌー部を最とす支丹兵を擁したり

ふ逃と人土蟒巨



家屋は高原上よりあり河水の溢るを以てあり
 構造軍一疎略なる樹幹を以て柱とし
 草葉を以て屋根とせり然るに此邊風荒し
 故に茅舎は一處に蜂窠の如く並建す
 第三番はアウイトサ河深をして地利もよく
 土人と貿易繁昌す風俗総て半裸幹
 男子は黄色の繪具以て身体各部に疎を
 模様は衣服を象りつ或は環を形せり
 女子の飾りは両足の象牙或は銅製の
 甚だ大なる環を挿む重量五磅余りあり
 貨物を頭上より載きて遠路を厭はず運搬す
 我國八瀬や大原野の婦人の如く強健なり
 ○全部都邑の重なるはハムバラ部のセゴー邑



埋葬場土人格闘

奇言を唱へば兵卒は一種奇態の風をなし
 武器を携へ舞踏せり土人も続て是に入り
 拍手唱音之と和し第一日の式終る
 第二日又柩を出し奴隷を縛して其類
 小刀を刺し血を流し柩前犠牲に供したり
 奴隷の員数三十名鮮血淋漓満身は
 紅く塗りて泣き叫び悶へ苦しむ其状は
 見る者戦栗せざるを惨状筆紙に尽さず
 此時酋長親戚は犠牲の生血を顔に塗り
 柩の前は拝す後犠牲の首を刎ね落し
 此日の式を終りより第三日目は墓所に
 一の大なる穴を穿り二十尺立方の
 柩を作り改めて酋長の屍を之に入せ

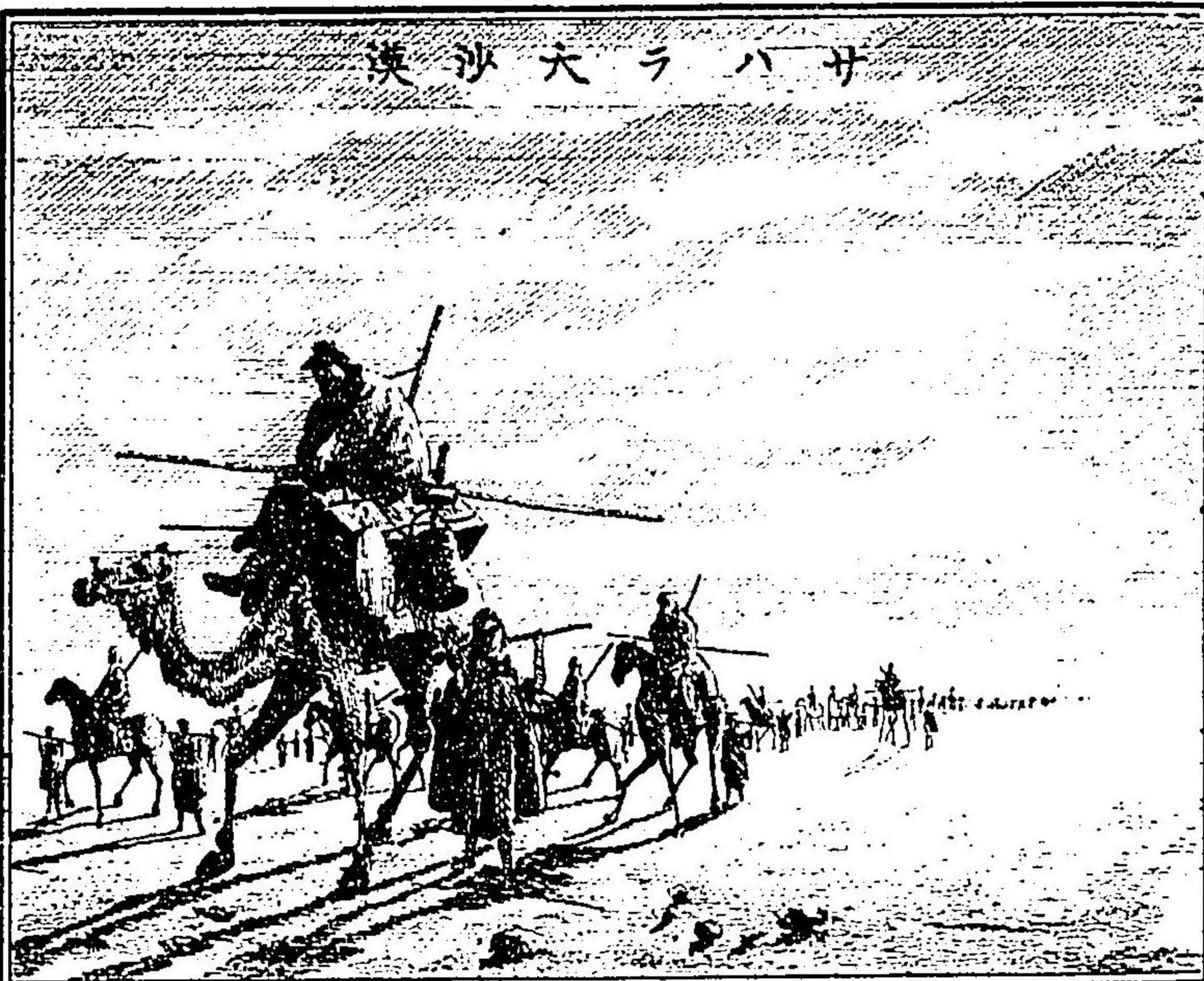


酋長之埋葬式

ダルフル部は蘇丹の東南各地の稱として
 是又夥多の部落あり上は示せる二面の圖
 サンビ邑の酋長が先年死亡おせし時
 執行したる盛典として英人クワン氏圖は保る
 今其筆記を抄譯せん
 一千八百八十年余は命をうけ埃及の
 領地を巡視したる時此地に到着したりしが
 時し四月乾候の炎熱燬が如くよて
 前途も遠く進み得ずはからず四五日滞在す
 然るに酋長ホルレーは刺病の爲め即死せり
 翌日屍を圓筒の柩におさめて近臣や
 侍女数名を生かざら棺に入て野外ある
 ある式場は擔ぎ出し裸体の僧侶前は立

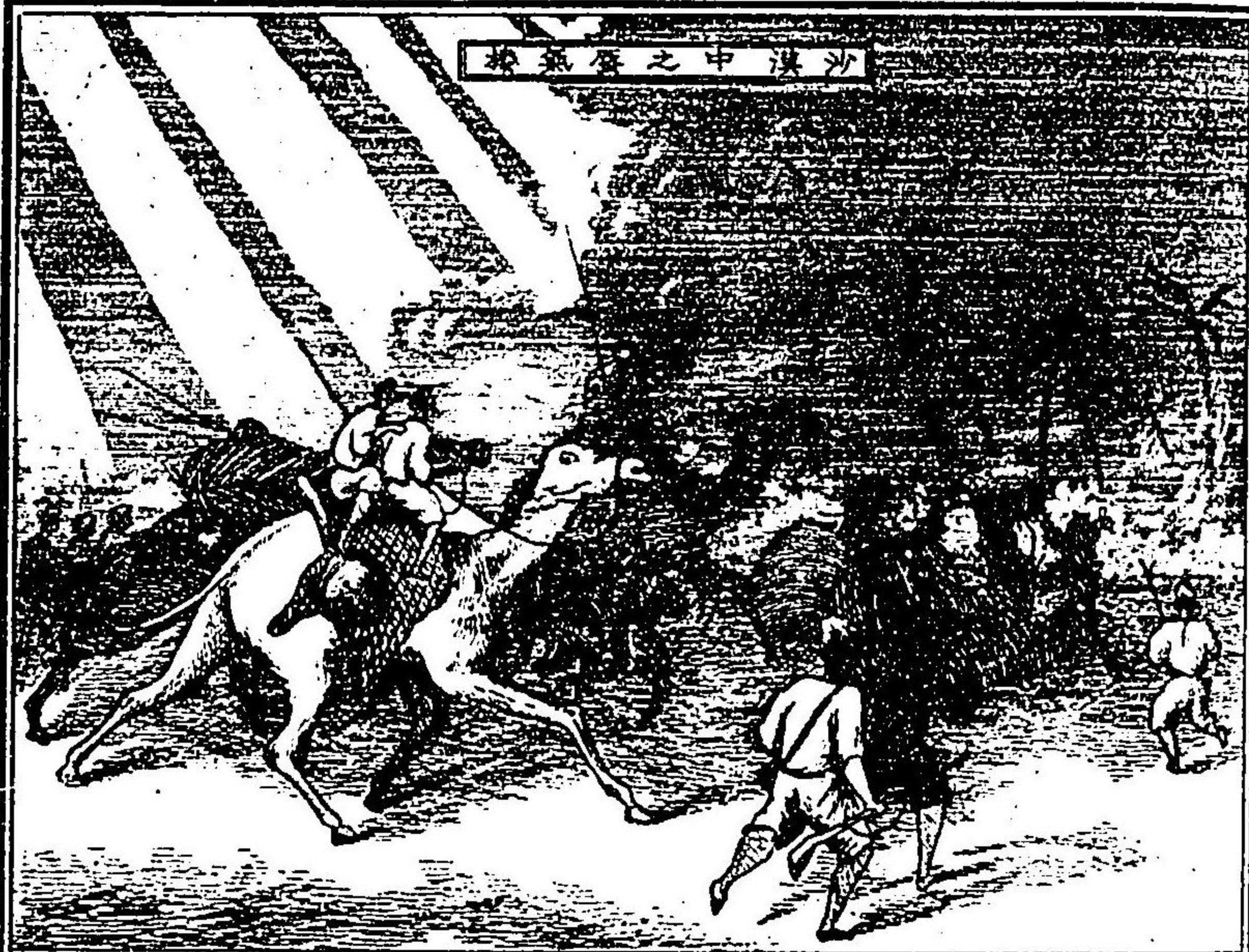
獸皮を以て之を蔽ひ、次は妻妾、教十人、寵臣、教名を生ながら、屍の傍に待せしめ、つ蓋をかして埋たり。此時自分も傍觀し、覺へず涙を落し、斯する間、主人ども凡す三千人斗り、何せも大なる棒を持、墳墓の四方に群をかき、置然勇みて立居たり。余は怪み手真似して、彼らの來りし故を問ふ。酋長の臣、吾輩を四五町隔て、丘上を誘ひよきば、俱は行、此處に酋長親戚ら、薦席を布て、墓所を視つ。塵埃を擽げ、前面の教千の土人を指揮せしが、忽ち聞ゆる喊声、土人は棒を振り、鬪し、敵も味方もあらはれ、前後左右の別なく、撃つ、撲きつ、格闘し、頭腦を割らきて死するあり、肋を裂きて、斃るあり、手足を折らきて呻くあり、固より酋長の為かきは、勇み進て奮闘し、墳上鮮血池をふす、其血漸く酋長が、柩に達する頃を視て、號令を為し、式を罷む、死者八百五十人、大小負傷者、教知らず、噫、是何らの所業ぞや、余此地に來る、前内地、蠢愚の慘狀は、書籍に依て、猶知せり、然りと雖も、實際は、右の事情を目撃し、一驚再嘆、三思四憂、實は豫想の外に出づ、嗚呼、悲哉、云々と、論者曰、ホツテントツト上下幾内、亞及当部内、於て酋長の葬式は、概し如此の類なり、我朝曠昔、殉死の事あり、何せも無智の致す所、編者も筆を投て、悲むのみ

漢沙大ラハサ



撒哈拉大沙漠之部

サハラは宇内の大沙漠、沙磧の洋といふ義あり、西は大西洋にして、東の端のヌビアまで、長さ大約三千英里、北はモロツコアルゼリア、アトラス山脈境して、南は蘇丹、セネガム、ニア、南北廣濶平均し、一千英里は出入す、實は至大の沙の海、駱駝の脊を松に代へ、今より内部に進まなん、夫き此沙洋は一歳中雨の降る事非ずして、朝露の降る事もなく、濕氣稀なる沙地のみ、漸々内部に進み、あはば四顧渺茫として、涯りある、沙磧と天と相合し、山川草木鳥獸や、其他の心も更に見ず、



沙漠中之幻景

若し針路を誤れば駱駝を殺し飢を凌ぎ
 猶且死する事あり。
 ◎蓋し右の沙漠中重なる線路二條あり
 海上航線路、如く天文學上は磁
 針トニ依テ畫定シタルモノナリ
 非三國より西南方アガジスを経て蘇丹の
 チンバクツ府及びナイゲル河の下に出づ
 フエザン國カトロンより蘇丹チ
 ンバクツ迄沙漠上行程千五百英里
 ツアトを過て西南方トーデニ邑ニ路を取り
 彼のチンバクツニ到達す道程迂回千英里
 蓋し北岸諸國ある成隊旅商數百人
 數千の駱駝ニ貿易品食糧木綿類多
 糧食等を負はしめて遠々内地ニ通商す
 廣袤無邊の沙漠中概テ無人ニ屬すきと

沙漠中之泉地



氣候は熱帶中をせば大陽沙上ニ躍り出で
 炎威赫々燬々如く沙磧深く熱を以て
 身心焦さる、思あり水は勿論乏しき
 纒かニ華囊中ニ入る跋渉の困難想ふべし
 夜間は月と星辰の明りを使いつ勢帯の
 磁針ニ方向定めつ、心の妻しき心進むあり
 然るニ神は憐みて稀ニ不毛の丘を置き
 泉水湧出せしむあり且熱帯ニ堪へ得るの
 樹木を植て之を蔽ふ泉地沙漠の至宝ト
 以て陰翳ニ休憩すききと華氏の寒暖計
 一百二十五六度數ニ飲料貯へつ
 遙か又他の泉地ニ針路を定め發行す
 道程迂々て五日間遠きは十有余日間

彼の泉地は依り黒人種部落を為して散在す。右の非三始めとしカダマス人口三千人、ツアト人口五千人、ビルマ人口六千人、アスベン人口七千人、其他小なる部落あり。何れも隊商旅行中休憩するの場處より尚湖水二三あり。

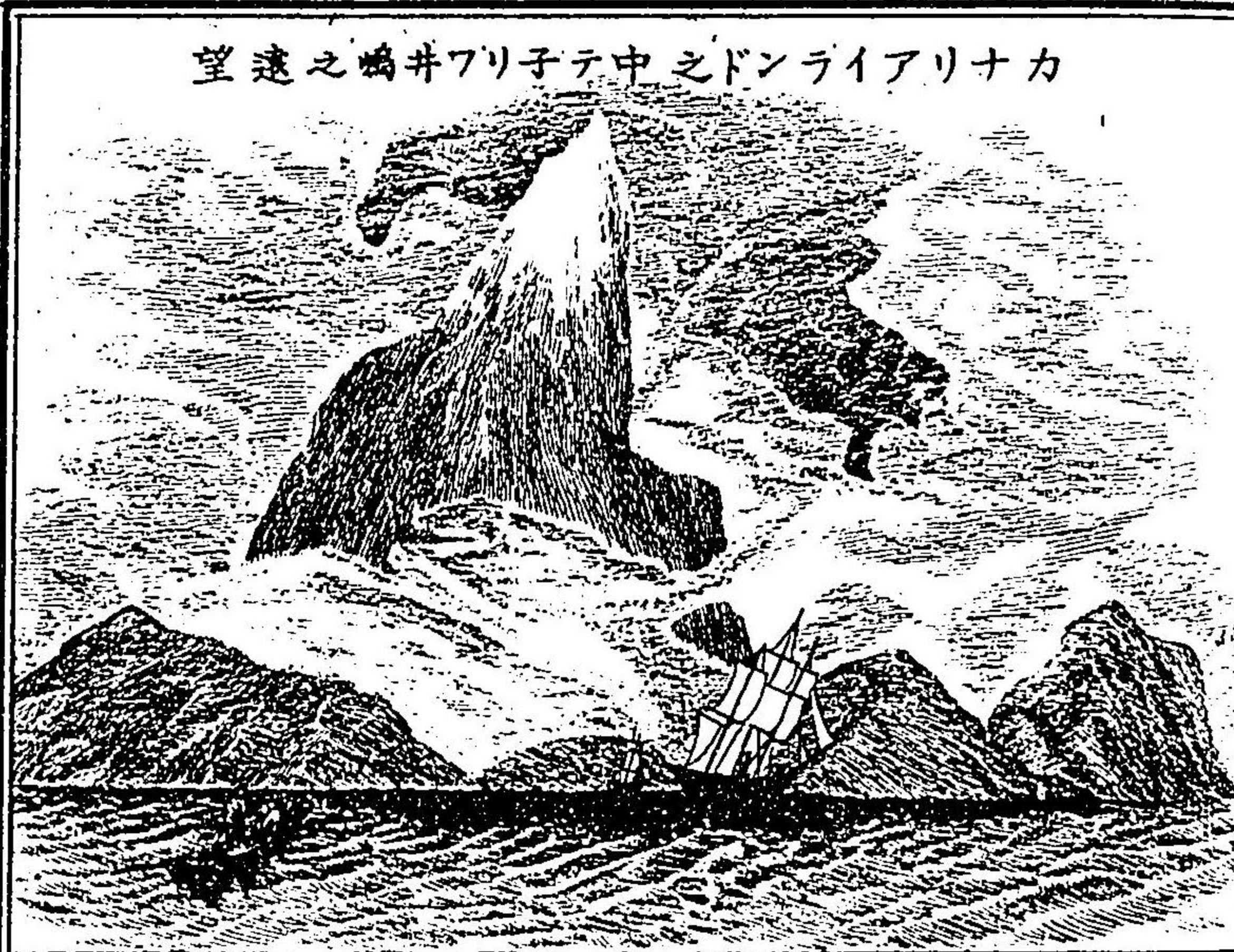
◎右に掲げし一畝は沙漠中の一奇観。英語のミレージ今之を屢氣機と翻譯す。是を蓋し旅行者の最も惑ふ所あり。旅行者磁針を便とし線路を進行する中、東南熱風起りおぼ満天細沙を捲上げて氣象忽ち變化せり。此時旅行者數百里を進行せざるは泉地は遠し能はぬ等ある。忽ち二三町を隔て樹木や湖水を眺望す。是を即ち奇観とて能く地理に通ずるの旅人と雖も真とみし其を目的は二三町走せど行けど彼樹は尚二三町向あり幾十英里を進むと接近する事非ずして氣象再變終は彼を見失ふて形もなし。旅客は鬼神の所為とみ其理を知らず恐怖せり。阿非利加無智の人民が之を怖るも無理ならず。きとみ天地間の事不思議とみ事更におかし原因在て結果あり。此屢氣機の原因は熱度因りて光線の屈折より来るものにして彼の熱帶中大陽が赫々沙漠を燦々時、空氣は為め膨脹し陸地の空氣稀薄なる

沙中風塵之十人苦之



稀薄の空氣は此時は常の空氣と屈折の程度を異にするが、或は屈折反射して數十里外のもの忽ち側より来るなり。否な我側に来る如く反射の爲めと思はしむ。◎上欄掲げし一畝は沙漠中の大難事。適ま願風起りなば今まで平穩無事にして眼取涯りあらざりし平沙忽ち空に飛び雲霧の如く飄揚し満天朦朧太陽は光を失ひ凄愴し四邊沙煙を取巻き身解明を失ひて呼吸する事又難を炎威烈風乾燥し囊水何か蒸発し進退維谷りて降り来る沙は全隊の人畜忽ち埋没らき衰き數千の生靈を

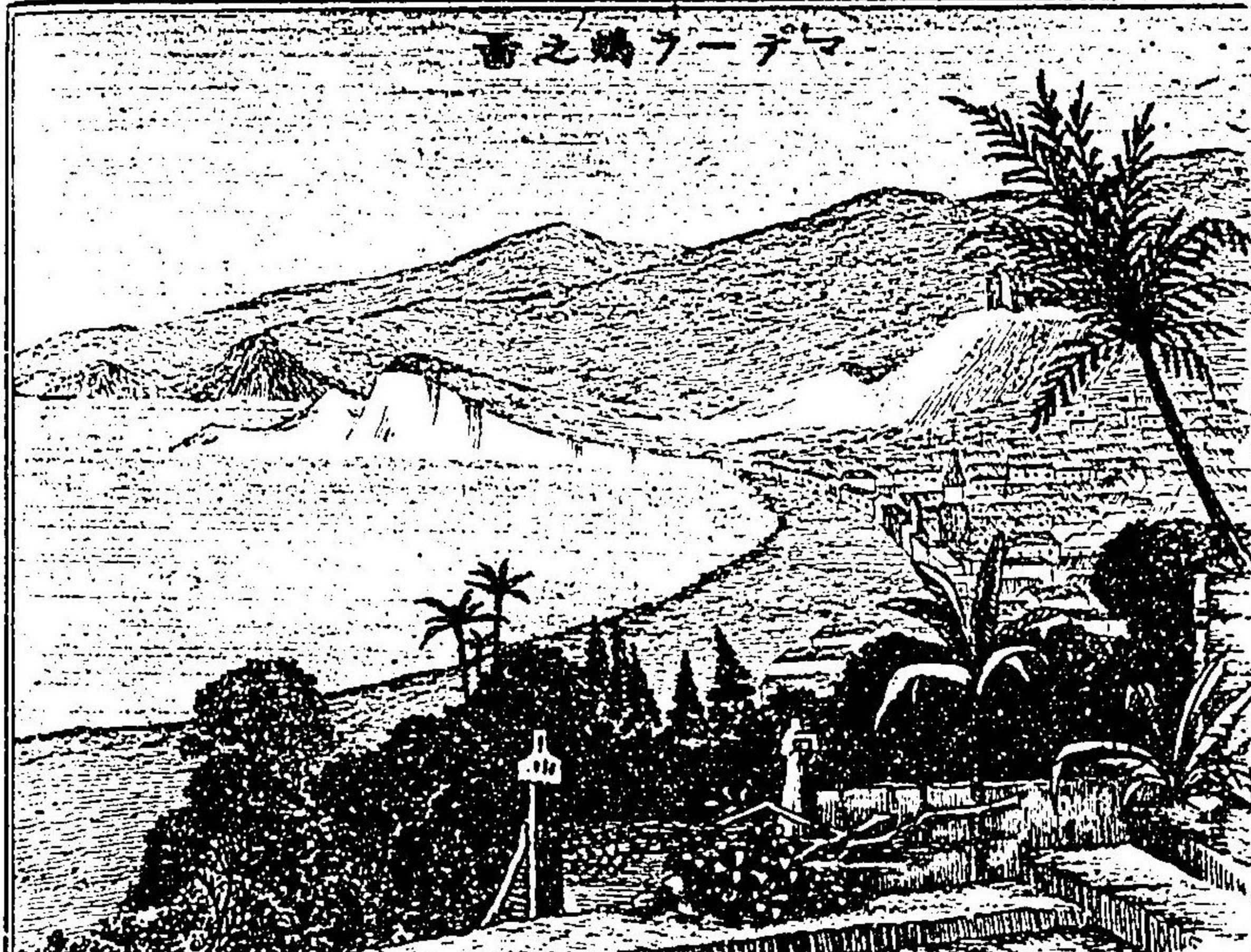
TENERIFFE IN THE CANARY ISLANDS.



望遠之嶋并アリ子テ中之ドンライアリナカ

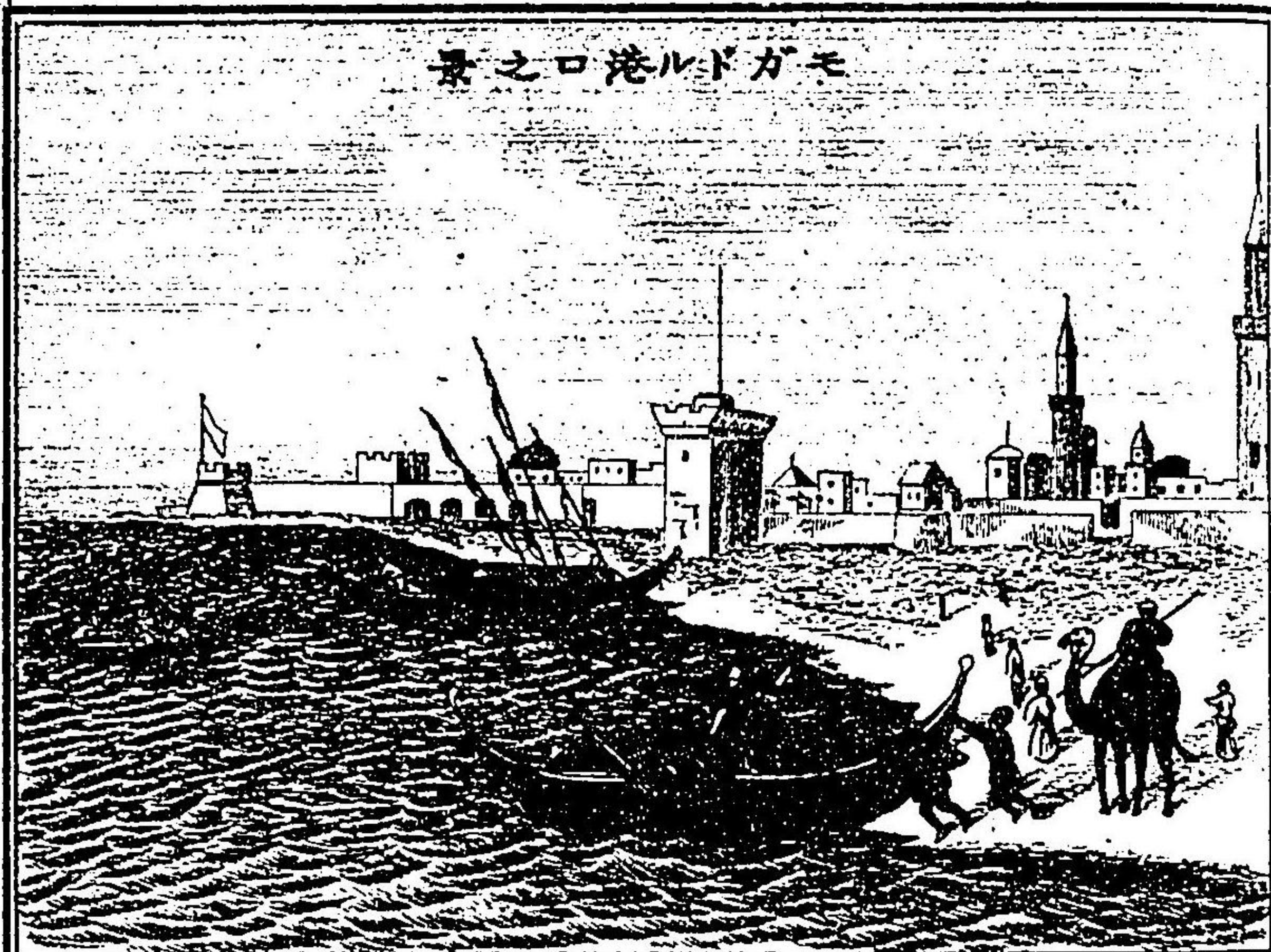
更さら又また害わざはひなし然しかせども東あづま南みなみ地方ちほうは沙さ漠ばくより熱あつ風かぜ来きりて勝かちへ難がたし人ひと種しゆはムールスへズウイン
 バルバスユダヤトルケ種しゆ黒くろ人ひと等らを多おほしとす
 域いき内うち人ひと民たみ兇あやま暴ぼうし文化ぶんか開ひらけず近きん世せいまで
 専せんら海うみ賊ぞく業ぎやうとせり故ゆゑは通つう常じやう残ざん暴ぼう者しや
 一ひとはカナリーアイランドスへイン國くにの属ぞく地ちより
 一ひとはカナリーアイランドスへイン國くにの属ぞく地ちより
 人口じんこう二十にじゅう六ろく万まん余あまりサンタクフルツは首府しゆふにして
 群ぐん島とう中ちゆうの都と會かいより島とう中ちゆうカナリヤ島とう多おほく
 呀や嘯せう蟲ちゆう類るい又多またしテ子こリりフイ島とう一ひと大おほ山
 高たかさ一ひと万まん二に千せん尺せき遠とほ洋やう航かう海かい望ぼうむ登のぼし

VIEW OF MADEIRA ISLAND.



番之嶋マデーラ

沙さ漠ばくの鬼おにと化くわせしめて痕こん跡せきなきよ至いたる事こと
 従したが来ら屢しばしば々しばしば聞きく所ところ故ゆゑは此こゝ地ちを旅りょ行ぎやうせば
 氣き象しやう測そく候こう至いた要やうなり
 巴ぱ爾に巴に利り諸しよ洲しゆう之の部ぶ
 巴ぱ爾に巴に利りとは大たい洲しゆうの北きた部ぶ地ち中ちゆう海かい岸がんの
 総そう稱しやうして西せい方ほうは西せい洋やうに濱ひん臨りんし
 南みなみはサハラに連つらりて東あづまは埃い及じつ境きやうせり
 海うみ岸がん大たい約やく三さん千せん英えい里り人ひと口くち一ひと千せん余あまり万まんあり
 地ち勢せい西せい部ぶの半はんは総そうて高たか原げん其その間かん
 アトラス山さん脈みやく連つら亘げんしチユニス以い東とうの各かく地ち方ほう
 概たい略りやく低てい平へい山さん岳がくの舉あぐきものは更さらに
 氣き候こうはアトラス山さん脈みやくの以い北きたの各かく地ち温おん暖なんし
 地ち中ちゆう海かいより新しん清せいの空くう氣きを送おくり健けん康かう上じやう



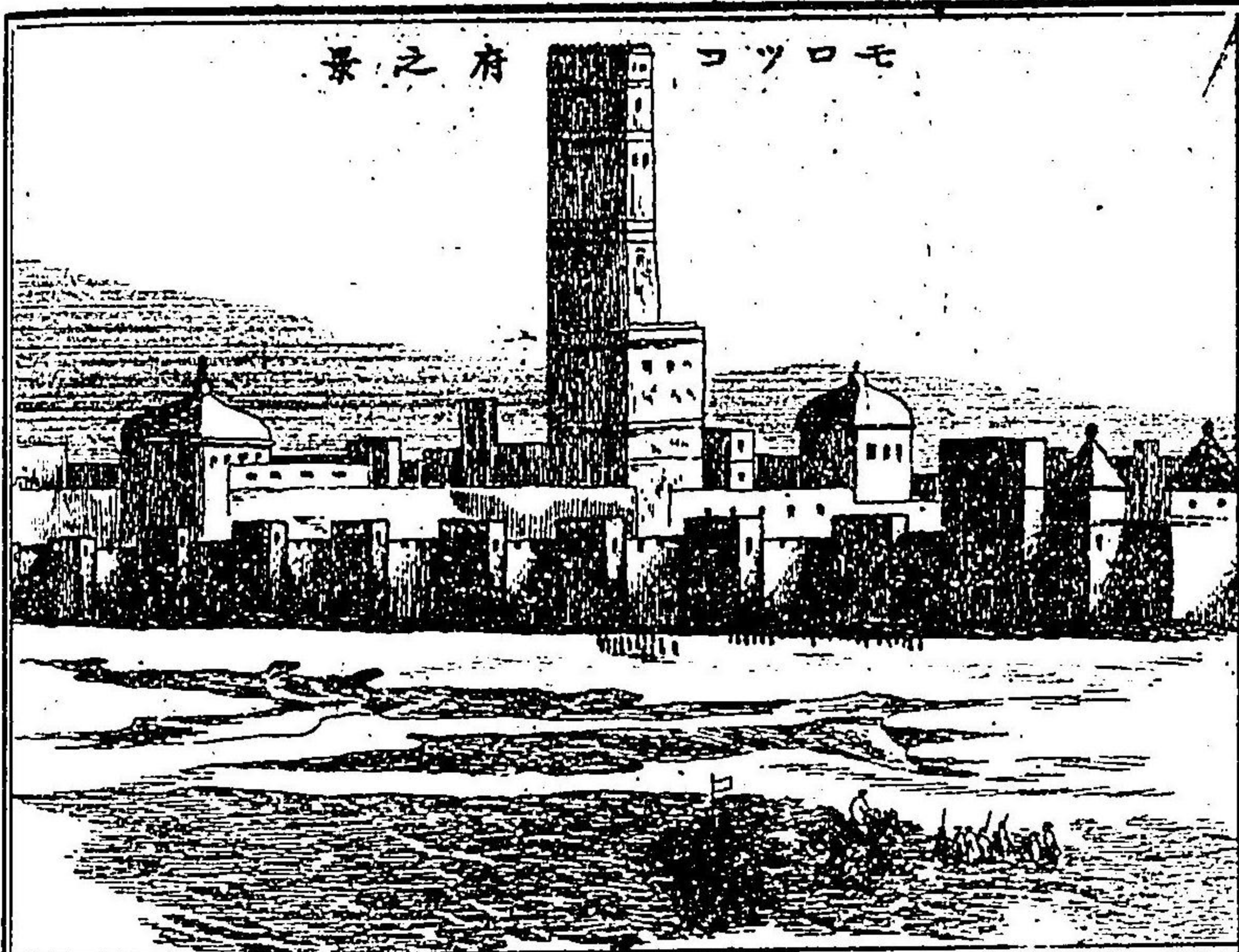
景之口港ルドガモ

○モガドル港は西岸の貿易盛の土地にして人口二万五千あり(上段内聖金濱モソロウヴィア港ヨリ海上凡三十英里)首府モロッコへ一百英里市街製革場多し蓋し葦草は本國の名産として歐洲へ輸出最も盛なり。

○大西洋と地中海境界するの門口にシヌータと名くる小邑あり海岸丘陵上に建つ人口八千余人あり此地は歐洲西班牙のジブラルタルと相對し其距離纔か二十七英里古代以上の海門をヘルキユルスの柱と云ふ西班牙此地を所轄して兵備の總督官を置く

亞爾稅利亞國之部 モガドル港ヨリアトシムル入港迄海上十二百英里

モロッコ國の西隣は東はチユニスに境して

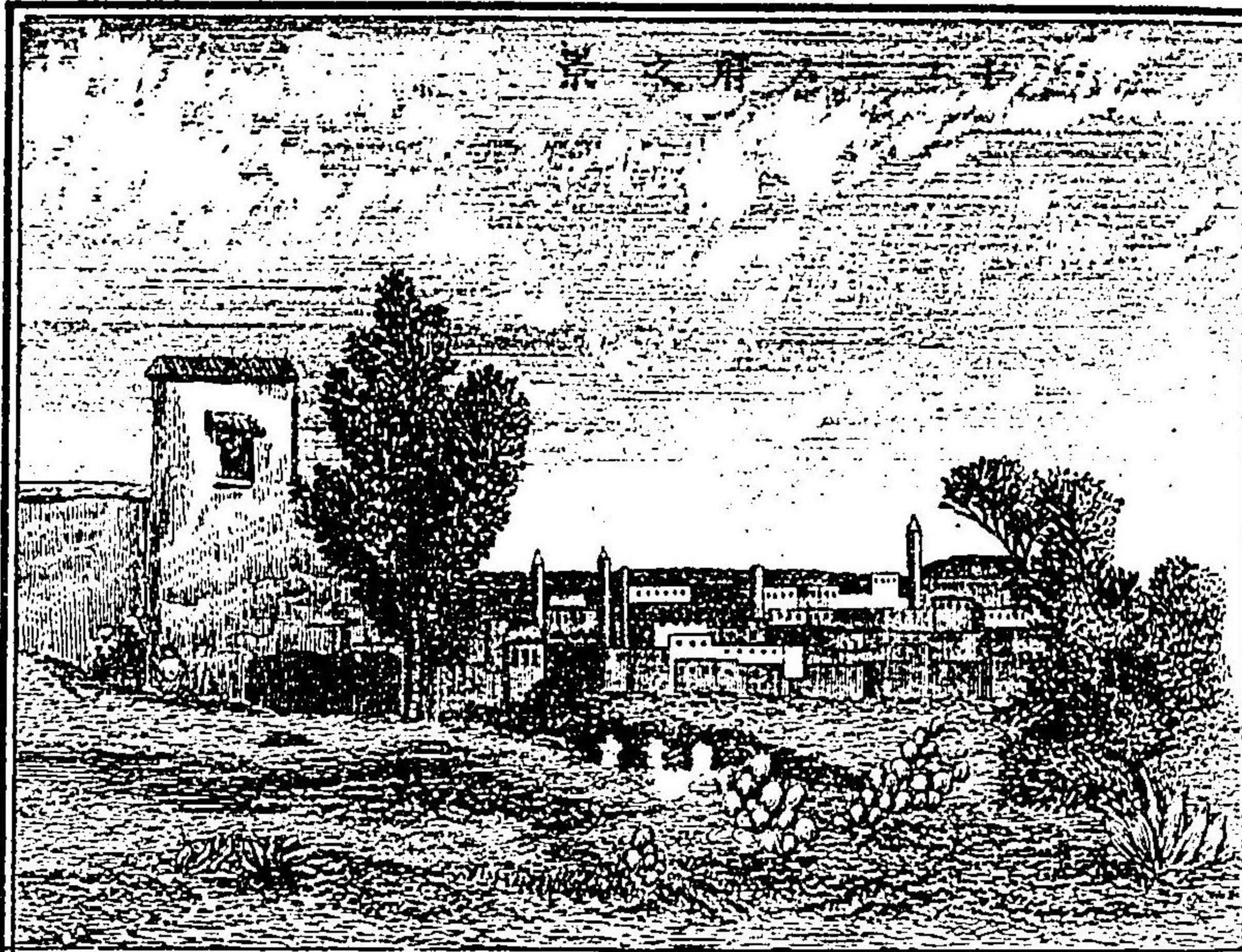


景之府 コツロモ

摩鹿野國之部 (獨立帝國)

モロッコ國は大洲の西北角に位して今帝ユレイハッサンは一千八百七十有三年九月即位せり皇帝所領の版圖は二十一萬方英里人口五百余萬あり政体純乎の專制にて之を制する法律はなを皇帝の宗教の長を兼ねて其威權暴戾残酷律令の典籍に載すものあらざ

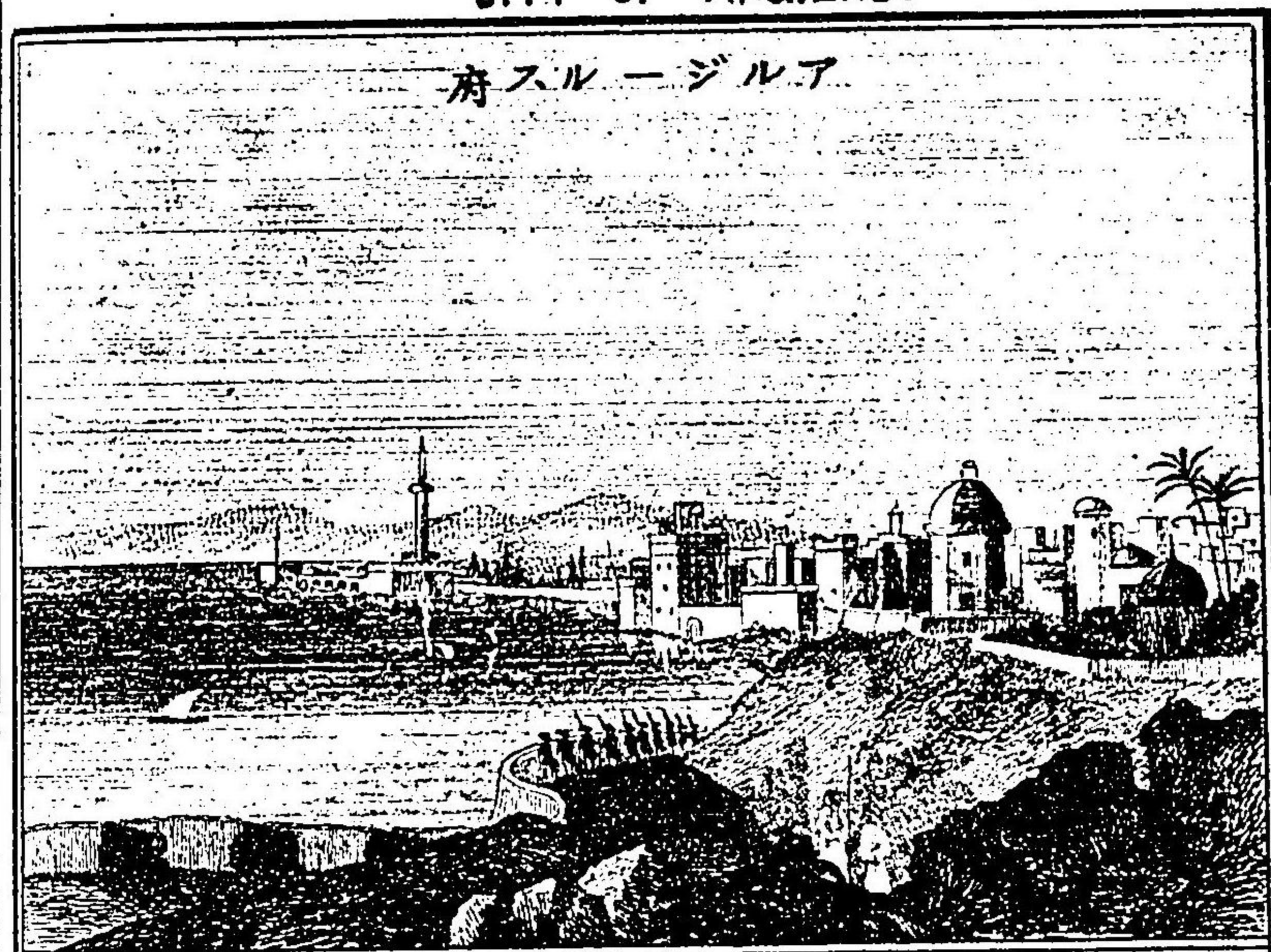
○モロッコ府は首都にして人口七万余人あり周圍三犬有餘の郭壁以て繞らせり街衢汚穢臭を裂く郭外南方四英里に帝宮高樓殿宇あり其觀頗る美麗にて暴政皮相に顯著なり。



土人は神術ありと云ふ産物良材金銀や銅鑛最も多しとす此國古来上下とも海賊業とし各國の商船抄掠しとる事隣邦より甚とし英佛西蘭兵を出し屢々征伐しよりしも勢ひ猛烈正し得ず今より百年前頃は西葡瑞典卑屈しし税を出して抄掠を纒かき免せ居りしが其後佛國大舉して漸々平定したる也

突尼斯國之部 アルジールス府より
チュニス府迄五百英里
 東はトリポリ國にして西に隣るは亜尔及幅負四万二千方英里人口一百五十万地勢峻峻アトラスの山脈部内は連亘す西北方の海岸は澳入海灣夥多あり

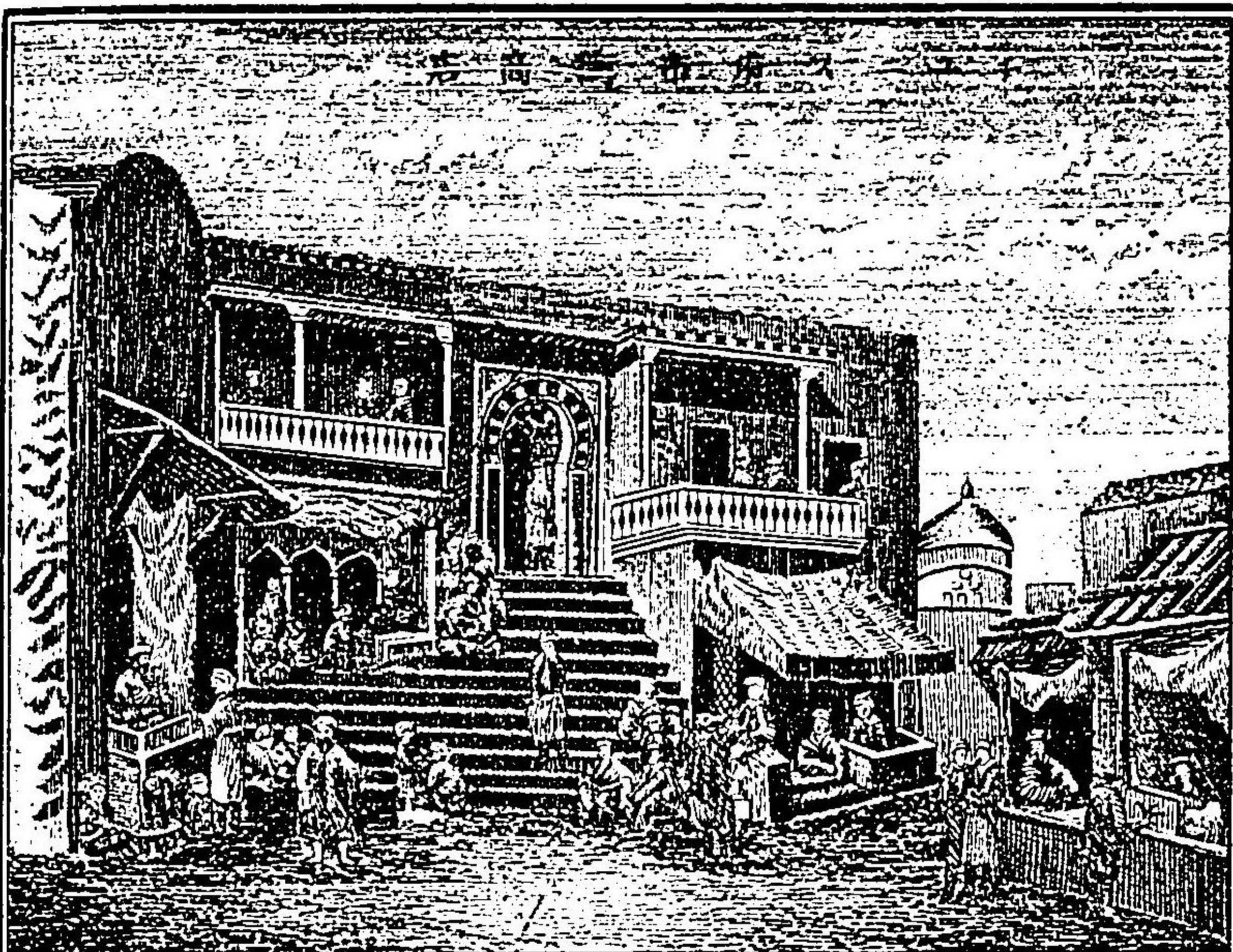
府スルージルア



南部はサハラの沙漠あり海岸長さ八百英里人口三百二十万此國元來土耳其の領地ありしが今を去る五十四年前佛國の所轄に歸せり佛政府鎮臺を置き統管す國內三部に區畫せりコンスタンチンオーランやアルジールス部といふ各同名の都會あり

○アルジールス府の人口は六万ありて府の外部最堅固の台場あり府内の景狀歐洲の風と異して殊に彼の總督官衙美を盡す

○内地の曠野河脈を古來開墾せざりしが佛國農學博士達近年土質を鑿査して大井夥多掘鑿ち水脈灌漑便を得て瘠地沃野と變化しつ耕作非常は大利あり



海角ボンとブランコは大洲最北端と知せ
 氣候和煦地味膏腴をきと農民怠惰て
 敢て之を利用せず産物大麥小麥や
 エスパート草製綿毛や獸皮コーフヒー橄欖油
 海塩硝石珊瑚樹牛馬駱駝等とあす
 ○此國は古代より高きカルゼージ國本部にて
 一時は羅馬と頡頏す其後幾多の治乱あり
 興廢ありて現今は半獨立の國なりし
 今王シチアリー君一千八百八十有
 二年十月即位せり一千八百八十有
 一年の春佛國は監護に属する條約し
 突尼斯の政務を干渉せり其後此國疲弊して
 英佛伊國に負債しつ以上の三國々政を

監督するの運に遺ふ。

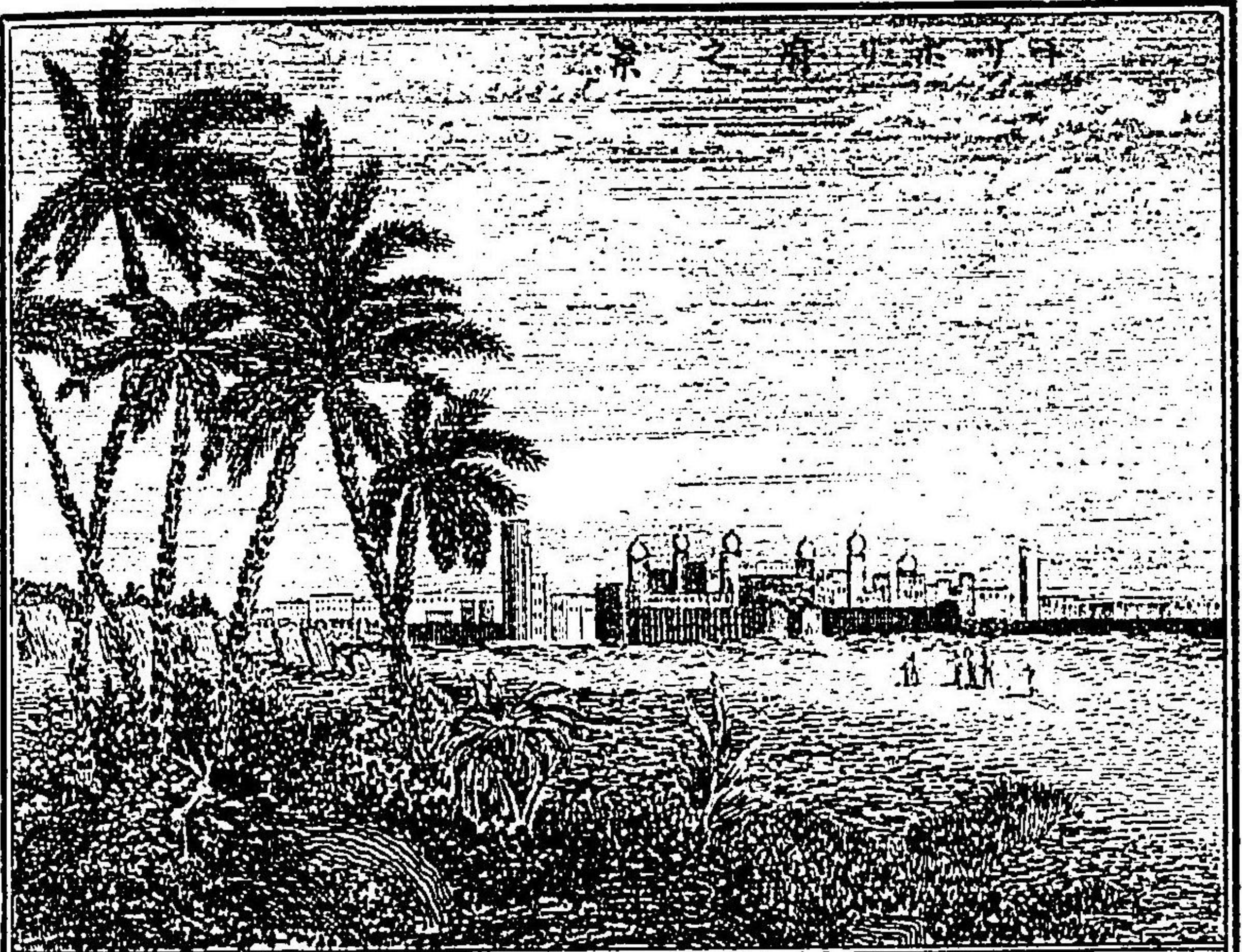
突尼斯府は首都として巴爾巴利中第一の貿易場と知せり人口十有二万あり
 市内に觀るべき名所は上古名高きカルタゴの遺跡最多くして曠昔七十万人の
 人民富盛極めたる遺物儼然存在す市外に今の國王がアラビヤ風の宮殿あり
 構造頗る美を極む又毛布麻布紅帽や皮革の製造盛あり。

尚城内のカベス府は人口三万ケールワン人口六万モナスチル人口二万五千あり
 何れも英佛伊國等と大小貿易通商す。

的里波里國之部

トリス府よりトリボリ府迄四百廿英里

東は埃及國として西はチニスと大沙漠南は属邦非三とりビア沙漠に墜せり
 面積七十万方英里人口八十余万あり現今土耳其に附屬して副王之を管轄す
 城内五區に大別す即ちトリボリメシラヤガダメスベンガジ州及び東部の一洲バルカとり
 バルカは酋長專轄し半獨立の姿なり地勢山脈少なくて降雨は稀に露多く
 幸ひ耕植善を適す産物大麥及び果物多く産出し羊馬驢馬は古代より



其著名の良種トリ。

○トリポリ府は首都を本國土耳其其裝微不振副王政令悉くして府民富ます人口は一万四千五百人副王此府に住すきと觀るべき記すべきものあり。

○非三國はトリポリの内地に連り沙漠中最も大なる部落あり現今トリポリ副王が之を管轄し居きり土耳其政府は兩國へ兵卒一万派遣して主人を鎮壓し居きり

編者曰右にて阿非利加大洲は既一周しせば今より小漁船に乗り地中海を東へ航行し埃及のアレキサンドリヤに着して大船に乗換スエズ運河を通り紅海を過印度洋に出大洋洲へ旅行せんとなす

大洋洲之部総論

大洋洲は亞細亞洲・東南瀛と亞米利加の西瀛間に散布せる無數の島嶼を總稱す此大洲の一方はモロツコ海峡支那海と大瀾海峽以て彼の亞細亞洲より分割し又他の一は廣瀾して島嶼少き一帯の大瀾以て亞米利加の大陸地方と分離せり今天然の地勢にて之を三部に大別す一曰く馬來西亞二は澳太利洲三曰く波里尼西亞三部の幅員總計は四百二十萬方英里人口一千六百萬蓋概算なりと知る。

馬來西亞諸島之部

馬來西亞一名東印度諸島と稱し全地形無數の小島群集し海峽頗る錯雜すさきと七海上穩か航路航行甚容易なり群島中の大なるは波羅綿門峇臘瓜哇呂宋西里伯等を首とせり氣候は熱帯内をば動物植物産人民の性情等も又同じ地勢都て山多々蘇門答臘島のオフレ山高さ一万四千尺山上常に雪を見る呂宋と瓜哇に火山あり地震の患を免せず各島乾燥荒地なく産物頗る多しとなす

金沙銅鐵煤炭や金剛石アンチモニー象牙羊毛獸皮真珠琥珀鯨油鱈鱈
 桂皮丁子や樟腦や米穀綿花砂糖類檀香木や麻芋や木枝等を多しとす
 ○摩鹿加諸島と瓜哇島と蘇門答臘過半は和蘭の全を領する所にて本國よりは瓜哇島
 鎮臺を置き保護したり其他の小嶼は西班牙と葡萄牙の屬地あり土候の領地野蠻らの
 部落を爲すあり然るに道は邦國と云ひ難し

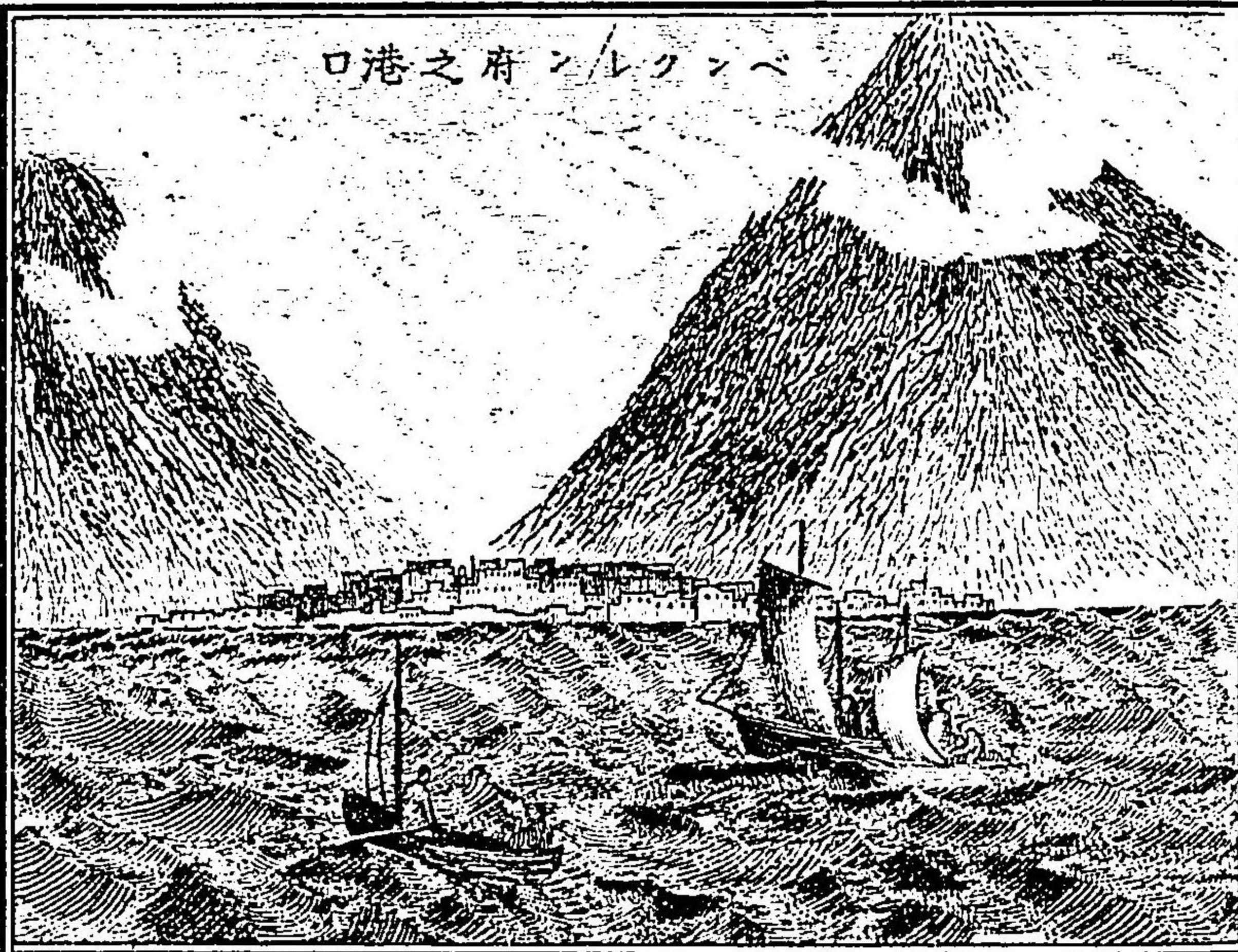
蘇門答臘島之部

本島馬來西亞西端の大島にして一帯の海峡を隔て印度なる馬來由半島と相對す
 長さ一千二百余英里幅百里と出入し赤道之を中分す故に炎熱酷からず
 年中華氏の寒賊計八十二三度昇降す全島民口四百万馬來人種の野蠻にて
 風俗慥悍進化せず東北地方と西岸は和蘭國の領地なりパタン人口一万人
 パレバン人口三万人

ベンクレン府之記

阿非利加州峽及國アレキサンドリヤより
 地中海印度洋を經て五千八百五十英里
 当府は二百年前英國始めて植民し今人口二万人東南方の要港なり

口港之府ンクレンベ



蘭國副鎮臺を置く市街の家屋華美ならず
 歐人支那人印度人此府に來りて通商す
 貿易品の重なるは金銀金剛石おほく
 樟腦木枝胡椒あり

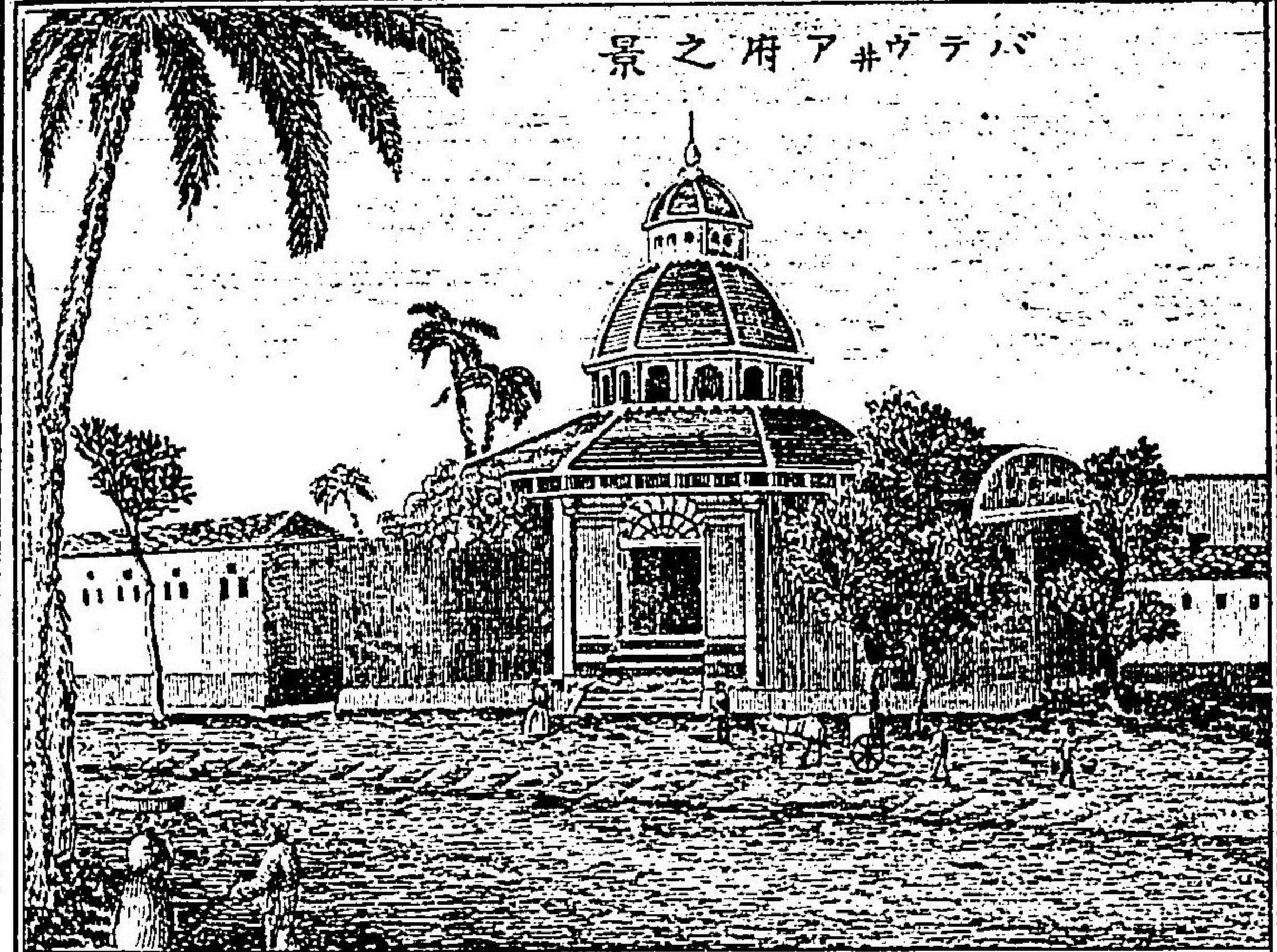
府の西北に大河あり内地へ運輸の要路あり

瓜哇島之部

瓜哇は蘇門答臘東方の諸島にして其長さ
 六百二十英里余人口三百万ありて
 全部和蘭の領地あり氣候炎熱酷なせと
 内地山脈屏列し河脈も甚からざるは
 草木百穀蕃生し山水最も秀美あり
 産物咖啡煙草や米穀砂糖胡椒あり
 椰子油藍靑又多し



年を逐ふて開化しつ。猶且進歩の象を視る
 府下往時はは濕地にて健康上「害ありし
 然るに蘭人得意なる溝渠を通じぬるに因り
 能々天然の害を勝ち今は往時の比に非ず
 郊外何れも豊饒の沃野遠を連りて
 咖啡園や檳榔や椰樹は處々「林をなし
 村落奇異の草木は「籬外に繁茂し實を結び
 土人の家屋は其屋根を椰樹の葉を以て葺たは
 甚だ質朴幽致あり赤道直下の開化國
 旅客の耳目を新し「港内甚廣闊けせど
 夥多の小島散在し「碇泊最も便利にて
 軍艦商船集せり貿易通商盛んにて
 一千八百八十年及八十二年まで



伯底比亞府之記
 バタヴィヤ府は首都として本島西北岸にあり
 人口十有五万余歐人土人や支那人や
 諸國の族裔又多し蘭國政府の鎮臺や
 議事院官衙學校や病院會堂全備して
 街衢市塵甚布櫛比顯官富者の第宅は
 鍍石造りの美觀あり道路甚清潔に
 市内の庭苑佳木あり芳草艷美を闘はし
 歐洲文明各國の都府に辱さる名府なり
 此地往昔は支丹の統轄したる國にして
 實に衰廢窮僻の寒村なりしが今を去
 二百八十六年前英人始めて侵掠し
 後ち十年を経て蘭國の所轄に歸せり其以來

OUTWARD APPEARANCE OF
三三 THE PLANTS GARDEN OF GUINIA. 樹榕



ホイデンソルグ府
植物園之外観

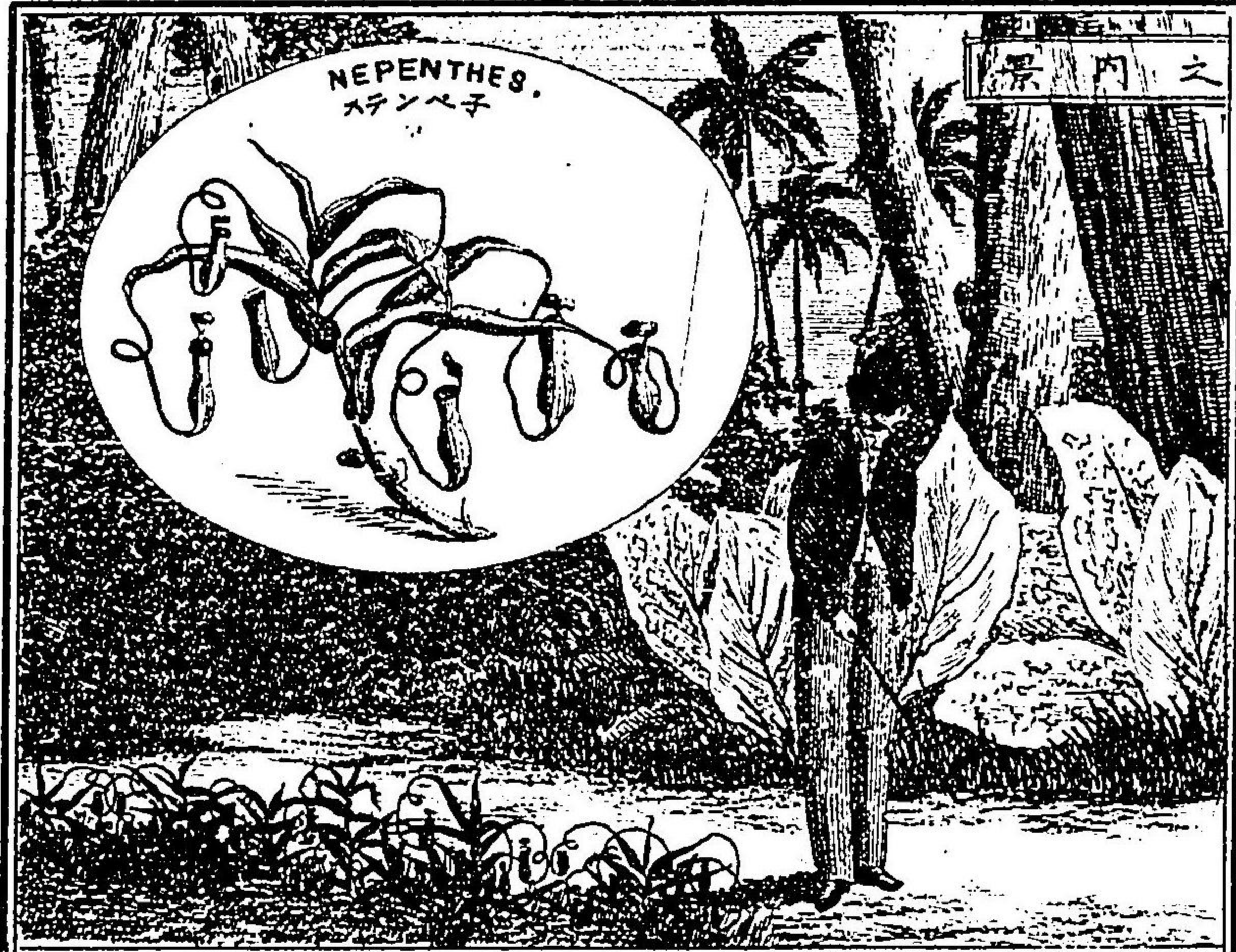
立案創定せしは據る總督官を輔ぐる一
数名の吏員を以てせり管下二十二洲中
分擔政務を掌り各洲五名の検査官
土人固有の酋長と懇篤周密面議して
治下の民をば撫育せり
總督官の任職は四年以て限りとし
行政權を掌握す本國政府の立法に
低觸せざきは政法を便宜に定むる權理あり
然りと雖も本國が五十四年議定せし
彼の東印度憲法の原理に從はざるを得ず
○此地の大なる植物園世界に類なき奇觀あり
熱帶地方の植物を悉皆是に萃聚し
植物學者を備聘し培養事務を管せしむ

VILLAGE OF GUINIA.

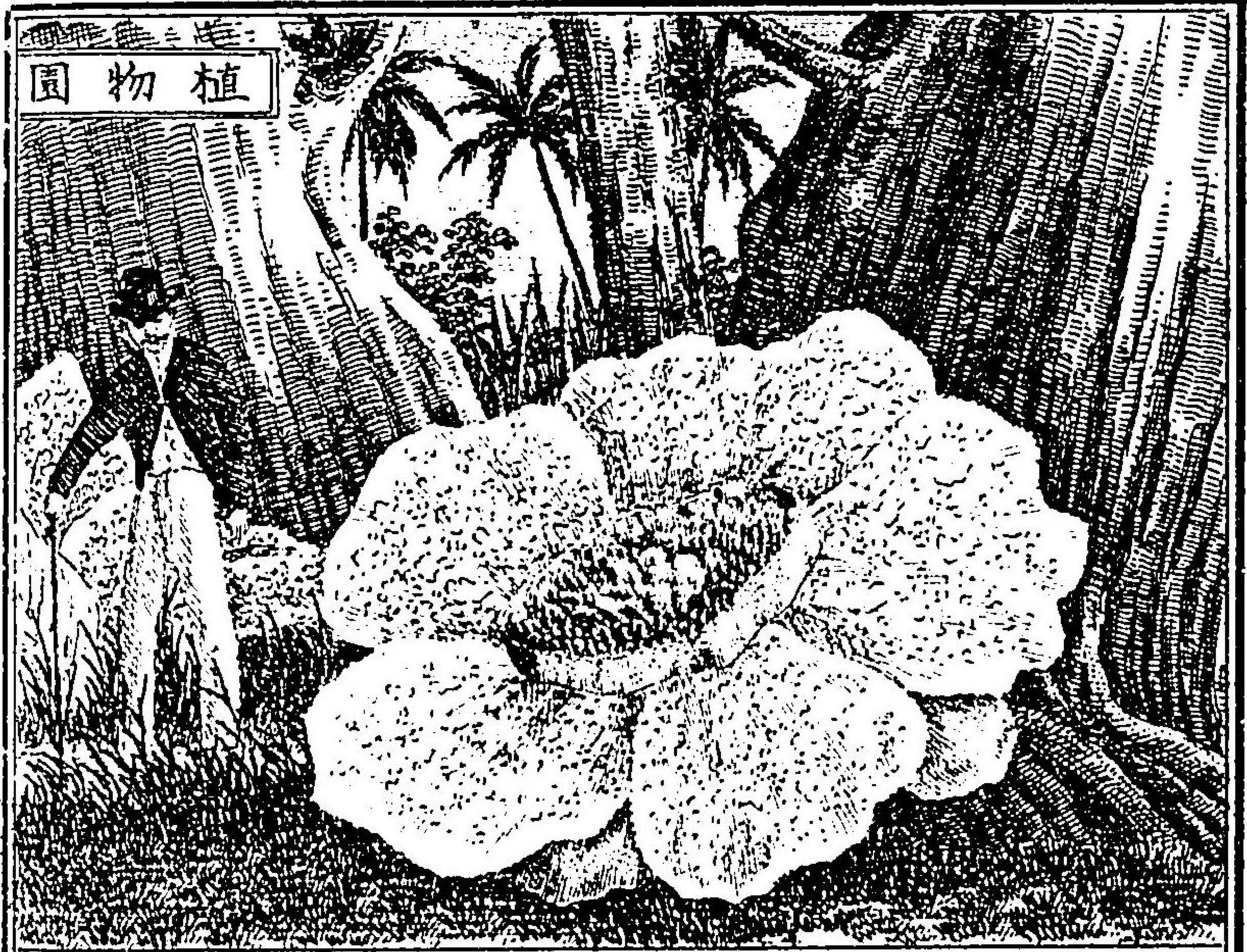


瓜哇之村落
土人種也菜と食ふ

毎歲平均輸入品一億五千萬ギルデル
一ギルデルは我四十一錢八厘輸出一億八千萬
ギルデル余の巨額なり其内四分の三は
蘭商人の手を經たり餘は英と佛日と米
ポイデンソルグ府之記
当地は前府を距ける事僅々二十三英里
人口少を閑靜にて山水明媚の風致あり
和蘭政府の鎮臺は平常此地に駐在す
故に第宅清麗に壯嚴鄭重威風あり
其鎮臺の總督は學力人望兼備せる
穩和の人を派遣せり現任總督蘭國の
オバハリス氏撰擧る其管治の方法は
一千八百三十二年ジヨハン子ス將軍の



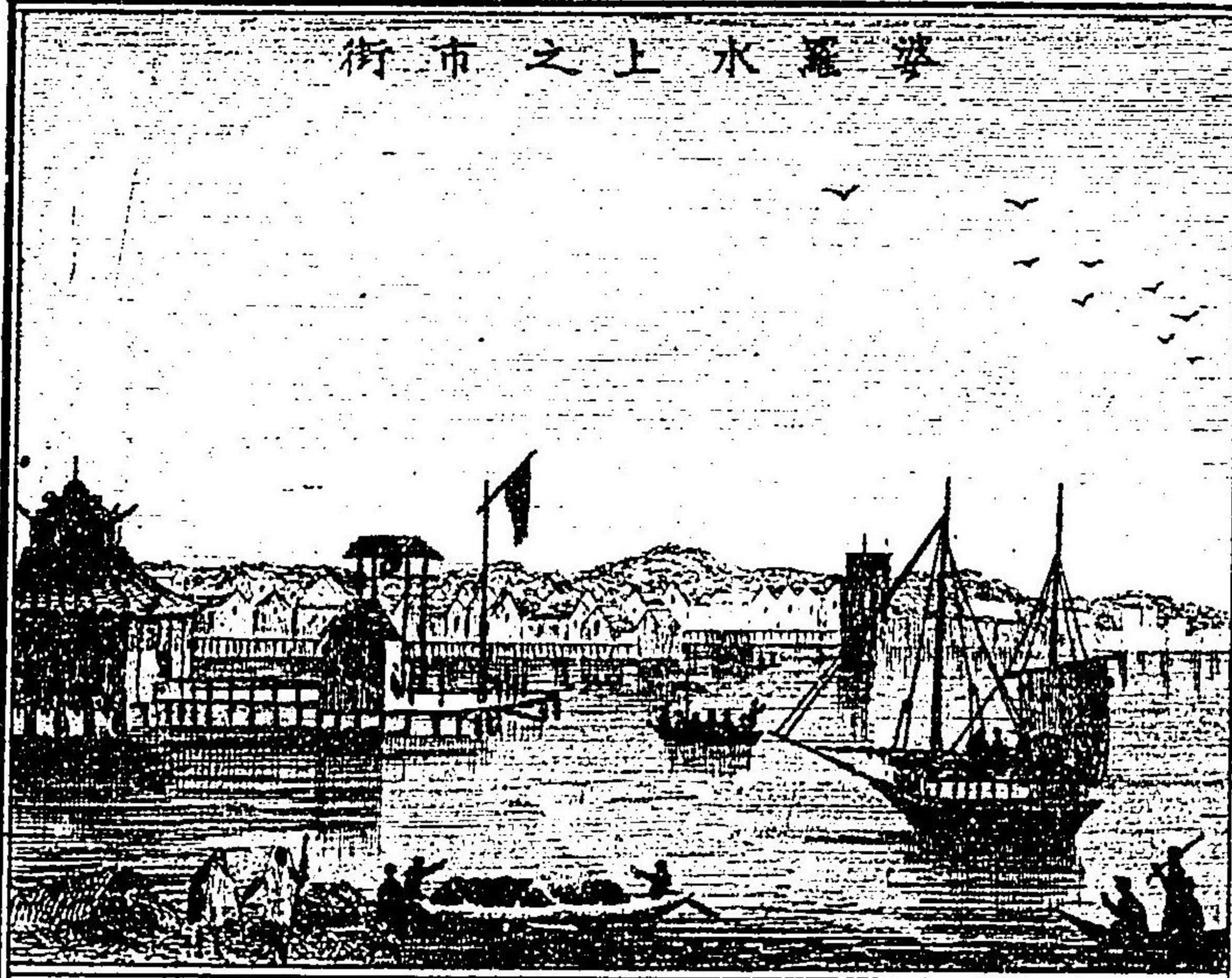
其葉端より数寸の蔓を垂きて其末に
 瓢の如き壺の如き囊を懸けて其上に
 蓋を附せり初めは之を鎖し長ずきは
 之を開き開閉は宛然蝶紋音をうず
 囊中常に貯水せり此囊葉に属すきと
 形状の奇異なる比類なし
 其他芭蕉の種類中異形の果實を結ぶもの
 甚多し此實は食料となす甘味あり
 榕樹は至大の奇樹にして無数の枝條根を垂
 直下地に入り柱を為す其他異状の草木は
 当園中を充ち満ちて旅客は奇と呼び快と呼び
 實に心を新しす歐洲中にも幾万
 植物園を設けんと是に優るもの非ず



熱帯地方の草木中奇異なるものはラフレシヤ
 及び子パンチスと為す其ラフレシヤは漆羅の
 山中夥多生ずあり大小二種の別ありて
 大なる花の圓径は三尺二寸五辨あり
 辨は甚厚くして肉の如き其色は
 茶褐黒斑點々たり此もの根幹枝葉かく
 唯花のみを發なり毎に藤羅の類及び
 樹根に寄生し初生は其樹皮漸々膨脹し
 入頭如きありし時次第に花辨を開発す
 子パンチスも大小の二種あり是亦奇草にて
 其葉は生姜の葉類に滑かばして幹細く
 蔓生する者多しとす花は最も小くして
 紫白色あり然れども其花莖を採るべし

STREETS OF BARA
UPON THE WATES

街市之上水羅婆



猛獸毒蛇の巢窟のみ北岸キニバル山脈は内地へ蟠岬連亘す高峻一万四千尺産物黄金真珠や象牙犀角金剛石樟腦顔料等多し。

○ポンチヤナックは西境要港にして和蘭は副鎮臺を設置せり南岸バンゼルマン府は支那人多く居留せり。

○西北海岸地方をば支丹獨立國を成す兵士数千を擁しとり半バ裸躰の兵士とす軍人楯と刀を持ち毒矢を用ひて銃代ふ

当府ヨボルニテ大河あり河口を沂る九英里ヨ又ボルニテ一府あり人口二万河ヨ浴ひ水上筏を組成して上ノ人家を構造す

MANNERS OF THE NATIVES
OF BARA ISLAND.

婆羅島土人之風俗



婆羅之部

婆羅國は瓜哇國の東北方ニ位せる大島にして其長さ九百英里余ありて幅五百英里ヨ出入す澳太利亞國を以て大洲とせば之を以て世界の最大島とす

さきど七人口無教にて概略三百余万のみ固有の主人はダヤックス風俗兇暴進化せず域内膏腴の土地あせと開墾するものあらざして野蠻の境ニ安んぜり。

巫來由瓜哇や支那等の人民各地ニ居留せり島の西まと東南岸和蘭國の領地とり北岸美國領もあり其他は支丹酋長の分領なせる所なり内地は深林環繞し

家人之落村地内ヲネルホ



街衢は溝渠貫通し小舟を以て往来す
 府内は印度名産の社會を害す多憎むべき
 否亦英人の奇利を得る鴉片の貿易熾かり
 悲むべきの事なりし。

○左に示したる龍巻は英語のサイクロント云て
 十一月より翌年の六月迄の間は
 近海屢々見るところ航海者は恐怖せり
 其原因は空中の寒熱空氣衝着し
 卒然空中水氣をば收縮せる為め其大氣
 稀薄とありて激動し雷電暴雨伴起して
 海面水を捲揚し柱の如き兀立す
 昨年英の風帆船瓜哇の沖を航す時
 一天忽然驟曇り黒雲空に乱舞して

龍卷之圖



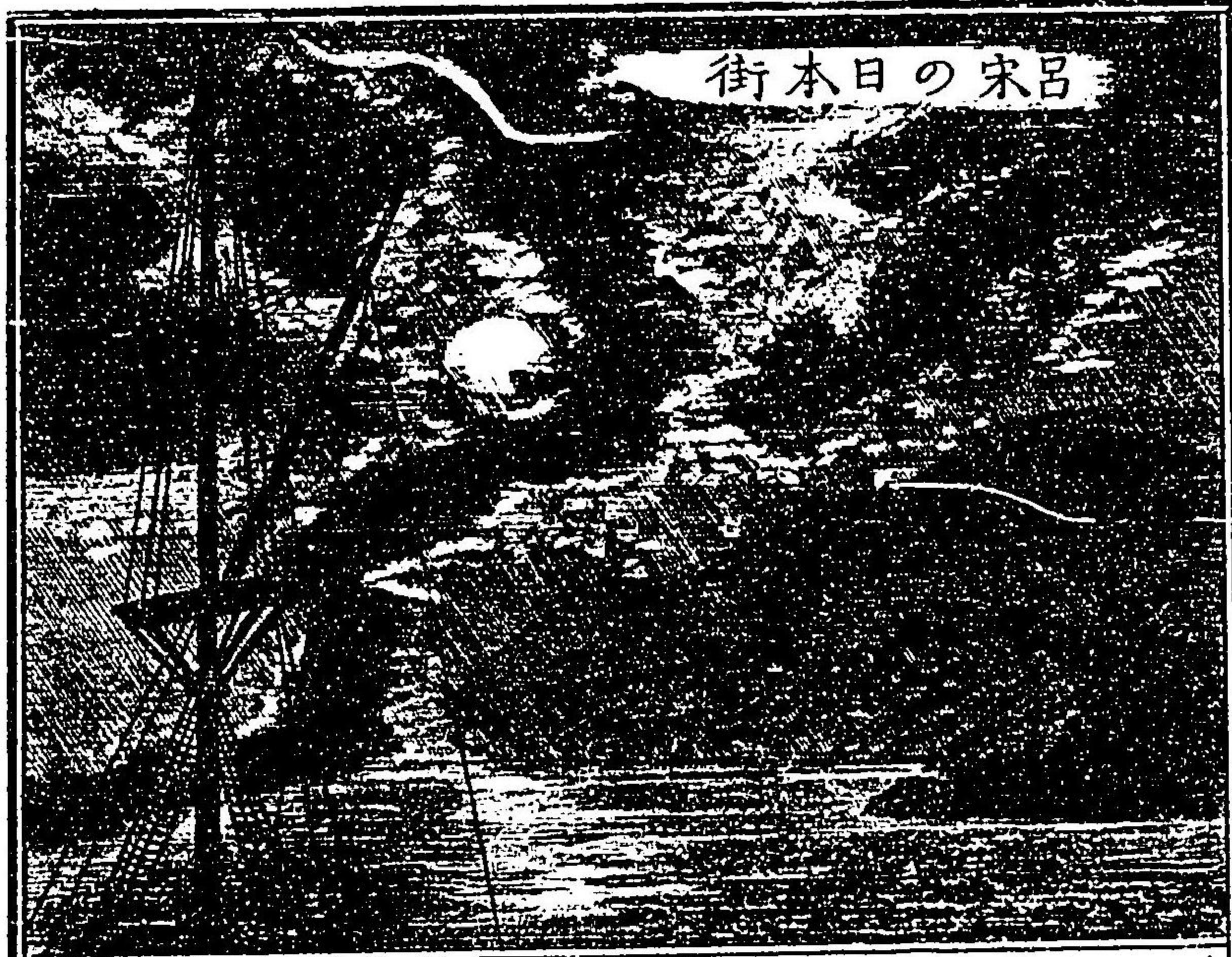
長巻 松本空利

電光閃々、刺射しつ、旋風迅雷鳴動し、瞬をひまら大船は木の葉の如く絡き上り、
 悉皆散乱飛失せて、船長水夫も乗客も空中眼瞑、敗て為す術もあらはら
 瓜哇の海岸に落さきて、粉微塵に成りけり。是事当時英國のタイムス新聞記載せり
 蓋し輒今有名の學士レテフィルト氏及びペンングトン氏等輩出、談狂風の理を窮め
 航海上の害を避々詳しき事は地文學及び其他の書にて知る。
 ○内地各部の村落は右に掲げし命の如く猛獸毒蛇を避けん為め、村の周圍に最も高き
 寨柵圍繞し各人家床を非常高きにして、各家棧道連続し一種異様の風を為す
 呂宋島之部

呂宋島之部

呂宋は婆羅東北の大島にして面積は五万八千方英里、島大小數十箇
 之を比里比納諸島と云ふ。人口總算六百万、蓋し以上の群島は三百六十六年前
 西班牙國人檢出し王に報ず、當時の王非里比第二世植民し全土を領地とせしめり
 故に住民大半は西班牙人の後裔にして、回教奉ずるもの多し、産物煙草最とせり

街本日の宋呂



砂糖や咖啡、水綿類、鱉、真毒蛇の皮多し
 ○馬尼刺は本島首府、婆羅東北九百余英里
 人口十有四方あり、西班牙領臺官衙あり
 寺院は製造局もあり、然るに地震酷くして
 破壊は属するもの多し、觀る所きものは鮮し矣
 ◎談島嶼は吾々の祖先が移住したる事
 左の文に依り知り、王以下板垣君、歐米漫遊録出
 明治十五年十一月二十二日、我旧自由党の総理
 板垣退助君は、後藤象次郎君並に譯員今村某等
 と佛船エラウワジ一號に塔し支那海を航行せ
 らせし時、會ま西班牙國の領事某と同船せらる
 板垣君以下の諸氏彼の領事と種々の談話あり
 し、然るに談領事は久しき東洋の職を奉じたる

入ふきは最も能く其事情を審かこし余が為め説を詳せり矣呂宋即西班牙領の如きは
 現す日本街と稱する處ありて今猶ほ日本語を用ひ祖先が墓碑等歴々遺存するものあり
 余曾て之を聞々中古倭寇と稱する者支那及び南洋諸島に渡航し其民を殉へ國を建つる
 の事ありと今領事の言に徴し果して其証ならざるを信ず願ふに我國戰國の世に方りて
 人心慄慄として敢為の氣象あり重洋の險を冒して絶域窮島に遠征す猶ほ且つ歐洲の民
 口議らざりし者あらん徳川氏覇を定め政を執るに及んでや巨艦を造り海外を航するを
 嚴禁し専ら鎖國の治を布き加之封建の制は邊隅割據の風を長じて以て自ら天地を小
 す噫政治の世を害し民を誤る亦た酷い哉云々

編者曰く右日本街の事たるや吾國の人口にして未だ實際を目撃せし者あらずを聞かす
 然ありと雖ども西班牙國の領事にして己のが領地の事を説くものなきは必ならず
 信するに足るべし予や是のあとを聞きし以来日本街の真番を得んと欲つし大方に
 求むと或へども未まば其の正確なるものを得ず且つ五巻出版の期遷延するから

澳國土人之番



ず因で仮りに右想像の番を雲
 煙渾々の間存んし置き他日
 を期し真物を示めするし看者
 請ふ諒焉

澳大利亞洲總論

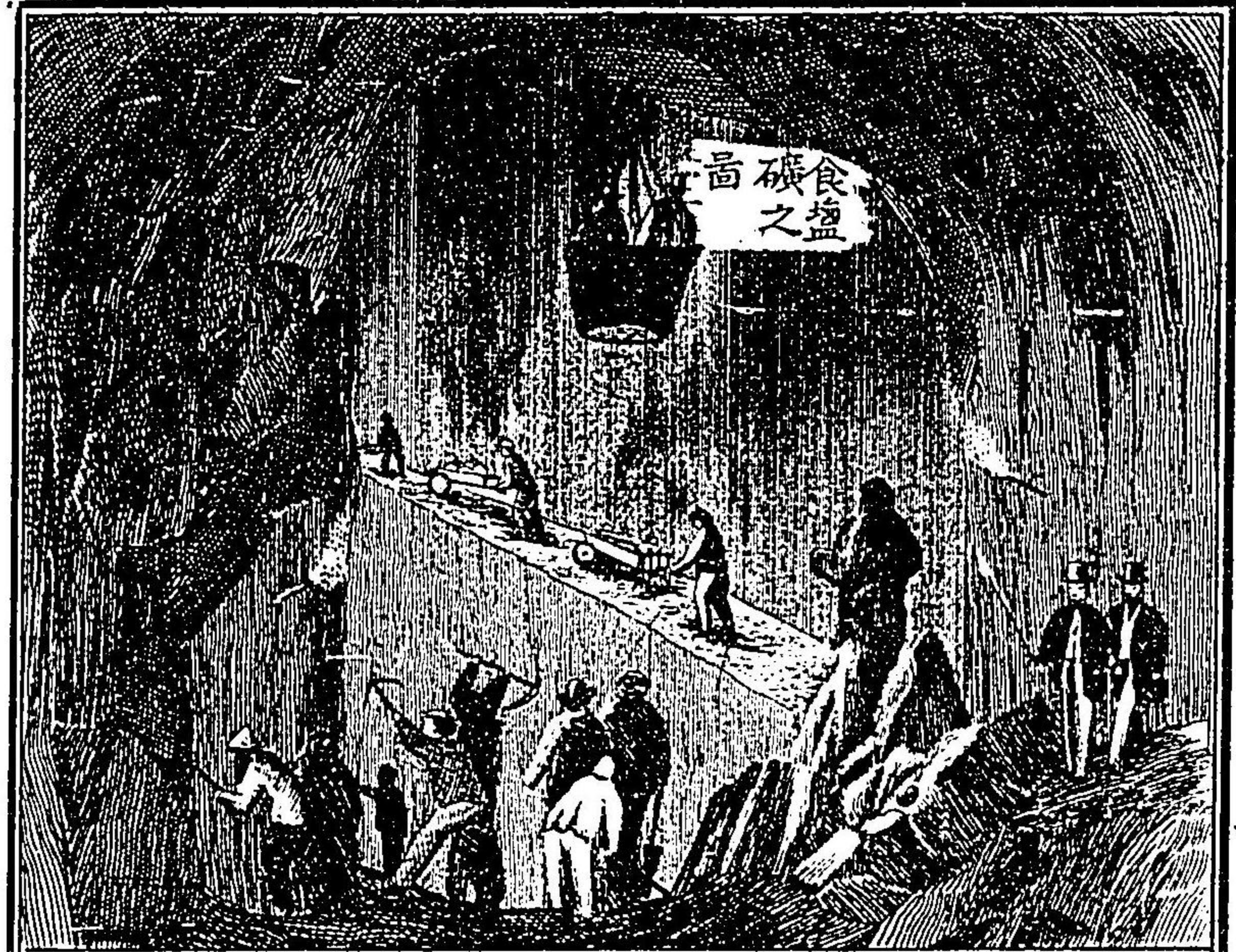
澳大利亞一名を新和蘭といひ亞非利加と
 南阿米利加大洲の中間にある大陸地
 並に、プア、タスマニア、新ゼーランドの三大島
 其他近傍大小の島嶼の總稱なりと知を
 ペプア一名新ギニアとせしは和蘭の屬地あり
 土蠻の部落は未開なる酋長所轄分領す
 右のペプアを除く外悉皆英の領地にて
 其面積の廣きおよそ三百十有六万と

ANIMALS IN AUSTRARIA



澳の地勢は其周圍大略山脈圍繞せり
内地は總て阿非利加の撒哈拉の沙漠と異ならず
見る者をして一新に造成したる大洋の
底かと疑念を起さしむ。
氣候は北西卑濕なる海濱の他は人身の
健康上好々適す内地は乾燥亦熱し
河流は墨來至大なりマニラムビヂダリング
皆墨來に落ち南流す長さ一千八百英里
産物中の主なるは金銀珠多々して
銅鐵食鹽石炭や。
本土の蠻民頭髮は色黒々として捲縮し
皮膚は銅の黧き心の眉は鬚然長々垂せ
鼻は闊々匾くは甚醜々殊に彼の

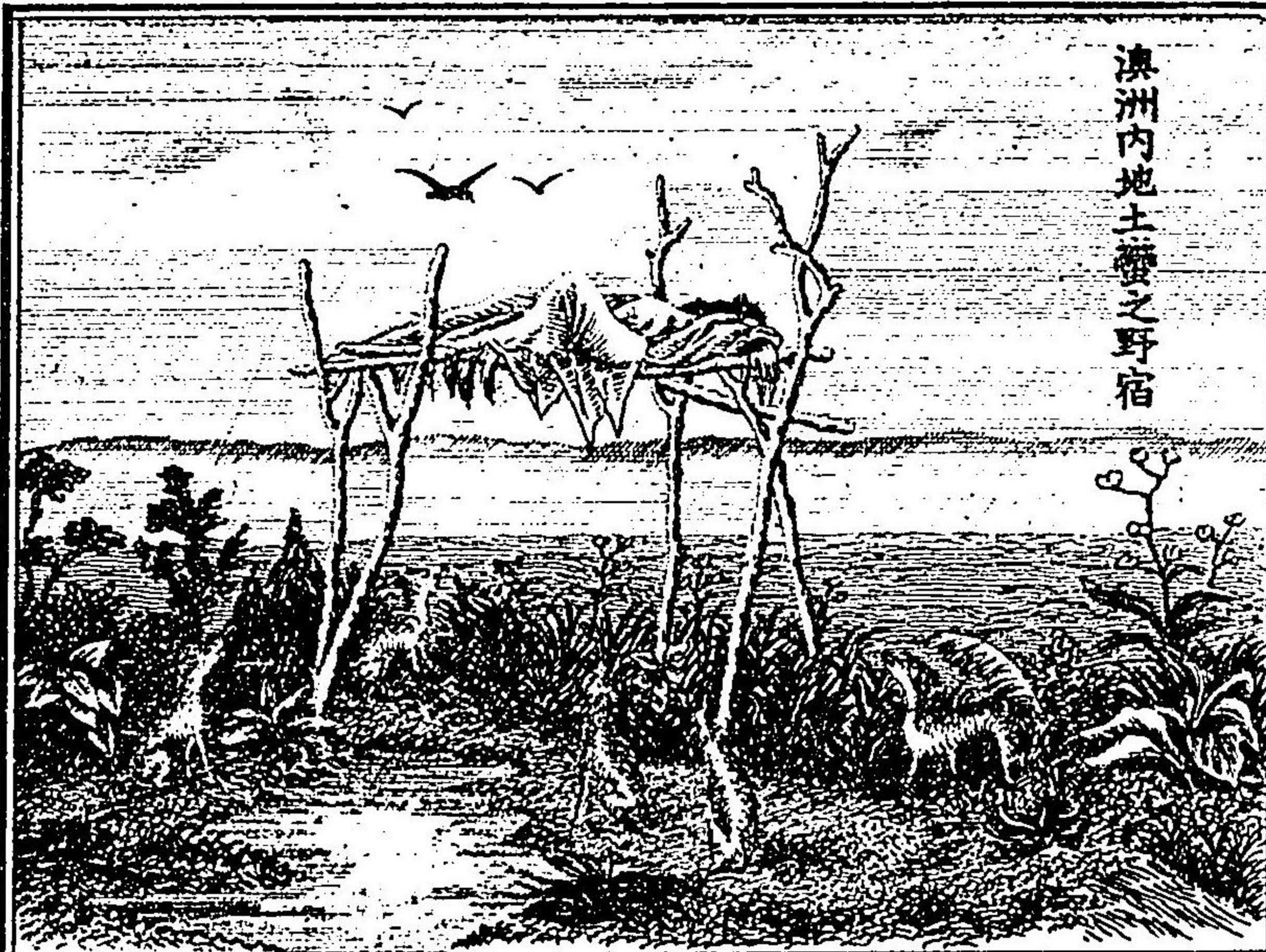
VIEW OF SALT MINE



| | | | | | | | | | |
|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 達斯馬尼亞島 | 新西蘭島 | 西澳大利亞 | 維若多利亞 | 南澳大利亞 | 君子蘭 | 新南威兒士 | 現太守 | 面積英方里 | 人口 |
| 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | | |
| 二六三七五 | 一〇五三四二 | 一〇五七二五〇 | 八七八八四 | 九〇三六九〇 | 六六八二二四 | 三一六三二〇 | 三一六三二〇 | 八一七四六八 | 三〇七六六 |
| 二二二四七九 | 五六三六〇 | 三〇七六六 | 九〇六二二五 | 二九三五〇九 | 三四八二五五 | 八一七四六八 | 八一七四六八 | 三〇七六六 | 三〇七六六 |

五千八十五方英里人口二百九十有
八万二千五百あり即ち大約歐洲の
四分の三に當るべし。
英國政府は右の地を七部に分ちて管轄す
一部に太守一名と上下二局の議會あり
左の表に依り詳知せよ

七四百 FIELD-LODGING OF NATIVES IN THE INTERIER OF AUSTRALIA.



澳洲内地土著之野宿

APPEARANCE OF THE NATIVES IN CENTRAL AUSTRALIA.



狹容之蠻土地内洲澳

APPEARANCE OF THE NATIVES IN PAPUA.



貌容之蠻土島アペ

• INHABITANTS AND THEIR PROPERTIES OF THE AUSTRARIA.

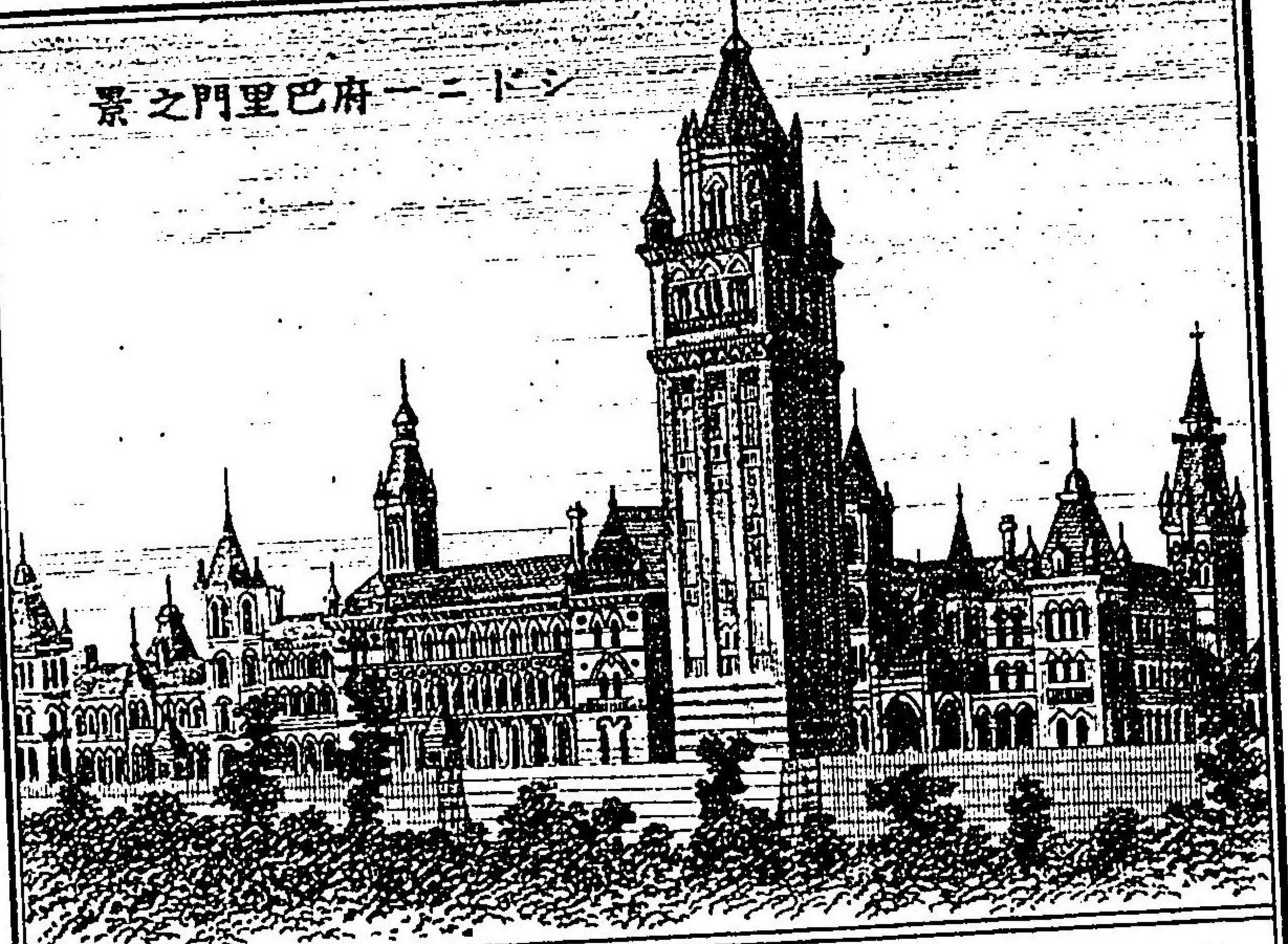
澳國內地之人及土產



ペプアの如きは其容貌極めて醜惡其鼻は上方より反し唇は前より突出したる上獸骨木尖等を以て鼻の軟骨貫通し益々奇怪の面をかす。

澳洲内地の蠻民やペプアの如き蠻夷は人類中の下々の下最も下等の者にして人倫の道知るるを々知覺素より開化せず唯天然に知るものは男女の情と饑る時食を求むるのみとして所有品は海産の具一二と袋鼠の皮を以て造りし單の衣のみ其食物は獸魚介蟲類等を生で喰ひ火食するもの更なるし猶蠻民の事付記事なきはありきと阿非利加洲と大差なし

景之門里巴府一ニドシ



故に今亦贅記せず。

右らの如き蠻國に吾日本より教等の
上位を占むる文明の美花爛然たる開化の地

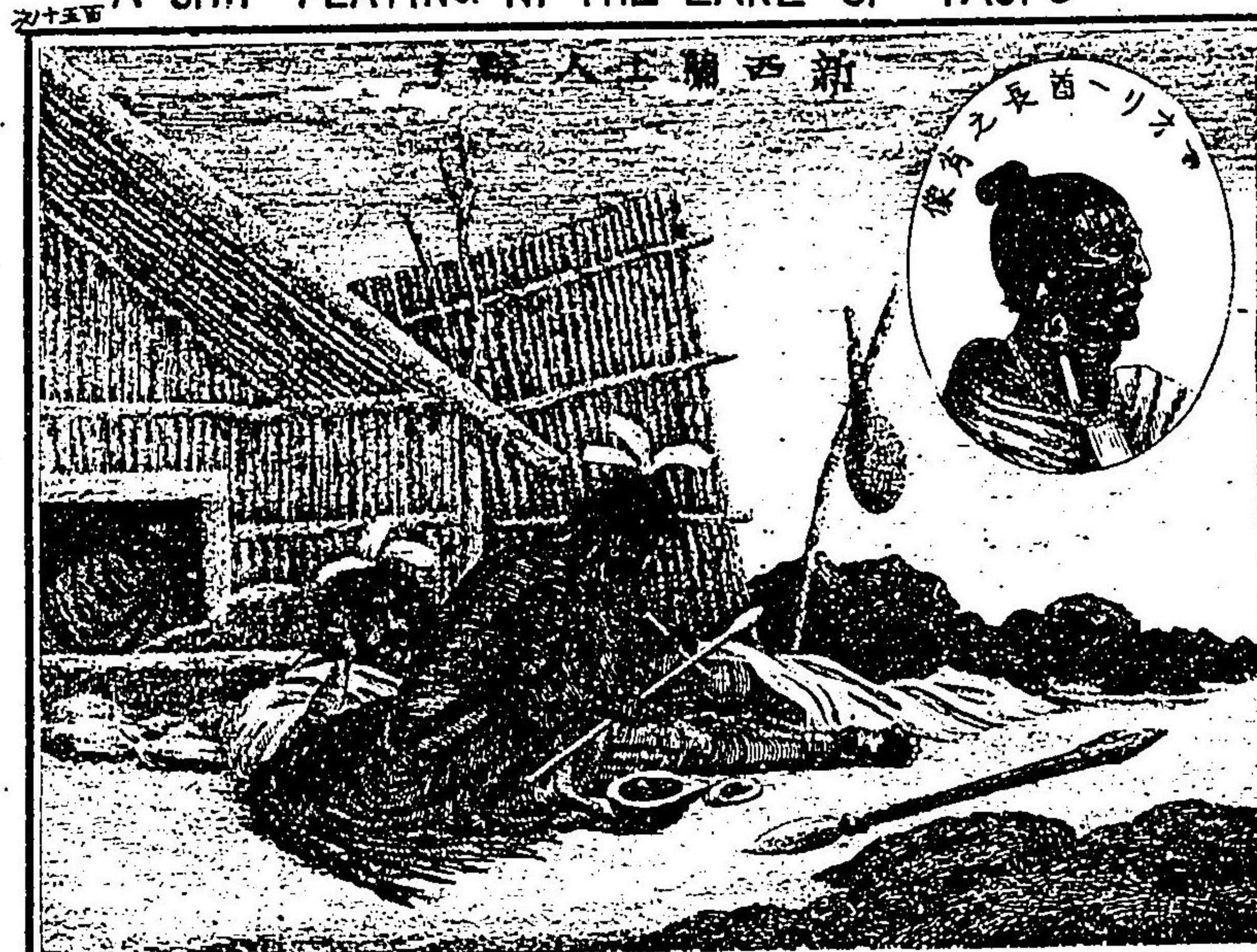
シドニー府より記載せん。

シドニー府之記

シドニー府はニューソウスウエールスの首府として
ポルトヂヤクソン良港の海濱にあぶ都會あり
人口十有三万人。市内は給て礪石を鋪き
瓦斯燈ありて夜明々。地下水道の設あり
市街美麗の家屋中。パリーメント國會を始め
大學校や商會所。會堂病院博物館
郵便電信停車場。製作場や商郵等
巍峩宏壯の巨館あり。

扱てニューソウスウエルスは澳洲各地植民の根元として英國は今より九十八年前
このシドニーの海濱に流罪の徒刑場を置き其罪人を救免し荒野を開墾する毎に
土地を與へて住ましめり。一千八百四十年徒刑の移住を廢したり其後は良民日に移り
月一歳に住せしか。當時大貌利顛のアルジェームルスキン氏と該地のダブリンビクラケ
兩氏は早々此國に金礦脈のあるを知り世に公言し探りしが果して些少の黄金を得て
其後倍々探りしが。当ニューソウスウエルスのグリーンブス氏は此府の西方にあるバズルスト
ヂストリントと云へる地に至大の金山発見す。此時實に今を去る三十五年前ありし
當時各地の人民は皆金山に着眼し先を争ひ移住してシドニー府の隆盛は
旭の昇る如き。今之盛とありしあり」
シドニー府の國會は英國王より命じたる立憲自由の政府なり。立法部は立法院
立法會の二局あり。立法院は二十有一人以上勅任の議官ありて成立し
立法會は民選の二百十三議員あり。行政權は大守に委託し然して責任の
内閣員は九人あり。以て大守を輔弼せり。大守は勅任官として軍隊都督を兼任す

PROCESS OF TATTOOING, NEWZEALAND.
A SHIP PLAYING NI THE LAKE OF TAUPO



坊頼長宝盛松

VIEW OF MERBOURNE.



メルボルン府之記 シドニー府より海上六百英里余
メルボルン府は維多利亞州の南端あり人口二十九万人、澳洲中の大府あり。当府は五十一年前ハンチンゲンズランドよりバットマンとバウクルの二氏各一隊の移民を率ひて此地に移住せり。当時は曠野に羊を畜ひ、僅に耕作したりしが、彼の有名なる金礦のアレキサンデル山及びバルラントとベンチコの見後は諸方より人々此府に來航し、非常の進化を顯して、文明都府の一と云ふ市街の景狀シドニーと大差をけきは贅記せず。

新西蘭島之記 シドニー府より海上二百三英里、本國英艦動より一萬六千英里
新西蘭は澳洲の東南二座の大島と

LYING AT STATE CHIEF OF NEWZELAND:
AN ENGLISH OFFICER.

一五五

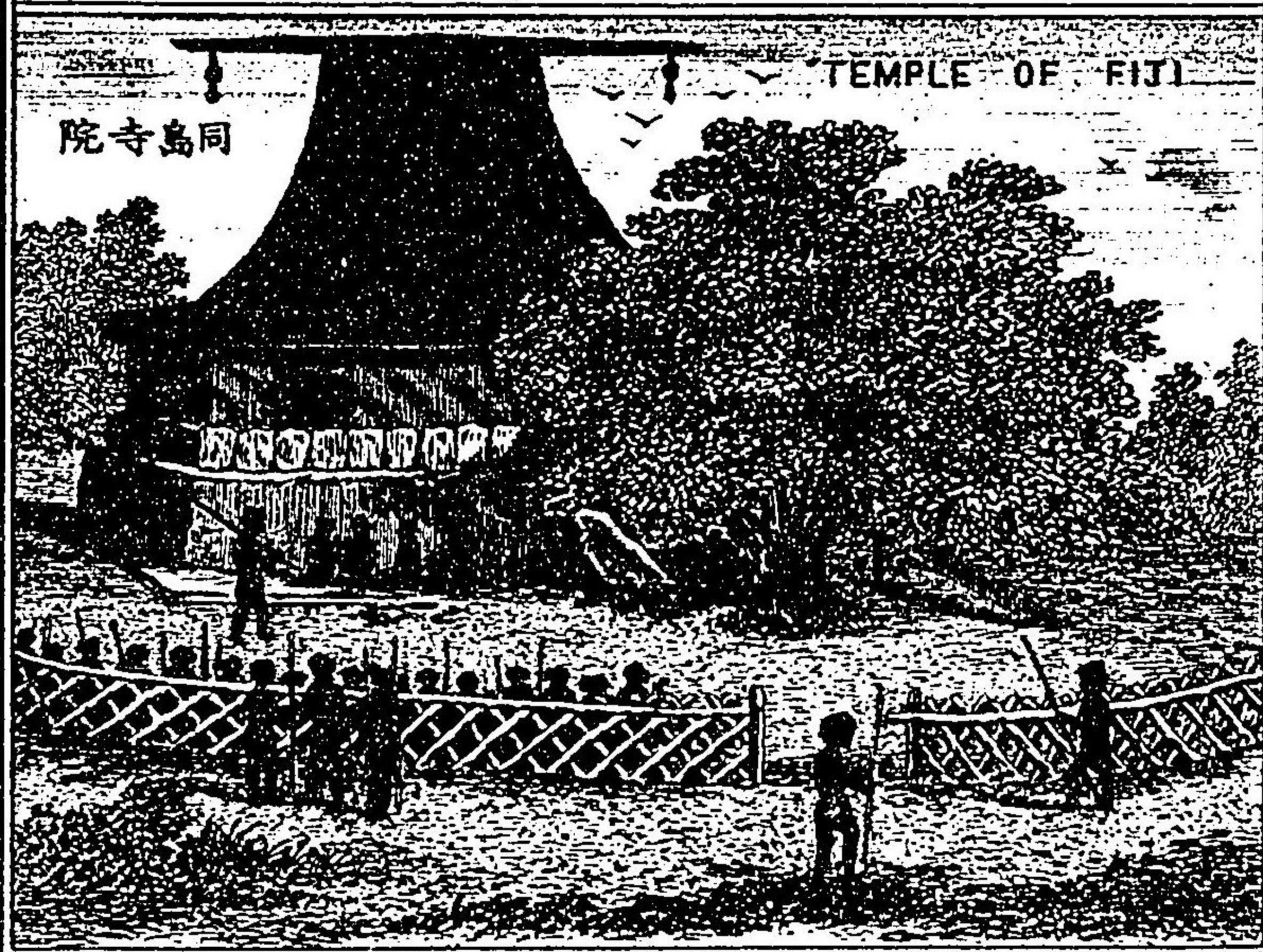


英國官吏並に政廳

一座の小島及其近海諸島の總名あり
首府をニヂン府といひ人口二万五千あり
今より二十五年前の近傍は大なる
金坑を發見せし以來大に繁華の都府となす
諸此島は今を去る二百四十四年前
蘭人達斯曼發見し其後一百余年を経
英の船將クーク氏は兩次來りて測量し
一千八百十四年耶穌新教の宣教師
土人を傳道教化して開化せしめり然る後
一千八百四十年英國政府は酋長と
條約を為し領地とす
其他澳大利亞中ソロモン諸島を始りて
幾百千の數知らずやをどと逐一記載せず

三五百 NATIVES OF FIJI ISLAND

人土之島イジイフ



院寺島同

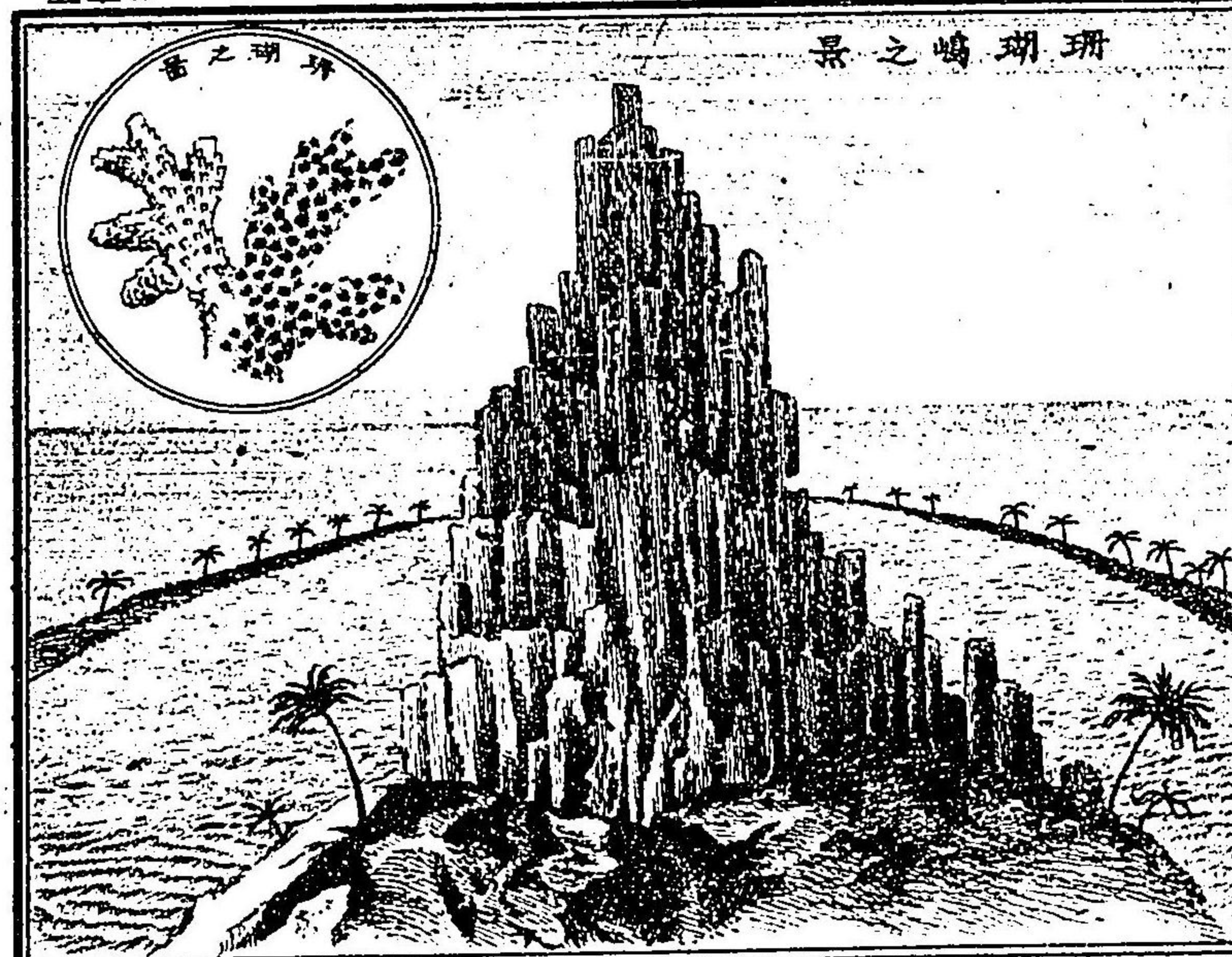
TEMPLE OF FIJI

IMAGE OF SACONBOU KING OF BOU, AMONG THE ISLAND OF FIJI. 二五五



フイジーアイランド之内
ボウ島之王
サコンボウ之肖像

波里尼西亞之部 （南洋の諸島を包含する）
 波里尼西亞とは赤道の南北三十度以内
 大平洋の中部に散見したる数々の
 群島を指す総名なり （サンディエゴ、ハワイ、フィリピン、マリアナ、ミクロネシア、ポリネシア、メタネシア、タスマニア、ニュージーランド、オーストラリア、イースター島、パプアニューギニア、ソロモン群島、バヌアツ、フィジー、トンガ、サモア、ツバル、ニュージーランド、オーストラリア、イースター島、パプアニューギニア、ソロモン群島、バヌアツ、フィジー、トンガ、サモア、ツバル）
 アと総稱す我小笠原島は其部を屬す
 シー諸島は新西蘭の東北一千五百英里余
 ○フイジー諸島は二百余の小島を合せ成立てり
 面積総計する時は七千五百方英里
 人口二十二万あり此諸島は今を去る
 二百四十三年前蘭人達斯曼發見す
 談島一の悪風あり木石以て神となし
 嬰兒を殺して犠牲とし且つ男女とも殺さむ
 犠牲とせしむるを此上かき名譽と思なし
 頑陋衰きの俗なりし然るに爾來米國や

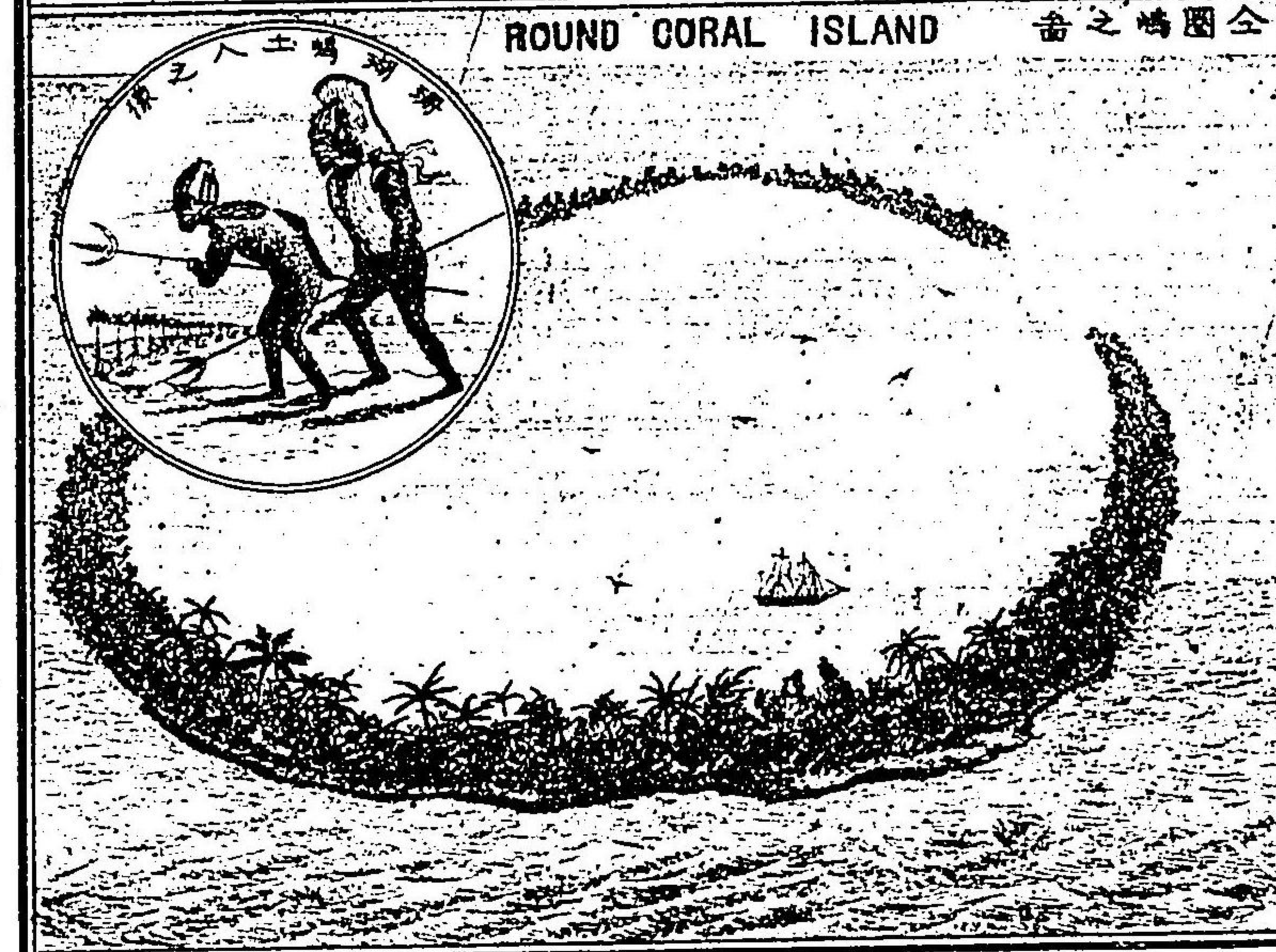


珊瑚之島

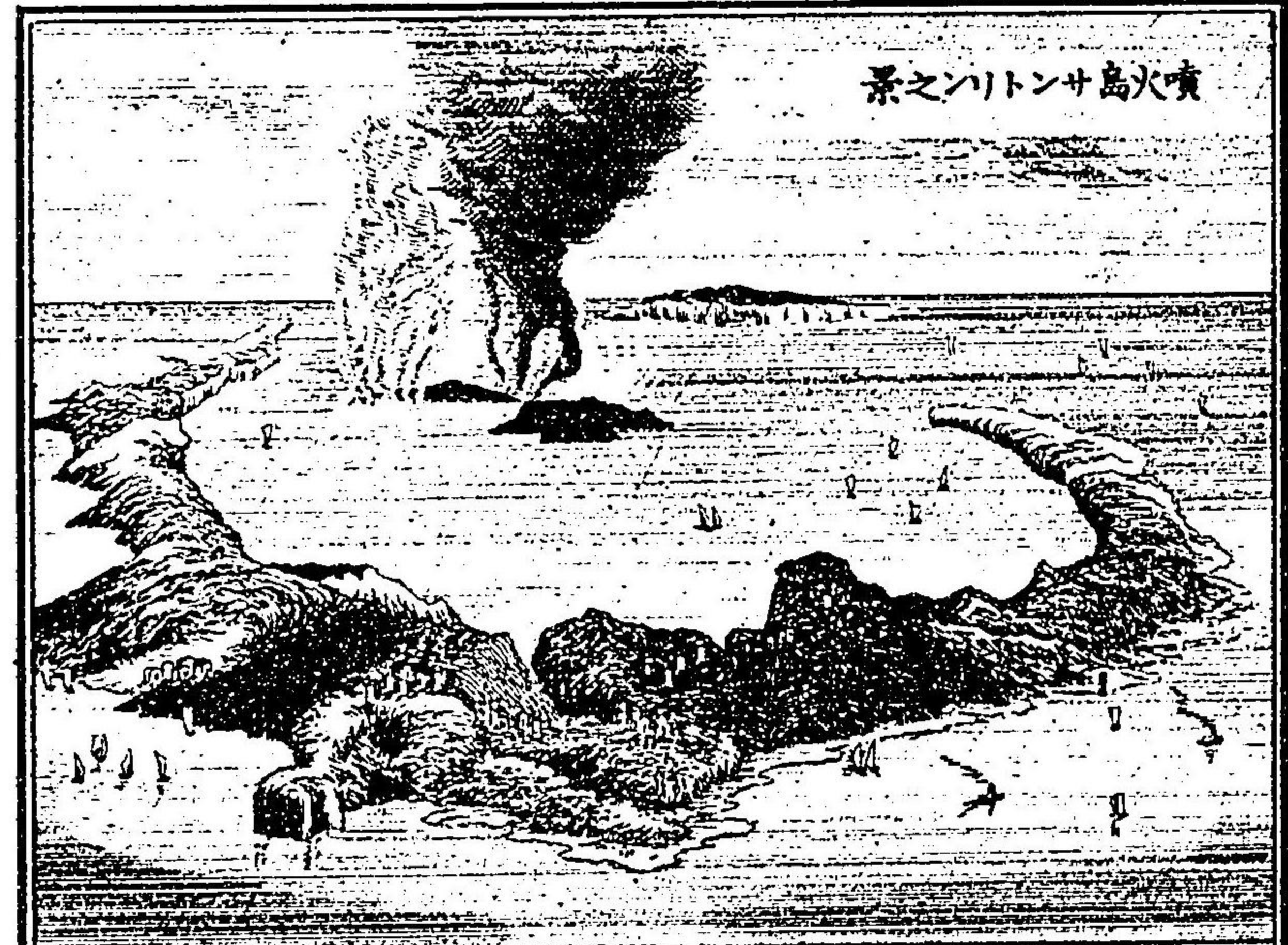
珊瑚之島

ROUND CORAL ISLAND

珊瑚之島



珊瑚之島



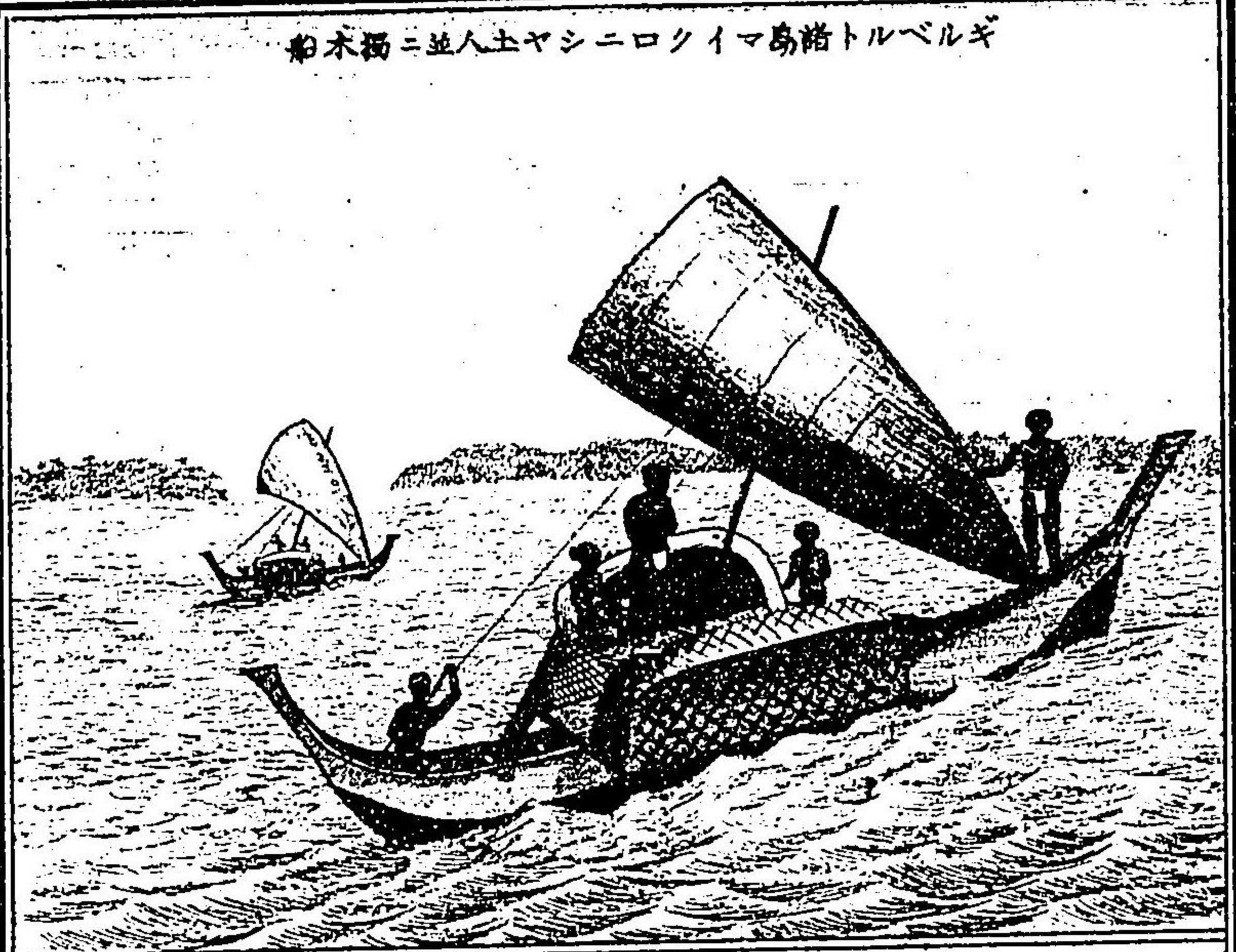
噴火島サントリン之景

英國日耳曼宣教師類々盡力傳道し
 文字や其他有益の技藝を授けて教化せり
 ○此邊噴火島多しサントリン島地味給て
 硫黄の塊山をかす噴火口は數年前
 一千八百フヒト余の高山かりしが漸々
 低々かりて畝の如く奇觀を呈す該島は
 四十一方英里あり人口一万三千余
 綿酒無花菓生産す
 ○又珊瑚島多し珊瑚は珊瑚蟲と云ふ
 多足微小の海蟲が炭酸石灰鹽を以て
 工作したるものにして里積數十里に至り
 草木繁茂し人畜は島上安全生活す
 此蟲初めは十五丈乃至二十丈余の

吐月社

卷之五

船木獨ニ並人土ヤシニロクイマ島諸トルベルギ



海底ニある珊瑚の中ニ藏きて生息し
海底凸處ニ基礎を建て漸次疊積海面の
近きニ至り葉を停む而して海上ニ隆起すは
二因ありて其一は波浪之を砕碎して
粉末漸次ニ積堆し海面ニ出ると其一は
地中の熱き力にて基本の凸處崛起せり
又其形狀種々ありて周圍ニ人畜生活し
其内海水を湛ふあり船暴風ニ遭ふ時は
圈中ニ入り害を避く。

○ギルベルトは赤道の直下ニ位す諸島にて
フ井ジ島より北の方一千二百英里あり
此諸島又米國の傳道會社の宣教師
屢々渡航尽力し近年大ニ教化せり

談島土人の使用船何れも單一獨木船其帆最も大にして駛行迅速土人らは
甚ど巧みニ使用せり。

尚ほポリネシア中数千の大島小嶼あるをれと逐一枚擧げ遑かじ其人情や風俗は
大同小異又奇あし故に今左に我國の小笠原を記載して一先五卷を欄筆せん

小笠原島之記

ギルベルト 諸島マイソロ子シヤより
西北三十五百英里東京より七百五十英里

此島數年前迄は地學者総て波里尼西亞群島中の一とせりさきども近年小列し
ニコロニアの一とす大小十餘箇其中の主なるものは父島と母島及び巴連島の
三つに別てり談島は文禄二年豊臣小笠原貞頼なる者此島を初めて発見し其時
諸島種々の名を定め標木を建て領地とす此時住民更にかや一名無人島といふ
寛永年間故ありて渡航中絶したりしが享保年中貞頼の後裔貞任上書して
全地を檢す是前後大坂土佐や越後等の商船颯風ニ遭遇しこゝに漂着淹留し
五ヶ年乃至十年間或は二十年を経て歸りし者も多々あり天保中より外國人
移住するもの稍多し其後文久年間幕府は水野筑後らに命じて其地を開墾せむ

小笠原母島之石門



四月繪判

然るに僅か二年にて中止したり爾る後
 高松平賀國倫や仙臺林子平等
 皆此島に着眼し屢々上書したりし
 徳川幕府頑固にて更ニ採用せざりしか
 降て明治九年より我属嶋と確定し
 専任官吏を派遣して開拓事業を興起せり
 其翌十年全島を内務省の所轄とす
 此時外人移住者は十八戸あり其内の
 三戸は我ニ歸化したり爾來内地の人民も
 續々該地に移住して開墾大ニ移り
 其より明治十五年東京府ニ直轄し
 出張所を設置して南貞助長となる
 是より先ニ我國の刑法頗る改正し

歐米諸國と大差あり移住の外人聞知して悉皆我ニ歸化したり然るに同年六月ニ
 歸化の外人窃盜の科を以て重禁錮一月監視六月ニ處せらるしより他の者は
 種々の苦情を唱へしが折柄昨年四月中同地居住の人民ら嘯集して會議所の
 改革の儀を島廳へ強願せしが首犯者八名東京ニ護送さる本年二月重罪ニ
 處せらるしより歸化民益々苦情を云ひ出して寧ろ我々本國へ復籍するに若かんと
 本月父島歸化の民ホトリスヤニテヤは米國公使へ同島の南袋沢の民
 テヒットウエブスと香英國公使へ母島のフレデリックロルフスは日耳曼公使へ各自みな
 復籍出願を以てり以上は該島略史なり。
 叔父島は群島の中央にあり其周圍二十英里旭山や鑓山高を峙ちて
 連山樹木鬱蒼たり其西岸の中央を袋澤と総稱し稍平坦なる處にて
 時雨の濺や布瀧の勝景ありて此諸水集り西に流るを八瀬川と云ふ一見港は
 西北方の灣にして群島中の良港と稱し灣内四方二十町大村奥村扇浦
 洲寄の諸村駢列し居家住民のある處扇浦は東京府出張所の設あり

小學校や會議所何せし近年建築す港口にある一島を野羊島と名稱し
 飯盛山は高きして入港船の標準となる岸下の三洞門ありて頗る奇觀を呈し
 巽港は南端の小灣として南寄巽港と相抱き遙か見ゆる母島の
 乾寄と相對す属島中の大なるは兄島弟島となす之に並けるは東島
 西島北島南島各其方位に從て此名を附せり諸島皆断崖絶壁攀じ難し
 ○其母島は父島の南方二十三英里周回三十四英里余を以て
 父島如き利益を乳房山や劍夫山並び連り各樹木林を成して繁茂せり
 西南灣は沖村港内外人民移住せり東岸右門岬といひ崖下の石門三箇あり
 海潮通じて航行す属島娘島妹島向島や平島や姪島等あり各島み
 東南方より並立す・巴連島は父島の北方二十英里余の島並び峙り
 又近傍に数嶼あり何せし岩石重疊し今尚無人の群島なり○産物山野の野羊野豚
 野雞並に信天翁至大の蝙蝠等にして海には鯨鯨鯨魚や龍蝦鱈魚等とす
 樹木は杉檜椴櫚桑・芭蕉水蠟樹等にして甘薯甘藷や馬鈴薯や蘿蔔や西瓜と烟草は

何せし内地の移植物 其の皆を克く繁殖す

編者曰く左の一編は本年一月十五日刊行の時事新報より抄出したるものなり新報記者
 は之を東洋の小ロビンソンクルソーと題し数十日の紙上に掲載せしものにして文中
 小笠原現時の實況を知るに足るべきを殊に田中鶴吉氏が十一歳の時自ら米人に備はせ大
 洋洲より米國に渡航し多年非常の艱難を経て漸く天日製塩の秘法を収め業成りて歸朝
 の後不幸にして用ひられず再び千辛万苦を嘗め單身振て小笠原無人の一島を拜借牧畜し久
 しく牛羊を友とし獨居数年其功空からず頃日漸く衆人永住の基礎を定め國民民福を増
 進せんが為め熱心粉骨將に一大製塩場を創立せんとする偉績の如きは實に古來我國に
 於て多々見聞せざる所其行為美德の後進小壯者に至大の警誡を與へ殊更三志勉業上龜
 鑑と為すべき者多きを知り特に紙教を増し左に其要領を摘録す

項は慶應元年幕府瓦解運の時江戸の旗本、田中右馬の允といへる人あり此人一男四女を
 擧ぐ男子は其時十一歳即安政二卯年の生れ名を鶴吉と呼び年々似合ぬ頑惡兒近所四隣の児
 童を畏め已に饑鬼大將として荒き廻るころ双親は天に心配し男子は一人子鐘愛も又淺

からずやせど七乱暴甚しきを以て時々嚴重の折檻をふし懲治すと云ふ鶴吉は更だ改心せず
 兩親も今は詮ふしと殆ど構ひ附忍程かりしが鶴吉も小供心に兩親を氣の毒と思ひ我々無は父母
 こも此苦勞かからんと一日家を駈出し幸ひ横濱にある知己の者を尋ね行きて其世話となり
 或る商館の丁推奉公はのみり居しが当時米國の汽船某號の船長ウキリーモンと云へる人
 あり右の商館に來りて鶴吉に成せんと與に米國に行氣はかきかと言はせ鶴吉は大に悦び伴
 き行かん事を請ふ然るにウキリーモン氏も又大に悦び次の出船には必ず一所に渡航すべし
 と二人恣に約を定めたるに商館の主人を始め鶴吉が知己の者も其大膽に驚きしと思ひ返ん
 で踏止まざる様子の見へざるより雇主は江戸の親元へ其趣を知せ遣りたり當時は開港日淺
 く外國の名さへ碌々知せざる位の事かきは兩親何を愕かざらん急ぎ來りて鶴吉に面會し其
 不所存を詰り且慰め亞米利加とやらへ行事は思ひ止りて親と與に江戸に歸り父親も安心さ
 せよと辭を盡して説諭しも向ふ見ずの鶴吉は只亞米利加と云ふ見た事なき國へ連き行か
 るを嬉し事と思ひイツカナ承知せず母親も困り果てた涙を暮る許りて左程親の諫を
 用ひず異國に渡りたるは最早母は構ふまじ勝手なせよと返つとも念志の餘り暇まきしを

鶴吉は此上なき幸運かりとして遂に其年船長の世話より出發せしが此船は南洋諸洲の航
 海船鶴吉幼兒の事をきば澳か米かは知らざるをシドニー府やメルボルン其他の各地の上陸
 しウキリーモンのボーイとなり日々の仕事も軽か良き素より伶俐の質をばウキリーモン
 氏も信切に愛撫し船中の一二年使ひ居りしが此汽船一日米の港あるサンフランシスコに寄
 港せり鶴吉は当初志願の米國と聞きて大に悦び吾何時迄船中のボーイ奉公を為すも往く未
 待み甲斐なしと是に早々も心附き主に語ればウキリーモン實に先と承諾し或る商館へ世話
 しこり此時鶴吉は二十弗許の月給を貰ひ且夜學校へ通學するの餘暇をも得るきは深き悦び
 將來を期して忠直勤勉怠ならず丹誠凝して奉公し五ヶ年間を経たりしが貯蓄金の額五百弗
 こなきり此時は明治四年にして年齢十七歳なりし
 当時米國新聞の報する所と日本より渡來せる官吏商賈等の為め通譯せし傍日本の近狀を詳
 こし我双親並に姉妹は幕府の瓦解と共に如何成行しかと心附安き心もなげ且思へらる吾幼
 き時親の悲嘆をも顧みず生別き同然海外へ漂流し七ヶ年間一封の雁信さへも送らず噫又不
 幸なる哉責ては父母へ聊かきと彼の貯へ金五百弗を送り併せて我身の安否を知らせんと當

桑港の日本領事館へ依頼し待つ事半年間にして該金其依歸へり来きり鶴吉驚き仔細を尋ぬる其筋に於ては兩親の住所は勿論其他各所を隅々を探りし行衛知せずと聞きしより多年の宿志も水の泡惘然悲酸限りかを日夜東に向ひつゝ不幸の罪を謝しながらきて思ふやう此上は如何に嘆々も仕方なし今より此地に一藝を見習ひ業成せば日本に立歸り國家の爲め身の爲めに尽すべし尚幸ひとして父母も此世に在すともあらば慈顔を拜し詫せんと一念非常に感激し何かお為さんと祈しが丁度此頃桑港より西の方六十英里を距るルックアイランドに一種の製塩會社を創立せし者ありと聞き彼の五百弗と外に所有品の賣却金二百弗を懐し社長パトンの許に至り職工役夫を備へ入せん事を請ふ然るに該社の製塩法は新奇新法パテントを有し秘密を旨とし入社を許さず再三再四依頼すと虫も更に許さず鶴吉も今は殆ど困り果て取り附々使ひなかりしが難きは希望の基とやら尚も社長に依頼して遂に彼の七百弗の盡ん限り一切自費して社の爲に働かへ且つ其秘法一度授けらるるは七年あり十年なり年期を定めて更に奉公致すべし且秘法を口外せずと思ひ切つてを頼みしが社長も篤志に感激し社則を破りて許しとり之を其年の暮かりし

鶴吉は其後一文の手当を貰はず自辨自食入夫の中追ひつら苦役辛勞三年間七百弗の金買は囊中更に無一物なきとも時日と耐忍は桑葉美麗の縮となり潮も光塩とある如く資金は變じて貴重なる新法秘法を了解し社長に非常の信を賣り日本國家の爲めとある財本とあるなり

其製塩の方法は甚だ簡便にして人力を省き水車を用ひ且海水の外他に一の原素を要せずして絶粹精良の食塩を得るなり其品質は從來我國製品の比に非ず猶詳細は時事新報一千八百七十八号以下を熟讀すべし

夫を信任は成功の友とか云へる言の如く鶴吉大に愛せらるる誠社も倍々隆盛の域に達して近傍へ支社を設置したりしが鶴吉支社の長とかり月給八十弗を得て社務を監督総理せり此時は早我明治十一年の事なり

本社社長パトンは元英國の人にして徒手徒足桑港に漂泊せしし此時既に二百萬弗以上入ありしが此新會社を創立し僅々二十年の間は克く業務を擴張の資産を所有したり

時其年上総の人として牧畜上志し米國へ渡航しとるあり名を前田喜代松と云ふ

現今東京飯田町三丁目彼の田中の事を聞き感して已まず直にルックアイランド製塩場に来て田中を訪ひとるよ田中は知らぬ日本人とは云へ明暮床しと戀慕ふ故

國の友と聞しより其悦び云はん方かく嬉し涙にむせびつゝ互に意中を説き明し俱共時利を
 談せしが前田は田中の胆力と國事を思ふ一念を深々と感じて將來に必ず一臂の助力を為す
 べしと約し田中は其より社長に暇を請ひ卒業証を受け西人桑港に至りて領事柳谷氏の添書
 を貰ひ該二通の全文は略す其より前田の通譯を為し米國各地の牧場を巡廻し其翌十二年十二
 月桑港を發して芽出度歸朝したりしが前田氏は吾が牧畜の業は暫ら々打捨て置て田中鶴吉
 の為めに周施尽力至らざるなく漸々他の豪商に説き地を東京深川の先平右衛門新田にトし
 以て試験場を充て二十町歩を借りて田中鶴吉萬事之を監督し工事日ならず成功す
 斯てイザ海水を引用し公衆に賣地の手際を示さんとする其前夕不幸なる哉品海波荒き怒濤
 岸へ衝き上り折角構へたる彼の試験場は皆碎け跡をも止めずかりけり元來品海は南風強
 し然きども田中は
 心附ず只一回の試験場をせし田中の失望は勿論前田其他の資金さへ九で水の泡と消へ此事噂
 ば波除を為さざりし故なり田中の資金は勿論前田其他の資金さへ九で水の泡と消へ此事噂
 高くなり投機者なりと流言し信ずる者は更さかじ故に前田は田中より旅用金若干を與へ全國
 の製塩場を巡回せん事を謀りし田中も實に直ちに立立し徒歩木賃宿泊しつゝ關東沿
 岸の製塩家を隅かく巡回し其利を説き改良法を薦むと虫も馬耳東風誰一人與みする者はぶ

三月余りの長の旅目的立す歸りしが前田氏曰阿波は關西有名の製塩場なり而して徳島の
 群長某は予の知己なせば彼の地に行々べしと又もや東海道を徒歩し遊説しながら阿波に至
 りし群長も大に感伏し試験せしが果して良結果を得たり然るに談地製塩家は之を好まず
 皆旧法を尊び反て新法の経便して精良なるものを顧みず或は日之を食へば熱病を發すべし
 と田中は遺憾怨恨の遣る方も多々多年の辛苦経験も是にて望絶しとりと直に歸途に就き旅
 今は旅用の金もなを食同様の姿とかり沼津驛に來りしが腹減つて歩み得ず悪しと知せ
 ど途上ある羊の島に踏み入りて生の甘薯を盗み取り食はんとして警吏に咎めらるる二日間警
 署に留め居る筆紙に尽せぬ難を経て十四年の三月漸く東京に歸着せり
 田中は又目的を達せず前田の事實を語り且曰々行路の艱難素より予の期する所なりと虫も
 斯を勉勵め勵むも尚ほ未だ衣食ども獲る能はず君に對すも面目なし故に今より七八年間は
 断然製鹽事業を思ひ切り他の職業に身を委ね往々製鹽の地を造らんと其より商館の手代と
 あり北辰社の牛乳配
 達夫とあり其他種々の事情ありしと虫も前田も之を替成し兎に角時機を待せよと或は慰め
 一時の小困難に過ぎざるば茲に警記せず前田も之を替成し兎に角時機を待せよと或は慰め
 且曰々予思ふに南洋小笠原島は氣候温暖にして終歲雪を見ず四時綠草絶えずと聞々是を適

当の牧畜場なり君牧畜の意なき乎と田中は確と手を打ちて貴下の仰せ尤も至極諛地は温帯
 地方也へ天日製塩上又極強の地なりと打説語前田は然らば東京府廳へ出頭し其拜借を願は
 ん聽て出頭したりしと聞届難の指令あり依て兩人再び勸業課へ出頭し事由を陳べしと蹴ね
 返さき失望落膽為しとれど這回は當時の知事なりし松田道之氏の邸を尋ね願意の次第を告
 訴せり松田知事は兩人の篤志に感じ且曰く汝速に諛島に渡航し有する島嶋を穿索し良き土
 地あらば改めて拜借を出願すべし力の及ばん限りは之を助力せんと仁愛深き指令の情兩人
 大に悦びて前田は田中を旅用を與へ支度しそよく便を得只一人漸を諛地に到達し彼地此
 地を巡視して殘る隅なき穿索しが適當の土地又多を悦び勇て立歸り前田は斯と打語り且東
 京府へ出頭時明治十四年八月十有七日也
 政府願意を聞き届け種牛五頭豚二十頭鳥五十羽及び運送費を貸與せり兩人雀躍欣喜して田中は吾
 事業の成らん事必定なりと翌九月初旬人を伴せず只一人品川発の風帆船某号に乗出發す斯
 くて帆船は着しかば父島二見の港より三十英里を離れたる未ま五人の住まざる嫁島へ牛
 豚其他の運送を依頼し彼の動物を陸地に引揚げ米麥小豆若干俵斧鋸と二三の大工道具麻繩

細引及無人島の籠城に欲々べからざる鳥銃一挺燃草燧石一具を携へ其身其岸上へ飛上り
 ては見たれども四面は蒼海渺茫なる水色のみを天と接し眼取の盡る處一點の螺青を認むる
 は是が父島の本島なりとは持めども廣漠なる大洋中の一孤島波荒を風の吹く時は一葉の孤
 舟又海に棹すやうもなき如何せば本島に戻らるべき時は日本の内地より父島迄は一ヶ年四
 回の航海あるかきと此嫁島は人みな又家も産物もなし非せば本國の便船は愚か父
 島へ渡るも容易き事ならず嗚呼今宵より此島に與へ語る一人の朋とて又更なる孤身
 單獨明暮を送る我身の切なき宿らんとする家を命を繋ぐ食事さへ最早火食はなり難し其
 淺ましき生活も素はと云は國の爲め又身の爲に起業して多年の宿志を遂んため去り迎は又
 淺間しき吾身の成り果て天道は人を死地に陥せ復び死地に極ふとか進下當る今際の難味更
 年頃戀慕ふ父母も未だ會はなむ姉妹は何處に居る事か其せさへ碌々知れざる吾又此
 島に獨居して往々先迎し辛と苦の種子かと思へば我ががら坐るに感慨催ふす問も亦帆船
 は破船限りあり松長始め船の人々何せも田中を告げ後に見残す孤島の孤客波間に残す
 水足り也かる田中は此迄の大膽無敵に引替へて只惘然と自失せり

誓をありて我と氣が附斯ては果に何時迄か悲酸の涙を暮るべきと則ち獨り起上り四方の地勢を視察するに温帯地故天然の原野未開の俛として牧場をせばおき彼の動物放飼しなりしも当初東京出しより航路の爲めは疲勞して二十頭の豚の中十五頭は病死して残るは僅か五頭のみ尚氣候の變りて他の動物の死せんかと易き心もふさげ其夜は曠夜に露宿して翌日より尚も氣を勵し動物飼養に従事しは場へ來りし鋸と斧にて樹木を伐採し自然に生へたる椰子の樹を柱と持み其上に椽欄椽椽の最と茂き葉を積み雨露を凌ぎつゝ眞の茅屋只獨り獸を友とし住居せり

然るに米麥大小豆僅か一二ヶ月間を凌ぎ足るも周年の糧は又如何せんおきは総て種子として耕作すきは繁殖し豊饒も又難からず爾よりくと獨り言盡は終日野に出で動物飼畜に勉強し曉き星を戴きつゝ夕は月を踐み歸り淋しき月日を送りしが或る日米麥皆盡て三度の食事し爲し難き携へ來りし牛豚は將來起業の原素ゆへその儘大切飼養して蕃殖せしむを至要とすきせば元より食する事を得ず然るに此邊は赤道に近きを以てバナナと云へる果實あり又海濱に魚類あせば之を捕へ朝に浸して又晒し野火にて炙り食とせり其の状恰かも

仙境にあるが如く又遠島取謫の孤客の如し此果實一時食用は供すべきも結實前と結實の時非せば口を糊するに足らず魚の如きも波高を以て平常漁すべからず又此魚果とも永く保たず其故は氣候暖熱腐敗すきはより以上の食物既に盡る時は也を得ずイチビと云へる樹の若芽を摘みて鹽に浸け火に炙りて僅かに露命を繋ぎし事屢々あり田中氏は或時食盡きて右イチビの芽を食ふ事数日間ありしが菜食のみにては何分氣力候へて働き充分な自ら後ち一策を案じ糞を糞せし時天日曬し乾個せしめ雨露の當りぬ處に貯へ置き一二ヶ月間不漁の用に充て或る時三週間餘り毎日彼の糞をのみ咬ひ居たりし甚しき腸カタルを惹起し爲め島中只一人打悩みし事七八週間及びし賣藥をへし身も附けざりし事也一醫藥を盡さんやうもふく又牧場の牛豚を日毎に監督爲さざる可らざるより病中疾を力め爲めは病勢を添へ一時は絶海の孤島に餓死病没の究鬼たらんとせし程なりし氣丈ある田中が運や強かりけん病勢次第に薄らぎて遂に本復したりしが今は島の風土生活にも熱き病後却て強壯を増したる状態ありし斯て翌十五年の五月迄同人は此絶島に獨居し牧畜の餘暇には獨木松に打乗り四周の島々を巡回上陸し地形を察し居たりしが元小

笠原島は今を距る三十年以前に米國水師提督ペルリー氏が日本に開國貿易を促す砌に東洋艦隊を同處に停め暫く割據を為んとめ教棟の倉庫を建築し石炭兵糧を貯蓄するの用に充て教十頭の山羊綿羊を放ちておきか蕃殖をはかりし当時の成迹今も存して山羊の如きは最も教多き匹教とありしを發見し乃ち之を屠り初めて肉食する事を得たり

此近傍諸島に使用する獨木船は前々番を以て示したる彼のマイクロ子丁島のものと大同小異なきば讀者美看すべし田中氏の使用するものは帆の設けおきが如く思はる蓋し田中氏は曾て土人より購ひたるもの也

抑も動物とは植物が只一度酸化したる後の變體を稱するあり青草化して牛とあるは今眼前見る學理の實例左きは牧畜の事業には非常の手數面倒し入るは言へど一言以ておきを盡せば唯多多くの青草を自然の作用に任せ之を牛と云ふ一種の動物体と變せしむるに在るが故牧業を盛んにするの要は努めて青草の繁茂供給を留るに外ならず而して其供給繁茂果して就きの地か廉なるかと云ふに温帯の地より南して赤道に近寄る所こそ正しき是なるは今更論を俟たざるなり

前段掲げある澳斯太利新西蘭の如き皆牧畜適當の地にして歐洲各國は植民を為すの前提す牧畜を為し漸次耕作せり而して現今は以上の各地皆歐洲諸國の菜園とされり

却て説を田中は撓まず屈せず勉め居りしが十有五年六月某日例の如く澳獵に出でしが前途小島の如き二個の浮びお多しあり近寄り見れば二頭の大鯨魚投鐘行たせし死骸あり田中は神の恵と悦びて忽ち一策を案じ父嶋に行て七十有餘の四斗樽を借り來り日毎に件の鯨魚を矢鱈に及物で叩き切り油質の多き部分を取り手にて押し附け足を以て頻りに踏み締め搾りつゝ油質の沈澱せしを見て搥み且樽へ取り入せり素より無駄損失も多けきど何分二頭の大鯨魚七十餘の明樽は皆膏油にて充ち満てり依て田中は又もや之を父島に運び行て或る商人に賣却し二百餘田の金を得たり就ては之を資本とし大に為すあらんと其月初めて東京の恩人前田の許に歸り事情を詳しし物語り互に大に悦びつ尙東京府廳へ出頭し前後の始末を具陳し洋牛二頭と綿羊五十頭を拜借し其年十一月の定期帆船に乗りて歸島せり然るに其砌り前田氏は田中が孤獨を案じ信州の人某當時二十二年の書生一名を連を歸へらしめ且田中は拜借動物の外に米麥若干俵と耕作用の道具を一通り自費にて購求し歸島後は件の書